

CF2
3
03

憲法 目録

- 第二章 共和政治ノ政體
- 第三章 共和政治ノ大統領
- 第四章 元老院
- 第五章 議院
- 第六章 考議官
- 第七章 大審院
- 第八章 總規則及假規則
- 憲法改正スル千八百五十二年十二月七日ノ元老院決定書
- 十一月廿一日及廿二日ノ國民公投票ニ因リ確定シタル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ヲ布令シ
- 勅令法律ト爲ル千八百五十二年十二月二日ノ勅書
- 千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ノ第四條ニ依リ保那巴ノ家族中ニ於テ帝位ヲ嗣ク可キ者ノ順序ヲ
- 確定スル千八百五十二年十二月十八日ノ憲法ノ基礎タル勅書
- 千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月廿五日ヨリ三十一日ニ至ル
- 元老院決定書
- 帝位ニ屬スル入額ヲ支配スルニ付キ千八百五十六年四月廿三日ノ元老院決定書
- 攝政ノ事ニ付千八百五十六年七月十六日ノ元老院決定書
- 第一章 攝政
- 第二章 攝政ノ會議官
- 第三章 諸禮ノ規則
- 憲法ノ第三十五條ヲ更改スル千八百五十七年五月廿七日ノ元老院決定書

○議院ノ員ニ選舉ヲ得ント欲スル者投票ノ始ナル日ヨリ前八日以内ニ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ第十六條ニ定メタル指圖ヲ記セシ書ヲ州長ノ官署ニ納ム可キヲ規定シタル千八百五十八年二月十七日ノ元老院決定書

○憲法及ヒ殊々其第四十條第四十一條ヲ更改シタル千八百六十六年七月十八日及ヒ廿二日ノ元老院決定書

憲法目錄

此書ハ題シテ佛蘭西憲法ト稱シタレバ元來其憲法ハ千八百五十一年十二月廿日及ヒ廿一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保邦巴ニ授ケタル政權ヲ以テ制定セシ第一條ヨリ第五十八條ニ至ル條件ニ係リ其他ハ皆其中ヲ改ハ遺補シテ改メ更改セシ皇帝ノ勅書及ヒ元老院ノ決定書タリ故ニ其勅書決定書ハ此書ヲ撰ムル者ノ意ニ依リ改メ別條ニ改メ編入シテ每書各同シカラズ加フルニ近歲佛蘭西ノ政體一變シテ共和政治トナルガ故ニ更ニ其改定ヲ經タル條件モ亦少シトセシ然レモ受ムルニ此憲法ノ大旨ニ於テハ固テ政ヲ移易變動ス可キニ非スレテ殊々方今佛蘭西ノ共和政治ハ更改ノ日漸決テ其政體未ダ確然不拔ノ者ト為ス可カラサレハ今姑ク原書ノ數スル所ニ從ヒ拿破崙三世帝ノ制定シタル憲法ヲ其體ニ依リ此ニ據リテ複製ヲ示スト云

英作麟祥 誌

佛蘭西憲法

權大内史等作麟祥 誌

憲法ヲ制定スル原由千八百五十二年一月十四日布告

佛蘭西共和政治ノ大統領路易拿破崙佛蘭西人民ニ告諭ノ書

去歲十二月二日ノ布告ニ佛蘭西國ノ政體ヲ創建スル爲メ緊要ノ基礎ハ何物タルヲ余カ嘗テ思念シテ所ニ就キテ試實ニ汝來庶ニ告諭セリ而メ余カ當時ニ在テ思念セシ所ハ世人ノ常ニ稱道スル如ク敢テ一己ノ私説ヲ以テ數百年間實際ノ試驗ヲ經タル定論ニ換用セント欲スルニ非ラズ唯往時ニ在テ當今ノ軌範ト爲ス可キハ何物ニシテ其軌範又何人ノ之ヲ令ニ遣ニ且何等ノ裨益ヲ生ゼシヤ此等ノ數事ヲ講求セント欲ヒシニ在リ故ニ余來余ハ世人ノ實踐ニ關セサル飾觀裝飾ノ論說ヨリ寧ロ俊傑ハ士躬行ノ跡ニ就キ其精英ヲ採擇シテ時ニ施スノ道理ニ合スルヲ思ヒ此ニ於テ千八百年代ノ初メ其形勢ノ恰モ現今ト相似タル危殆ノ佛蘭西國ヲシテ康寧ノ景福ヲ享ケ隆盛ノ極治ニ至ラシメタル其政體ヲ以テ軌範ト爲ス可キヲ決セリ而メ顧ミルニ又其政體タルヤ往時特ニ歐洲諸國ノ全カヲ合シ我佛蘭西國ニ拒絶シテ撰カニ廢滅ニ至ラシメ人民劇殺ノ變ニ因リ頓ニ崩潰ニ至リシ者ニ非サレバ是レ亦余カ以テ軌範ト爲ス可キナリ因テ此ニ余カ大趣旨ト爲ス其要ヲ概言スルニ凡ソ我佛蘭西國ハ政法ノ施設兵旅ノ簡閱ヨリ審判法狄經濟等ニ至ル迄要スルニ皆皆テコンシテ政治及ヒ皇帝政治ノ際制定シタル條規即チ拿破崙一世帝ノ運用シ今ニ於テ既ニ五十年ニ及ベバ豈其政體ニ於テ獨リ之ヲ運用シタルノ理アリヤ況ヤ其政體ハ夫ハ政法兵旅審判法狄經濟等ノ條規ト同シテ亦皆テ拿破崙一世帝ノ慮定セシ所ニ出レバ其我國家ヲ利シ以テ人民ヲ益スルノ微義ヲ具フルヤ必セリ加フルニ余カ嘗テ布告ヒシ書中既ニ辨明シタル如ク今ハ此佛蘭西ハ蓋シテ千七百八十九年ノ大變革ニ因リ改定シタル國ニシテ往昔ノ政憲ハ今ニ至リ猶其遺益ヲ享ケ衆庶ノ特ニ追慕スル所ト雖モ其制度典章ハ當時ニ在テ盡ク散滅シ今ニ於テ存スル者ハ亦皆大變革ノ後拿破崙一世帝ノ制定シテ所ニ出レバ此佛蘭西國ハ實ニ拿破崙一世帝ノ整

警察ノ設ナレハ之ニ附スルニ行政官ヲ監督スル權ヲ以テシテ今其制ヲ舉グルニ蓋シ議院ノ代理者ハ其可否ヲ述アル多寡ニ從ヒ以テ法律及ヒ租稅ヲ議定セシメ且其員ヲ選舉スル制ハ必ク國內人民ノ投票ヲ用ヒ一人毎ニ之ヲ選舉セシメ數人ヲ合ヒ選舉セシムルヲ禁ズル者是其受選者平生ノ器識才望之ヲ知ルノ容易ナルニ在テ又其代理者ノ數ヲ限定シ凡ソ二百六十員ニ過クシメサル者選舉スルニ事ヲ議スルニ其制ナルヲ欲シ若シ其員ノ多キニ過クシテ徒ラニ喧嘩ノ害ヲ生シ急争ニ至リ易キ弊ヲ防クニ在リ而メ又此議院商議ノ旨趣ヲ管ク民庶ニ聞知セシムル其權權者ハ唯其議長ノ管轄ヲ受ケテ以テ記ス可キ官制新聞紙ニ之ヲ載スルヲ許ス小雖任時ノ如ク偏頗ノ心ニ任セ且ニ異論ヲ立ル各員ノ新聞紙上ニ印刷スルハ之ヲ禁ス可シ又此議院ハ自由ニ法律ノ草案ヲ商議シ其可ト爲ス者之ヲ採用シ不可ト爲ス者之ヲ拒止スルヲ得可シト雖此從來政府施行ノ制度ハ頗ルニ更改ヲ事トシ之ヲ紊亂シテ政府ノ處置ヲ妨害ス可カラズ殊ニ此議院ニ附スルニ法律草案ノ起草ヲ爲スヲ禁セントスル者ハ蓋シ之ヲ議院ニ委シ以テ其意見ニ任スル時ハ或ハ貴中ノ一代理者未タ其權權ヲサレ諸般ノ事由ヲ建議シテ自カラ政府ノ權ニ代ラント爲ス大弊害ノ生ヌ可キニ因レリ而メ又此議院ノ員ハ敢テ任時ノ如ク宰相ト相對シ以テ法律ノ議定ヲ爲サシメ且其權權ハ未ダ爾ノ員ヲ任テ自カラ議院ニ至リ之ヲ討論シテ互ニ其利害ヲ論シ是非ヲ辨セシムルカ故ニ徒ラニ權權タル事端ヲ固執シテ難詰辯罵文書見ヲ持シ到底此宰相ヲ難ク彼宰相ニ易フル目的ニ因リ執事辯取以テ空ク時間ヲ費スニ至ル者ヲ除去ス可シ故ニ今此議院ノ商議ハ之ヲ圖院ノ獨斷ニ附シ敢テ他ノ抑制ヲ受ケシメス以テ無益ノ争端ヲ開ク事由ヲ除去スレハ其權權ヲ更改スル丁字反覆除之ヲ裁斷シテ失當ノ黨ナキヲ得可シ而メ斯ク此議院ヲシテ其自由ニ任スルヲ得セシムル者蓋シ議院ノ代理者ハ我佛蘭西全國ノ民庶ニ代リ以テ國政ヲ議スル員タルカ故ニ重大ノ事務ハ必ク熟慮シテ之ヲ行フヲ要スルニ在ルナリ夫レ議院ノ設ナレバ如此ト雖正額ニルニ又一ノ會議ヲ設ケ我佛蘭西國中富有材能勤功ノ德望至貴ナル者ヲ撰ミ之ヲ元老ノ職ニ任シテ其員ニ充ツ可キカ故ニ今此ニ其要ヲ舉グルニ凡ソ元老ハ任時ニ於テハ上議院ノ權色職果以テ下議院ノ商議ヲ聽キ常ニ其議定ノ說ニ和同シテ屏慮與議セシカ如クナラシメス蓋シ其職ハ憲法ヲ保護シテ其法ト並行ス可キ國民自主ノ權ヲ管掌セシメ而メ此大憲ニ據テ諸般

ノ法律ヲ審查シ且新法ヲ制定シテ之ヲ行政官ニ附シ又議院會衆ノ期外ニ生スル重大ノ難事ヲ理治シテ憲法ノ大義ヲ聲明シ又其法ヲ行フニ緊要ノ諸事ヲ整備シテ其法ニ背反セシメ命令ヲ廢止スル各般ノ權ヲ有セシメ以テ國家ノ大益ヲ裕察シ法律ノ主腦タル條件ヲ施行スル權重ノ任ニ置キ而シテ在時裁判所ノ行フタル獨立不羈ニシテ國ヲ裨益シ法律保護スルカ如キ諸務ヲ管理セシメント欲シ然レ今此元老ハ敢テ任時ノ上議院ニ於ケルカ如ク之ニ任スルニ審判ノ職ヲ以テ之ニ最第一勸解者ノ分ヲ有セシメ以テ居間ノ任ニ置ク者蓋シ若シ此官ヲ以テ罪犯檢治ノ裁判所ト爲ス時ハ憲法ニ必ス最忌ヲ來シ私意ヲ恣ニスル嫌ヲ受ケ人民欲仰ノ意ヲ失フテ怨怒ヲ政府ニ傳フル資具タルノ議ヲ招カシムルニ因レリ而シテ元老會議ノ設ケ既ニ如此ト雖正額ニルニ又大醫院ヲ置キ以テ政府ノ長ト國ノ安寧トニ對スル罪祀ヲ審判シレム可キノ要タルカ故ニ更ニ上等裁判官吏ノ中ニ就キ以テ撰擢セシ者ヲ其員ニ充テ且佛蘭西全國中各州會議ノ代理者ヲ撰テ其權權ヲ爲スヲ欲シ凡ソ上ニ陳スル所ハ蓋シ憲法ノ大旨ニシテ其詳カナルハ更ニ裁定ス可シト雖此當ノ本政府所ノ學識官ニ告諭セシ其言ニ曰ク夫レ憲法ハ時ニ應シ勢ヲ視テ漸ニ裁斷ス可キニ在レハ更レ以テ後者ヲ以テ其改正ヲ得セシムル便地ヲ餘シ以テ憲法ニ之カ制ヲ定ムヘト故ニ今余カ制定セントスル此憲法モ亦唯其分明ヲ次シ可カラサル條件ノ爲メ揭ケ敢テ我輩大ナル佛蘭西國民ノ選命ヲ嚴斷限定セサル者走レ佛蘭西若シ大憲ヲ生シテアラハ後人ヲ以テ從來制定シテ更改シ以テ國家ヲ安スル新法ヲ建テシム可キカ爲メナリ是以テ元老ハ政府ト共謀シ以テ憲法ノ中持ニ其重大ナラサル條件ハ之ヲ更改スルヲ得可シト雖此今汝輩席ト相議シ以テ決定シテ以テスル此憲法ノ大基礎ヲ更ニ更改セント欲スル時ハ復タ汝輩席ノ許可ヲ得ルニ非サレハ敢テ更改ス可カラズ故ニ我佛蘭西ノ人民ハ常ニ其選命ヲ已レノ志願ニ從ヒ以テ自カラ定ムルヲ得可ク而シテ凡ノ憲法ノ基礎タル重大ノ事體ハ皆人民ノ意志如何ヲ問ハス之ヲ制定ス可カラズ夫レ此等ノ趣旨ハ汝輩席ノ既ニ余カ之ヲ實際ニ施行スルヲ許セシメ所タルカ故ニ余カ嘗テ希望スル如ク此憲法ニ因テ我佛蘭西國民ノ聲望隆盛ノ福ヲ與ヘ禍亂ヲ離シ凶害ヲ生スル原因ヲ塞キ且汝輩席ノ相與ニ余カ心ヲ竭シ治ヲ圖ルノ意ヲ容受シ以テ永ク上天ノ恩ヲ享タルヲ得ハ内外共ニ寧靜ニシテ余カ志ヲ達シ余カ職ニ於テモ亦成就ス可シ

○千八百五十一年十二月廿日及廿一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易ボナパルト破格保那巴ニ授ケタル威權ヲ以テ
制定シタル憲法

共和政治ノ大統領ハ

佛蘭西人民ノ路易ボナパルト破格保那巴ニ其威權ヲ繼續セシメント欲シ且十二月二日ノ布令書ニ定メタル基礎ニ循ヒ
憲法ヲ制定スルニ必キナル威權ヲ授ク

ト云フ決定ノ可否ヲ佛蘭西人民ヨリ述フ可シト定メタルコトヲ熟思シ且
第一 十年間職ニ居テ貴ニ任ス可キ政府ノ長

第二 行政官ノミニ屬スル宰相
第三 法律ヲ草シ且議院ニ至テ其法律ヲ辯論スル為メ最著名ナル者ヲ任用スル參議官

第四 法律ヲ商議シ可否ヲ述フル者ノ多數ヲ以テ之ヲ議定スル議院但シ此議院ノ員ハ之ヲ選舉スルニ數名ヲ
合シテ選出シ時ハ選舉ヲ生ス可キニ因リ佛蘭西全國ノ民投票ヲ用ヒ一名毎ニ之ヲ選出可シ

第五 國中ノ貴族才能ノ者ヲ選用スル元老院但シ此元老院ハ政府ト國民トノ威權ヲ平均シ且憲法及ヒ國民自
由ノ權ヲ監視ス可キ者ナリ

此五條ハ國民ノ許可ヲ得可キ為メ示シタル憲法ノ基礎タルコトヲ熟思シ且
國民ノ之ヲ可ナリト應答スル者七百五十萬人ナルコトヲ熟思シテ左ノ憲法ヲ布令ス

第一章

第一條 憲法ヲ以テ佛蘭西人民ノ公權ヲ基礎タル千七百八十九年ニ布令セシ大憲章ヲ認准シテ之ヲ確定ス
第二章 共和政治ノ政體

第二條 千八百五十二年十二月廿五日廢テ佛蘭西共和政治ヲ統制スルノ權ハ方今共和政治ノ大統領タル皇族路易
拿破崙保那巴二十年間之ヲ任ス

第三條 共和政治ノ大統領ハ宰相參議官元老院議院ニ依テ國ヲ統治ス
第四條 立法ノ權ハ共和政治ノ大統領元老院議院相合同シテ之ヲ行フ

○第三章 共和政治ノ大統領
第五條 共和政治ノ大統領ハ佛蘭西人民ニ對シテ其責ニ任ス可キ且常ニ己ノ行フタル處置ノ可否ヲ佛蘭西人民
ニ問フノ權アリ

第六條 共和政治ノ大統領ハ國ノ長ニシテ海陸軍ノ指揮ヲ為シ戰事ヲ授シ和親睦關係易ノ條約ヲ結ビ諸ノ官員ヲ
撰任シ法律ヲ行フニ緊要ナル規則ヲ制定シ命令ヲ布下ス

第七條 裁判ハ大統領ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

第八條 法律ヲ起草スルノ權ハ大統領ノミニ在リトス

第九條 千八百五十二年十二月廿五日廢テ大統領ハ罪犯ヲ赦宥スルノ權アリ

第十條 大統領ハ法律及ヒ元老院ノ決定ノ允許ヲ為シテ之ヲ布令ス
第十一條 千八百五十二年十二月廿五日廢テ大統領ハ每歲文書又ハ言詞ヲ以テ國中諸務ノ狀ヲ元老院及議院ニ示ス

第十二條 大統領ハ一州又ハ數州等ニ攻圍ノ景狀ヲ用ヒ諸事ヲ處分スルコトヲ布令スルノ權アリ但シ他ノ選出
ニ其旨ヲ元老院ニ告ク可シ

政體ノ景狀ヨリ生ス可キ條件ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 宰相ハ國ノ長ニ屬スルノミニシテ政府ノ所為中自己ニ管スル事務ニ付キ各自ニ其責ニ任シ相連帶シテ
責ニ任スルコトナク且元老院ノ外其罪ヲ告許ス可カラズ

第十四條 宰相元老院參議官ノ官及ヒ海陸軍ノ士官裁判官其他ノ官員ハ左ノ管詞ヲ述フ可シ

余ハ憲法ヲ遵守シテ大統領ニ忠節ヲ盡ス可キヲ指シ
第十五條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス元老院ノ決定書ヲ以テ共和政治ノ大統領ニ其在職ノ時間毎歳給ス可
キ金額ヲ定ム

第十六條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス共和政治ノ大統領若レ其任職期滿時ニ死スル時ハ新ニ大統領ヲ選舉
セシムル爲メ元老院ヨリ國民ヲ集會セシム可シ

第十七條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス國ノ長ハ元老院ノ書翰中ニ秘藏ス可キ文書ヲ以テ佛蘭西國ノ資產ノ
爲メ已レニ代リ國民ノ依頼ヲ受ケテ選舉ヲ得可キ者ノ姓名ヲ國民ニ示スノ權アリ

第十八條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス新ニ共和政治ノ大統領ヲ選ムニ至ル迄ハ元老院ノ長在職ノ宰相ノ
資助ヲ得テ國ヲ統制シ其在職宰相ハ政府ノ商議官ト爲リ可否ヲ述フル者ノ多寡ニ從ヒ議務ヲ決議ス可シ

第十九條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス元老院ノ議員ハ百五十名ニ過ク可カラズ但シ最初ノ一年ハ之ヲ八十
名ト定ム

第二十條 元老院ハ
第一 一、カレダナール、最モ高貴ナル海軍ノ長モ
第二 共和政治ノ大統領元老ノ員ニ選舉スルヲ適當ナリト思量スル士民

第二十一條 元老ノ員ハ學生間其職ニ居テ之ヲ轉任セシム可カラズ

第二十二條 一千八百五十二年十二月廿五日廢ス元老ノ職ハ官俸ナク之ヲ行フ可シ然レ共和政治ノ大統領ヨリ其功
績ト其資產トニ准シ一年三萬フランクニ過キサル一身ノ俸給ヲ與フルヲ得可シ

第二十三條 元老院ノ長及ヒ副長ハ共和政治ノ大統領元老員中ノ者ヨリ之ヲ選舉ス

此長及ヒ副長ハ一年間其職ニ任ス
其長ノ俸給ハ命令書ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 共和政治ノ大統領ハ元老院ヲ集會セシメ又ハ延會セシム○又大統領ハ命令書ヲ以テ其集會ノ期限ヲ定ム
元老院ハ會議ハ衆庶ヲ來臨ヲ許セス

第二十五條 元老院ハ憲法及ヒ國民自由ノ權ヲ監察シ又如何ナル法律ト雖モ元老院ニ差出サル前ニ布令ス可カラズ

第二十六條 元老院ハ
第一 憲法國ノ法教人倫ノ道法教ノ自由國民自由ノ權法律上ニ於テ國民平等ノ權財產野有權ヲ侵ス可カラズ
規則裁判役ヲ轉任ス可カラサル旨趣ニ背キ又ハ其書トナル可キ法律

第二 佛蘭西領地ノ防禦ヲ容テナル可キ法律
此等ノ法律ヲ布令スルヲ拒止ス可シ

第二十七條 元老院ハ其決定書ヲ以テ左ノ條件ヲ規定ス
第一 佛蘭西領地ノ地及ヒリルベシトシテ佛蘭西領地ノ憲法

第二 憲法中未ダ判定スル事トシテ之ヲ施行スルニ必要ナル條件

第三 憲法中ニ様ノ意ヲ解ス可キ箇條ノ真正ノ文義

第二十八條 其元老院ハ決定書ハ共和政治ノ大統領ヨリ允許ヲ得可キカ爲メ之ヲ大統領ニ呈示シテ大統領之ヲ布
令ス可シ

第二十九條 元老院ハ政府ヨリ憲法ニ背及シタルト爲シ指示シタル法律及ヒ士民ヨリ願書ヲ以テ憲法ニ背及シタ
ルト爲シ建書ヲシ法律ヲ或ハ保存シ或ハ廢止ス

第三十條 元老院ハ共和政治ノ大統領ニ呈示シタル啓告書ヲ以テ國ノ大益トナル可キ法律草案ノ基礎ヲ制定スル
ヲ得可シ

第三十一條 又元老院ハ憲法ヲ更改スルノ申立ヲ為スルヲ得可シ若シ行政官之ヲ採用スル時ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ制定ス可シ

第三十二條 然ル十二月二日ノ布令書ヲ以テ制定シ佛蘭西國民ノ許可ヲ得タル憲法ノ大基礎ヲ更改セント欲スル時ハ佛蘭西全國人民ノ投票ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第三十三條 議院ヲ解散シテ更ニ復タ集會ヲ為スニ至ル迄ハ元老院共和政治ノ大統領ノ申告ニ從テ急速ニ規則ヲ立テ政務ヲ執行シテ必要ニ應ジテ條件ヲ備フ可シ

第三十四條 議院ノ議員ハ選舉ハ人口ノ多寡ヲ以テ基礎トス

第三十五條 選舉ヲ為ス者三万五千人毎ニ付テ代理人一員ヲ議院ニ出ス可シ千八百五十七年五月廿七日換フ

第三十六條 國民ノ代理人ハ數名ヲ合シテ選舉ヲ為スルナク全國人民ノ投票ヲ以テ一名毎ニ之ヲ選舉ス可シ

第三十七條 千八百五十二年十二月廿五日廢ス議院ノ員ハ官俸ヲ受クルコトナシ

第三十八條 議院ノ員ハ六年間其職ニ任ス

第三十九條 議院ノ員ハ法律ノ議案及ヒ租稅ノ商議ヲ為シ可シ否スル者ノ多寡ニ從テ之ヲ決定ス

第四十條 法律ノ議案ヲ取調フル任ヲ受ケタル委員ノ採用トシ法律議案ノ更改書ハ之ヲ討論トシテ議長ヨリテ議官ニ送ル可シ若シ衆議官共改正ヲ採用セサル時ハ之ヲ議院ノ商議ニ附スルコトヲ得ス

第四十一條 議院ノ通常ノ集會ハ之ヲ三月間トシ其會議ハ衆議ノ來臨ヲ許スト雖モ若シ議院ノ員中五名ヨリ求ムル時ハ議院ヲ召集シ以テ隱密ノ議會ト為ス可シ

第四十二條 新聞紙ハ因リ又ハ其他衆庶ニ告知ス可キ方法ニ因リ議院會議ノ諸件ノ摘撮書ヲ公ケテ之ヲ為スルハ各會議員終身於テ議長ノ監督ヲ以テ記シタル所ノ論議ノ調書ヲ用フ可シ

第四十三條 議長及ヒ副議長ハ共和政治ノ大統領會議中ヨリ一年間之ヲ選舉ス○議長ノ官俸ハ命令書ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 宰相ハ議院ノ員ヲ可ララス

第四十五條 人民願書ヲ呈セシムル時ハ必ス之ヲ元老院ニ出ス可シ之ヲ議院ニ出ス可カラズ

第四十六條 共和政治ノ大統領ハ議院ヲ召集セシムル又ハ延會セシムル或ハ解散セシムル時ハ大統領六月内ニ更ニ復タ議院ヲ集會セシムル可シ

◎第六章 參議官

第四十七條 通常職務ニ任スル參議官ノ員ハ四十人ヨリ五十人ニ至ル可シ

第四十八條 參議官ハ共和政治ノ大統領之ヲ任用シ且大統領之ヲ退任セシム可シ

第四十九條 共和政治ノ大統領ハ參議官ノ上席ヲ為シ若シ大統領不在ノ時ハ大統領ヨリ參議官副議長ノ任ヲ與ヘタル者共上席ヲ為ス可シ千八百五十二年十二月三十日換フ

第五十條 參議官ハ共和政治ノ大統領ノ指令ヲ受ケ法律ノ議案及ヒ行政ノ規則ヲ記シ且政治ノ諸務ニ付キ生ス可シ難事ヲ理治スルコトヲ任ス可シ

第五十一條 參議官ハ政府ノ名代トシテ元老院及ヒ議院ニ對シ法律ノ議案ヲ論辯ス可シ

第五十二條 參議官ハ元老院及ヒ議院ニ對シ法律議案ノ論辯ヲ為ス任ヲ受クル參議官ハ共和政治ノ大統領之ヲ選任ス

第五十三條 宰相ハ參議官ノ列ニ入りテ論辯ヲ為スル權アリ

◎第七章 大審院

第五十四條 大審院ハ共和政治ノ大統領及ヒ閣ノ内外部ノ安寧ニ對シ重罪暴行陰謀ノ罪ヲ犯シタルノ請ヲ受ケ

請出タル者ヲ審判ス可シ但シ被告人大審院ノ首渡ニ服セスト雖モ之ヲ控訴スルコトヲ許サズ又其首渡ノ取

消ヲ覆審院ニ許スルコトヲ許サズ

共和政治ノ大統領ノ命令アルニ非サレハ大審院ニ訴出スルコトヲ得ス

第五十五條 大審院ヲ建設スル法則ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 總規則及一般規則

第五十六條 現行ハルノ法律及一般規則ノ憲法ニ違反セザル簡條ハ日使特ニ之ヲ更改スルノ命アルニ至ル迄施行ス可シ

第五十七條 臣政ノ規則ハ別段法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ ○ 臣長ハ行政官ヨリ之ヲ任ス可ク且會議院ノ員外於テ選舉スルヲ得可シ

第五十八條 此憲法ハ之ヲ以テ制定シタル國ノ大局ヲ設置セシヨリ施行ス可シ
十二月二日此憲法ヲ施行スルヨリ至ル迄ノ時間ニ共和政治ノ大統領ヨリ下シタル命令ハ皆之ヲ法律ノカアリトス

○ 憲法ヲ改正スルハ千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書
元老院憲法第三十一條及第三十二條ニ依テ商議ヲ為シテ左ノ條件ヲ決定セリ

第一條 皇帝ノ位ヲ復シ路易那破嵩保那巴ヲ第三世掌破嵩ノ名稱ヲ以テ佛蘭西皇帝ト為ス

第二條 皇帝ノ位ハ路易那破嵩保那巴ノ嫡出ノ宗系ニ依リテ傳フ可シ ○ 子孫ニ於テ永世女子及ヒ其子孫ヲ除キ年長ノ順序ヲ以テ代之ヲ男ヨリ男ニ傳フ可シ

第三條 路易那破嵩保那巴ノ男子十歳ニ至ル時ハ第二世那破嵩ノ兄弟中ノ男承ノ子及ヒ其嫡出ノ卑屬ノ親ヲ以テ養子ト為ス可シ若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ
若シ養子ト為スニ付テハ元元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

○十一月廿一日及廿二日ノ國民ノ投票ニ因リ確定シタル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ヲ布令シテ法律ト爲ス千八百五十二年十二月二日ノ勅書
天ノ恩愛ト民ノ恩望トニ因リ佛蘭西皇帝ノ位ニ居ル那破格保那巴ニ告テ曰ク千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ニ備ヒ

佛蘭西人民帝位ヲ復シ路易那破格保那巴ヲ立テ皇帝ト爲シ其嫡出又ハ養子ナル家系ノ皇族ノ親ヲ代々其位ヲ嗣カント欲シ且千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ニ記シタル如ク路易那破格保那巴ニ其家族中ニ於テ帝位ヲ嗣ク者ノ順序ヲ定ムル權ヲ與フ

ト云テ大體旨ノ旨文ヲ國民ノ許可ヲ得可キ爲メ示シタルコトヲ考思シ且議院ノ公告書ニ國民ノ其旨文ノ可否ヲ投票ヲ以テ定ムルノ事ヲ障礙ナク正當ニ完成シ其旨文ノ可否ヲ述フル者ノ投票ヲ總計スルニ可キ者ノ數ニ對シテ七十八萬四千八百八十九人

否ナリト爲ス者ノ數ニ對シテ二十五萬三千四百四十五人
可否ヲ述ヘタル者ノ數六萬三千三百二十六人
ヲ証セリト考思シ左ノ條件ヲ命令ス

第一條 十一月廿一日及廿二日ノ國民ノ投票ヲ以テ確定シタル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ハ之ヲ布令シテ國法律ト爲ス

第二條 路易那破格保那巴ハ第三世那破格ノ名稱ヲ以テ佛蘭西ノ皇帝トシ
○千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ノ第四條ニ備ヒ保那巴ノ家族中ニ於テ帝位ヲ嗣ク可キ者ノ順序ヲ定ムル千八百五十二年十二月十八日ノ憲法ノ基礎タル勅書

第三條 余ノ嫡出又ハ養子ヲ嗣ク家系中ニ於テ位ヲ嗣ク可キ者ヲ遺留セサル時ハ
余カ敬受スル叔父セロノ那破格保那巴又ハ此叔父ノ姪國ノ公主ガテリト結ビタル婚姻ヨリ生ズル嫡

出ノ家系ノ皇族ノ親余ニ代リ永世女子ヲ除キ年長ノ順序ヲ以テ代々男ヨリ男ニ傳ヘ帝位ヲ嗣ク可シ

第三條 此書ハ國置ヲ印シ敕書ト爲シ元老院ニ送リ其書房中ニ藏ス可シ
○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ聲明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月廿五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第一條 皇帝ハ聖職ヲ放棄シテ大赦ヲ行フノ權アリ
第二條 皇帝自カテ遺言ヲ遺シタル時ハ元老院及ヒ參議院ニ上席ス可シ

第三條 憲法第六條ニ備ヒ結ビタル貿易ノ條約ハ其條約ニ於テ裁定シタル規則ヲ更改スルト雖モ猶法律ノ力アリトス
第四條 公同ノ其並ニナル可キ諸般ノ工業殊ニ千八百三十二年四月廿一日ノ法律ノ第十條及ヒ千四百四十一年五月三日ノ法律ノ第三條ニ記スル工業并ニ其他總テ國ノ利益トナル可キ諸般ノ起作ハ皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ命令シ又ハ允許ス可シ

此勅書ハ行政規則ノ爲メ定ムル法式ニ備ヒ之ヲ記ス可シ
然レ政府ノ會計局ニ於テ人民ト契約結又ハ人民ヲ資助シテ工業及ヒ起作ヲ爲サントスル時ハ其工業及ヒ起作ヲ爲ス前ニ法律ヲ以テ其金額ヲ備フ可キコトヲ允許シ又ハ其契約ヲ允准ス可シ

政府ノ利益ノ爲メニ施行シテ人民ニ任カヌ可キ種類ノ工業ヲ急速ニ行ハント爲ス時ハ臨時費用ノ金額ヲ備フ可キ爲メ定ムル法式ヲ以テ其金額ヲ備フ可シ但シ議院ノ最近ノ集會ノ時其旨ヲ告テ其允許ヲ受ク可シ

第五條 千八百五十二年三月廿二日ノ憲法ノ基礎タル勅書ノ規則ハ皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ更改スルコトヲ得可シ
第六條 日後或ハ帝位ヲ嗣ク可キノ權アル諸親及ヒ其皇族ノ親ヲ稱シテ佛蘭西皇族ト云フ

第七條 佛蘭西ノ皇族滿十八歳ノ齡ニ至リレ時ハ元老院及ヒ參議院ノ員ニ列ス可シ
然レ皇帝ノ允許ヲ得タル上ニ非サレバ元老院及ヒ參議院ニ出席ス可カラス

第八條 皇族ノ身上證書... 首相之ヲ受取... 皇帝ノ命ヲ以テ元老院ニ送リ元老院ニ於テ之ヲ簿冊ニ登記レ且其書房中ニ藏ス可シ

第九條 帝位ニ屬スル入額及ヒ皇帝ノ歳俸ハ各其在位間別段ノ元老院決定書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第十條 皇帝ノ職ヲ任ス可キ元老ノ員ハ百五十名ニ過ラズ可キ

第十一條 元老ノ職ニ即キタル者ハ學生間三萬ヲ以テ之ヲ充テシテ其入用ノ額ヲ定ム可シ

第十二條 元老ノ見積書ハ政府ノ各宰相局ニ於テ之ヲ決議ス可シ

第十三條 憲法ノ第四十二條ニ記シタル補綴官ハ之ヲ公ケニ爲ス前ニ議長及ヒ議院各局ノ長ヨリ稟成レタル掛リ

第十四條 議院ノ席上ニ於テ補綴官ノ職ヲ司ル者ノ數ト非トスル者ノ數ト相均シキ時ハ議長ノ議ヲ以テ決ス可シ

第十五條 議院ノ員ハ通常ノ集會又ハ臨時ノ集會ノ時間毎月二十五日ヲ得可シ

第十六條 後備兵隊ノ指揮官ハ議員ノ列ニ加ハルコトヲ得可シ

第十七條 後備兵隊ノ指揮官ハ議員ノ列ニ加ハルコトヲ得可シ

第十八條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第十九條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十一條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十二條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十三條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十四條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十五條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十六條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十七條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十八條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第二十九條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十一條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十二條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十三條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十四條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十五條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

第三十六條 憲法ノ第十四條ニ定メタル管領ハ左ノ如クナリトス

其宰相可否ヲ述フル者ノ數ニ從ヒ諸務ヲ議定ス可シ

皇帝薨去ノ後攝政ノ會議官ヨリ直ニ元老院ヲ集會セシム可シ

攝政ノ會議官ヨリ申立タル者ノ中ニ元老院攝政トナル可キ者ヲ撰任ス可シ

皇帝特ニ攝政ノ會議官ヲ任セザル時ハ政府ノ會議官タル宰相元老院議院參議官ノ在職長官ノ補佐ヲ以テ元老院

ヲ集會セシム且攝政トナル可キ者ヲ申立ツ可シ

第六條 攝政及ヒ攝政會議ノ員ハ佛蘭西人ニシテ滿二十一歳以上ノ齡タル可シ

第七條 皇帝ノ攝政ヲ任シ又ハ攝政ノ會議官ヲ任スル書ハ元老院ニ送り其書房中ニ藏ス可シ

若シ皇帝秘密ノ書ヲ以テ攝政及ヒ攝政ノ會議官ヲ任シタル時ハ皇帝ノ薨去ノ後直ニ元老院ニ於テ集會ノ招ニ應

シタル元老院員ノ面前及ヒ宰相並ニ法式ニ備ヒ名集シタル議長參議長ノ面前ニテ元老ノ長官其書ヲ開封ス可シ

第八條 攝政ノ職ニ任スル者ノ行フ所ハ密幼帝ノ名ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第九條 皇帝ノ丁年ニ至ル迄ハ攝政ヲ為皇后又ハ其他攝政ノ職ニ任シタル者皇帝ニ代テ十分帝權ヲ執行フ可シ但

シ攝政ノ會議ニ於テ有ス可キ權ハ格別ナリトス

第十條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ職務ハ皇帝薨去ノ時ヨリ直ニ之ヲ行フ可シ

然モ攝政ノ職ヲ任スルニ付テ秘密ノ書ヲ元老院ニ送り其書房中ニ藏メタル時ハ其書ヲ開封セシヨリ後ニ非サレ

ハ攝政ノ職務ヲ行フ可カラス○其書ヲ開封スルニ至ル迄ハ第五條ニ記スル所ニ備在職宰相國務ヲ統制ス可シ

第十一條 若シ幼帝其位ヲ嗣ク可キ皇帝ヲ遺留シテ薨去セシ時ハ更ニ別段ノ法式ヲ行フナク其攝政ニ任セシ皇

后又ハ攝政其職ヲ繼續シテ行フナク得可シ

第十二條 嗣位ノ順序ニ固リ攝政ノ職ニ任セシ皇后ノ子ニ非ザル幼帝位ヲ嗣クアル時ハ其皇后攝政ノ職ヲ罷ム

可シ○此場合ニ於テハ此元老院決定書ノ第四條又ハ第五條ニ記スル所ニ備ヒ攝政ヲ任ス可シ

第十三條 幼帝ノ薨去シ他系幼帝其位ヲ嗣クアル時ハ當テ任シタル攝政其幼帝丁年ニ至ル迄ノ間繼續シテ其職

ヲ行フ可シ

第十四條 此元老院決定書ニ定メタル所ノ佛蘭西國皇族未タ相當ノ年齢ニ至ラス又ハ其他法律上ニ別段定メタル

原由ニ因リ幼帝ノ薨去セシ時攝政ノ職ニ任スルノ得サル時ハ嗣帝ノ丁年ニ至ル迄在職ノ攝政繼續シテ其職ヲ

行フ可シ

第十五條 先帝ノ皇后其子タル幼帝ノ攝政ニ任セシ時ノ外ハ攝政ノ職ニ任シタル者幼帝ノ保傅ヲ為スノ權ナシ

幼帝ノ保傅ヲ為シ其家事ヲ指令シ及ヒ其教育ヲ管照スル等ノ諸事ハ其母后之ヲ為ス可シ幼帝ノ生母ナキ時又ハ

先帝ノ時ニ任シタル者ナキ時ハ攝政ノ會議官ヨリ任シタル者幼帝ノ保傅ヲ為ス可シ

攝政及ヒ其卑屬ノ親ハ幼帝保傅ノ職ニ任ス可カラス

第十六條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政先帝ノ在世中ニ攝政ノ職ヲ行フニ付キ誓詞ヲ述ヘサル時ハ元老院議院ノ員

並ニ參議院ノ面前ニテ佛蘭西國皇族攝政ノ會議官宰相政府ノ貴重ナル官員ヨリシヨンドノール條ノ大十字形ノ賞

牌ヲ佩ル者ノ立會ヲ得テ皇帝ノ位ニ坐スル幼帝ノ前ニ至リ經典ヲ讀トシテ其幼帝ニ向ヒ誓詞ヲ述フ可シ

又攝政ノ會議官宰相元老院ノ議長參議長會議官ノ長ノ前ニ於テ幼帝ニ向ヒ誓詞ヲ述フ可シ

此場合ニ於テハ攝政ニ任セシタル皇后又ハ攝政ヲ行フ誓詞ヲ述ヘタルノ公ケニ為ス可シ

第十七條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ述フ可キ誓詞ハ左ノ如シ

余ハ皇帝ニ忠節ヲ盡シ憲法元老院ノ決定書國ノ法律ニ依ヒ統制ヲ為シテ國民ノ權及ヒ帝位ニ屬スル權ヲ保護

シ且已レシ誓詞ヲ行フニ付キ皇帝及ヒ佛蘭西國ノ為ニ忠誠ヲ勵ミ皇帝ノ丁年ニ至リシ時余カ委任ヲ受ケタル威

權ヲ正シク皇帝ニ返還スルノ誓ヲ行フ

此誓詞ノ調書ハ首相之ヲ記シ且之ヲ元老院ニ送りテ其書房中ニ藏ス可シ

其調書ニハ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政及ヒ皇族攝政ノ會議官宰相元老院ノ長議長參議官長其姓名ヲ手書ス可シ

第二章 攝政ノ會議官

第十八條 攝政ノ會議官ハ皇帝ノ幼年ナル時間之ヲ任ス可シ
其會議官ノ員ハ左ノ者ヨリ之ヲ集成ス

第一 皇帝ノ摂任シタル佛蘭西國皇族

第二 皇帝ノ時ニ預任シタル者ナキ時ハ帝位ヲ嗣ク可キ順序ノ最近ナル皇族ニ員

第三 皇帝ヨリ公ナク書及ヒ秘密ノ書ヲ以テ任シタル者

若シ皇帝此會議官ノ員ヲ摂任セザル時ハ元老院此會議官ノ一部ヲ為ス可キ為ノ時ニ五名ヲ摂任ス
佛蘭西國皇族ヲ除ク外攝政會議官ノ一員又ハ歐州ノ死シ又ハ退任シタル時ハ元老院其者ニ代ヘ更ニ他人ヲ
摂任ス可シ

第十九條 攝政ノ會議官ハ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ヨリ之ヲ退職セシム可カラス

第二十條 攝政ノ會議官ハ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政之ヲ葬會セシノ且其上席ヲ為ス可シ

攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ハ攝政ノ會議官ノ員タル佛蘭西國皇族又ハ其他攝政ノ會議官ノ員ヲ以テ自己ニ代リ
其會議官ノ上席ヲ為サシムルヲ得可シ

第二十一條 攝政ノ會議官ハ可否ヲ述フル者ノ數ニ從ヒ左ノ條件ヲ議定ス可シ

第一 皇帝ノ婚姻

第二 戰書ヲ投シ又ハ和親聯盟貿易ノ條約ヲ結ブ事

第三 憲法ノ基礎ヲ立ツル元老院決定書ノ議案ヲ單スル事

若シ可ナリトスル者ノ數ト否ナリトスル者ノ數ト相均シキ時ハ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ノ説ヲ以テ決定ヲ為
ス可シ○若シ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ノ名代人攝政會議官ノ上席ヲ為ス時モ亦皇太后又ハ攝政ノ説ヲ以テ此決
定ヲ為ス可シ

第二十二條 攝政ノ會議官前條ニ記セシ以外ノ事ニ付キ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ヨリ相談ヲ受ケナル時ハ唯其
助言ノミヲ為スヲ得可シ

○第三章 諸種ノ規則

第二十三條 攝政ヲ任シタル時間皇帝ノ入朝ヲ支配スルノ方法ハ定則ニ循フ可シ

其入朝ヲ使用スル方法ハ攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ノ命ニ從ヒ通常ノ法式ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第二十四條 攝政ニ任セシ皇太后又ハ攝政ノ自己ノ費用及其家事ヲ理ムル費用ハ皇帝歲俸中ノ一部トス○其類ハ攝
政ノ會議官之ヲ定ム可シ

第二十五條 幼帝ノ位ヲ嗣キレ時攝政不在ニレテ先帝ノ薨去スル前ニ特ニ預定セシ事ナキニ於テハ其攝政ノ來者
ニ至ル迄此元老院決定書ノ第五條ニ記スル野ニ循ヒ國ノ諸務ヲ統制ス可シ

○憲法ノ第三十五條ヲ更改スル千八百十七年五月廿七日ノ元老院決定書

第一條 憲法ノ第三十五條ハ左ノ如ク之ヲ更改ス

選舉ヲ為ス人民三萬五千人毎ニ代理者一員ヲ議院ニ出ス可シ然レ一州ニテ選舉ヲ為ス人ノ餘數一萬七千五百
人ニ過ケル時ハ其州ニ於テ更ニ代理者一員ヲ議院ニ出スヲ得可シ

第二條 此元老院決定書ニ循ヒ皇帝ノ勅書ヲ以テ各州ニ於テ選舉ス可キ代理者ノ姓名簿ヲ規定ス可シ

○議院ノ員ニ選舉ヲ得ント欲スル者投票ヲ始ムルヨリ前八日內ニ千八百五十二年十二月二十五日ノ元老院決
定書ノ第十六條ニ定ムル權詞ヲ記セシ書ヲ州長ノ官署ニ納ム可キヲ規定シタル千八百五十八年二月十
七日ノ元老院決定書

第一條 議院ニ選舉ヲ得ント欲スル者ハ投票ヲ始ムルヨリ前八日內ニ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決
定書ノ第十六條ニ定ムル權詞ヲ記レ自己ノ姓名ヲ手署シタル書ヲ議員ノ選舉ヲ為ス州長ノ官署ノ書記局ニ自
カチ納メ又ハ公正ナル證書ヲ以テ任シタル名代人ヲレテ之ヲ納ムルノサレハ選舉ヲ受ルヲ得ズ

其書ニハ

余ハ憲法ヲ遵守シ且皇帝ニ忠節ヲ盡ス

ト云フ語ノミヲ記ス可ク若レ此規則ニ背ク時ハ其書ノ効ナカル可レ

其書ヲ納ムル時ハ其受取書ヲ與フ可レ

第二條 議院ノ員ニ選ラ得ント欲スル者姓名ノ公告撤事ノ官署ニ納ム可キ議院選舉ノ廻帖及ヒ投票ノ分派并ニ貼附ハ其選舉ヲ得ント欲スル者前條ノ規則ニ循ヒレ後ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

前條ノ規則ニ循ハサル前ニ選舉ヲ得ント欲スル者姓名ノ公告議院選舉ノ廻帖及ヒ投票ノ分派并ニ貼附ヲ爲ス時ハ千八百四十九年七月廿七日ノ法律第六條ニ記スル所ノ刑ニ服セラル可レ

第三條 議院ノ員ノ選舉ヲ爲ス時間相當ノ定期内ニ此元老院決定書ノ第一條記セシ諸件ヲ行フ者ハ其姓名書ヲ州長ノ證セレ後之ヲ選舉ノ官署ニ納ム可レ

第四條 此元老院決定書第一條ノ規則ニ循ハサル選舉ヲ得ント欲スル者ノ姓名ヲ記シタル投票ハ其効ナク後ニ投票ノ數ヲ算計スル時之ヲ算入ス可カラス唯之ヲ選舉ノ綱書ニ附加ス可レ

○憲法及ヒ殊ニ其第四十條第四十一條ヲ更改シタル千八百六十六年七月十八日及ヒ廿二日ノ元老院決定書

第一條 憲法ハ元老院ニ於テ制定シタル法式ヲ以テ討論ヲ爲スノ外他ノ官局ニ於テ之ヲ討論ス可カラス

憲法ヲ更改シタルハ釋明スル事ヲ目的ト爲タル願書ハ元老ノ五局中ノ三局以上ニ於テ其願書ヲ取調フ可キノ允許ヲ爲シタル時ニ非ザレハ元老院ノ大會議ニ差出ス可カラス

第二條 定期刊行ノ書及ヒ貼附ノ書ハ千八百五十二年二月十七日ノ勅書第九條ノ第一項ニ定メタル紙幅ノ大サニレテ期ヲ刻セシ刊行スル書ニ因リ憲法ヲ謄録シ又ハ更改スル事ヲ目的ト爲レテ刊行シ及ヒ再刊シタル議論文ハ之ヲ禁ス

憲法ヲ更改シタルハ釋明スル事ヲ目的ト爲シタル願書ハ之ヲ差出シタル元老院會議ノ摘報書中ニ登記スルノ外之

憲法十二

ヲ刊行シテ公ケニ爲ス可カラス

此條ノ規則ニ背ク時ハ五百フランヨリ一萬フランクニ至ル迄ノ罰金ヲ以テ科ス可キ罪アリトス

第三條 千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ第四十條ハ左ノ如ク更改ス

法律ノ撤案ヲ取調フルノ任ヲ受ケタル委員ノ採用セシ法律撤案ノ更改書ハ議長ヨリ參議官ニ送ル可レ

其委員又ハ參議官ノ採用セサル其更改書ハ議院ニ於テ之ヲ執思レ更ニ取調ヘレムル爲メ其委員ニ送還ス可レ

若レ其委員更改書ニ從ヒ撤案ヲ改メ可キ事ヲ申立サル時又ハ委員ヨリ申立タル更改書ヲ參議官採用セサル時ハ其撤案ノ原本ノミヲ撤ス可レ

第四條 議院ノ通常ノ會議ノ時間ヲ三月ニ限定セシ千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ第四十一條ノ規則ハ之ヲ廢ス○但シ皇帝ノ勅命ヲ以テ會議ヲ終ラ可キヲ官渡ス可レ

議院ノ員ノ受ク可キ官俸ハ其會期ノ長短ヲ問ハス通常ノ會議毎ニ一萬二千五百フランクニシテ可レ

臨時ノ會議ノ時ハ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ第十四條ニ記スル所ニ循ヒ其官俸ヲ定ム可レ

辻士學校

神田西憲法
法律書

明治八年十二月一日出版

東京

東京第一大區七小區

相町七番地

中村熊次郎

東京第一大區六小區

日本橋通二町目十二番地

小林新兵衛

書肆

佛蘭西民法

例言

一 凡泰西各國政府ト人民トノ間ニ管スル條規ハ之ヲ國法ト名ケ人民ト人民トノ間ニ管スル條則ハ之ヲ民法ト名ケ
 此書ハ佛國第一世那破崙帝ノ制定セシ法律書中ノ民法ニシテ荷蘭自耳義瑞西日耳曼ノ一部伊太利等ノ諸國互ニ
 相折衷シテ其國內ニ行ヒ歐土ニ於テ特ニ之ヲ貴重ス即チ其部ヲ分ツテ三篇ト爲シ第一篇ハ人事ニシテ民權ノ受
 奪民生ノ證書婚姻離婚ヨリ親子ノ權及ヒ養子後見等ニ至ル迄ノ諸件ヲ記シ第二篇ハ財產及ヒ財產所有ノ區別ニ
 シテ不動産動産ノ種類ヨリ財產所有ノ權及ヒ土地ノ定分等ニ至ル迄ノ諸事ヲ記シ第三篇ハ財產ヲ得ルノ方法ニ
 シテ遺物相續贈遺契約及ヒ婚姻ノ契約ヨリ賣買會社借貸保證等ニ至ル迄ノ諸件ヲ記シタル所ノモノナリ
 一 此書譯了ノ後紙數繁重幾ント二十冊ニ充ントス故ニ全部刻成ノ日ヲ期スル時ハ時月遷延ノ恐ニアリ因テ今逐次
 刊行シ以テ世ニ公布スト雖凡謬誤遺漏等ハ尠シト謂可カラス者宜ク是正スヘシ
 一 首冊ニ全部ノ總目ヲ揭示セサルモノ逐次刊行シ預ノ每冊ノ區分ヲ定メ難キニ因リ自餘ノ例言ハ既刊ノ刑法書
 中ノヲ記スルニ因リ今復タ此ニ贅セス

辛未仲春

其作麟祥誌

例言

前加萬凡法律之布告スル事法律ヨリ生スル事法律ヲ用ル事一千八百三年三月五日決定同月十五日布告

第二條 法律ハ其布告ヲ知ルニ至ル時ヨリ國中各所ニ於テ之ヲ行フ可シ
法律ハ其布告ヲ知ルニ至ル時ヨリ國中各所ニ於テ之ヲ行フ可シ
皇帝ヨリ為シタル布告ニ在リテハ所ノ列バルトモテハ佛蘭西ノ地ヲ區分シタル一部ノ名ニシテハニ於テハ其布告ノ翌日之ヲ知ルコト爲做シ他ノ列バルトモテハ其布告ヲ爲シタル都府ト各列バルトモテハ首府トノ間ノ路程ニ從ヒ一日ニ至ルコト爲做シタルトモテハ凡ソ其地ニ在リテハ一日ノ路程ヲ以テ其日數ヲ累テ以テ之ヲ知ルコト爲做ス可シ

第二條 法律ハ將來ノ事ヲ定ルルニシテ之ヲ施行ス可カラズ
第三條 既成ノ法律及ビ國中安寧ノ事ニ管スル法律ハ佛蘭西領地内ニ居住スル者皆之ヲ遵守ス可シ
不動產^{土地家屋等ノ權}ハ佛蘭西ノ所有スル物ト雖モ佛蘭西ノ法ヲ以テ之ヲ支配ス可シ
人ノ分限及ビ身位ニ管シタル法律ハ外國ニ居住スル者ヲ問ハス各佛蘭西人ヲ支配ス可シ

第四條 法律ハ不備法律ノ不齊法律ノ所缺ヲ以テ口實ト爲シ裁判ヲ爲スコト肯ヒサル裁判役ハ漫ニ裁判ヲ爲セザルニ罪アリト爲シ訴訟ヲ受ク可シ
第五條 裁判役ハ己ニ告白セシ訴訟ニ付一般ノ規則ヲ定ム可キ方法ヲ以テ其裁判ヲ言渡ス可カラズ
第六條 私人ニ爲シタル契約ヲ以テ公ノ安寧及ビ風儀等ニ管スル法律ヲ犯ス可カラズ

○第一條 民事權ヲ受ル事民事權ヲ奪フ事一千八百三年三月八日決定同月十八日布告

此處に於ては、佛蘭西民法の原則が述べられており、法律の公布と執行に関する規定が中心である。前記の通り、法律は公布された日から全国で執行される。また、土地や身分に関する法律はフランス人のみに適用され、外国に居住する者には適用されない。さらに、私的な契約は公序良俗に反しない限り有効であるとされている。

第一章 民権ヲ受ル事

第七條 民権ヲ行フハ國民ニ限リテ可キ事ナリ。但シ國民タルノ分限ト相管スルコト無レ但シ國民タルノ分限ハ建國ノ法ニ因テ之ヲ得且之ヲ有ス可キモノナリ。

第八條 各佛蘭西人ハ民権ヲ受ク可シ。

第九條 佛蘭西ニ於テ生シテ外國人ノ子ハ丁年ニ至リシ其翌年佛蘭西人タルノ分限ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ。但シ其求ムル所ヲ得シト欲スルニハ其者ノ佛蘭西ニ居住スル時ハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム可キヲ意タルコトヲ陳述シ又外國ニ居住スル時ハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム可キヲ證書ヲ出シテ其時ヨリ一年內ニ佛蘭西ニ住所ヲ定ムルコトヲ必要ナリトス。

第十條 外國ニ於テ生シテ佛蘭西人ノ子ハ佛蘭西人ナリ。

佛蘭西人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人ノ外國ニ於テ生シタル子ト雖モ前條ニ記載シタル式ヲ行フニ於テハ何レノ時ヲ論ゼテ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スルコトヲ得可シ。

第十一條 外國人ハ其本國ト佛蘭西ト結ビタル條約ニ因リ其國ニ於テ佛蘭西人ノ受テ又ハ受テ可キ所ニ等シキ民権ヲ佛蘭西ニ於テ受ク可シ。

第十二條 佛蘭西人ニ嫁シタル外國ノ女ハ其夫ノ分限ニ從テ可シ。

第十三條 皇帝ノ允許ヲ佛蘭西ニ其住所ヲ定ムルコトヲ得タル外國人ハ佛蘭西ニ居住スル時間滿限ノ民権受可シ。

第十四條 外國人ノ佛蘭西ニ居住セザル者ト雖モ佛蘭西ニ於テ佛蘭西人ト結ビタル契約ヲ行ハシム可キ為メ之ヲ佛蘭西ニ裁判所ニ提出スルコトヲ得可シ。且其外國人ノ外國ニ於テ佛蘭西人ト結ビタル契約ヲ行ハシム可キ為メ亦之ヲ佛蘭西ノ裁判所ニ提出スルコトヲ得可シ。

第十五條 佛蘭西人ノ外國ニ於テ外國人ト結ビタル契約ナリト雖モ其契約ノ事ニ付キ其佛蘭西人ヲ佛蘭西ノ裁判所ニ提出スルコトヲ得可シ。

民法二

第十六條 商業ニ管シタル事ノ外何事ヲ論セス佛蘭西ノ裁判所ニ訴テ爲ス外國人ハ其訴訟ノ費用ヲ出シ及ビ償額ヲ納ム可キ保證ヲ立ツ可シ。但シ其外國人ノ若シ佛蘭西ニ於テ其納メ方ヲ證スルニ足ル可キ不動産ヲ所有ト爲ス時ハ格別ナリトス。

第二章 民権ヲ奪テ事

第十七條 佛蘭西人タルノ分限ヲ失フニ因リ民権ヲ奪テ事

第一 外國ノ戸籍ヲ入ル事

第二 皇帝ノ允許ヲテ外國政府ヨリ官職ヲ受ル事

第三 歸國スルノ意ナク外國ニ居住ヲ定ムル事

但商業ノ爲メ外國ニ居住スル者ハ歸國スル意ナクテ外國ニ居住セシ者ト看做可トナス。

第十八條 佛蘭西人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人皇帝ノ允許ヲ得テ佛蘭西ニ歸リ且佛蘭西ニ居住スルニ意ト佛蘭西ノ法ニ背キタル官位封爵ヲ放棄スルニ意ト陳述スルニ於テ何レノ時ト雖モ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スルコトヲ得可シ。

第十九條 外國人ニ嫁シタル佛蘭西ノ女ハ其夫ノ分限ニ從テ可シ。

若シ其女ノ嫁婦トナリタル時既ニ佛蘭西ニ居住シ或ハ佛蘭西ニ居住ヲ定ム可キコトヲ陳述シテ皇帝ノ允許ヲ受ケ佛蘭西ニ歸リシ時ハ佛蘭西人タルノ分限ヲ復ス可シ。

第二十條 第十條第十八條第十九條ニ記載シタル場合ニ於テ佛蘭西人タルノ分限ヲ復ス可キ者ハ其數條ニ於テ必要ト爲リテ定ムル規則ヲ行フニ非レバ佛蘭西人タルノ分限ノ利益ヲ得テ能ハズ且其規則ヲ行ヒシ時ノ後ハ於テ其受タル所ノ權ヲ行フコトヲ得可シ。

第二十一條 皇帝ノ允許ヲ得ズシテ外國政府ノ兵籍ニ入り又ハ外國ノ兵役ニ加リシ佛蘭西人ハ佛蘭西人タルノ分限ヲ失フ可シ。

此佛蘭西人ハ皇帝ノ允許ヲ得ルノ外佛蘭西ニ歸ルヲ得可カラズ且外國人ノ佛蘭西人トナルニ付キ必要ト爲シタル規則ヲ行スニ非ザレバ佛蘭西人タルニ限ラズ復テ能ハズ但シ此條ニ記スル所ト國ニ叛キ兵器ヲ弄シ又ハ尋ヒレトヒシ佛蘭西人ヲ刑法ニ於テ罰ス可キ規則ト相抵触スルヲナカル可シ

第二款 裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタルニ因リ民權ヲ奪フ事

第二十二條 裁判所ニ於テ第二十五條ニ記載スル刑ノ民權ニ參加ス可カラザルニ至ル可キ刑ノ言渡ヲ受シ時迄死ニ法律上ニ於テ既ニ死タル者ト看做ヒルヲ云フ

第二十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケルニヨリ迄死ヲ生ス可シ

第二十四條 其他蒸期ノ施體刑ヲ以テ刑ハ法律ヲ以テ別段ニ定メタル時ノ外准死ヲ生ス可カラズ

第二十五條 准死ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其言渡シニ因リ已ニ屬スル物ヲ所有スルノ權ヲ失ヒ且遺囑ナク死タル者ト同一ノ方法ヲ用ヒ其者ノ所有物ヲ發有ス可キ者ハ其遺物相續ヲ爲ス可シ○其者ハ人ノ遺物相續ヲ爲スヲ得可カラズ又准死ノ言渡ノ後ニ已ノ所得ト爲シタル財產ヲ遺物相續ヲ爲サシム可キノ各義ヲ以テ人ニ傳ヘ與フルヲ得ス○其者自己ノ所有スル財產ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ與フルヲ得ス又養料ノ爲メノ外ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ各義ヲ以テ人ヨリ財產ヲ受クルヲ得ス○其者ハ幼者ノ後見人任ヲ榮タヌハ後見ノ職務ニ管シタル所爲ニ參加スルヲ得ス○其者ハ照法ノ證又ハ公正ノ證ニ付キ其證人トナリ又ハ裁判所ニ證ヲ告ルヲ得ス○其者ハ訴訟ヲ上告ス可キ裁判所ニ於テ此者ノ爲メ別段ニ任シタル事ヲトシ自己ノ財產ヲ支配スルコト能ハサル者ノ紹介ニ因リ其姓名ヲ用フルニ非ザレバ原告又ハ被告トナリテ裁判所ニ出ルヲ得ス○其者ハ民法ニ管シタル事ノ生ス可キ婚姻ノ契約ヲ爲ス可カラズ○其者ノ以前ニ結ビタル婚姻ノ總テ民法ニ管シタル事ニ付キ其婚姻ヲ解キタルト看做ス可シ○其者ノ配偶者及ヒ遺物相續人ハ其者ノ死去シタル時ニ於テ得可キ刑ノ權ヲ行ハズ

第二十六條 原告人ト被告人トノ面前ニ於テ刑ヲ言渡シタル時ハ其言渡ヲ受ケタル者ヲ其刑ニ行ヒシ日又ハ其罪

案ノ摘擧書ヲ街衢ニ掲示シタル日ヨリ後ニ非ザレバ准死ヲ生ス可カラズ

第二十七條 裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アル時ハ其者ノ罪案ノ摘擧書ヲ街衢ニ掲示シタル日ヨリ五年ノ後ニ非ザレバ准死ヲ生ス可カラズ但シ其五年ノ時間ハ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判所ニ出席スルヲ得可シ

第二十八條 裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其罪案ノ摘擧書ヲ街衢ニ掲示シタル日ヨリ五年ノ時間又ハ自カラ裁判所ニ出ル迄ノ時間又ハ其五年内ニ於テ捕獲ヲ受ル迄ノ時間民權ヲ行フ可キ權ヲ奪ハル可ク且他人ノ財產ヲ支配シ及ヒ其者ノ權ヲ行フ事ハ失跡者トシテ同ニ之ヲ行フ可シ

第二十九條 裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ其罪案ノ摘擧書ヲ街衢ニ掲示シタル日ヨリ五年内ニ自己ノ意ヲ以テ裁判所ニ出テタル時又ハ其五年内ニ捕獲ヲ受ケテ禁錮セラレタル時ハ前ニ言渡シタル刑ヲ全ク廢棄シ其刑ヲ受ケシ者已ニ屬スル財產ヲ所有スルノ權ヲ復シ新タニ後々裁判ヲ受ケ可シ若シ其裁判ニ因リ捕以テ前ニ言渡シタル刑ノ言渡ヲ受ケ又ハ其他ノ准死ヲ生ス可キ刑ノ言渡ヲ受ケシ時ハ其新ナル裁判ヲ行ヒシ日ヨリ准死ヲ生ス可シ

第三十條 若シ裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者五年ノ後ニ至リ裁判所ニ出テ又ハ捕獲ヲ受ケ新ナル裁判ニ因リ其罪ノ赦宥ヲ得又ハ准死ヲ生スルニ至ラザル刑ノ言渡ヲ受ケシ時ハ其裁判所ニ出タル日ヨリ以來全ク其民權ヲ復ス可シ然レ其五年ノ期限ノ終リシ時ヨリ裁判所ニ出タル日ヨリ至ル迄ノ時間ニ准死ヲ生シタル諸件ハ前ニ言渡シタル裁判ニ備ヒ之ヲ保リ可シ

第三十一條 若シ裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケシ者五年ノ期限ノ期限内ニ裁判所ニ出ルヲナク又ハ捕獲ヲ受ルヲナク死シタル時ハ全ク其權ヲ有シタル儘ヲ以テ死シタル者ト爲シ其裁判所ニ出席セザルニ付キ言渡ヲ受ケシ刑ハ全ク之ヲ廢棄ス可シ但シ此規則ト其刑ノ言渡ヲ受ケシ

者ニ債ノ未出可キ者ヨリ其死者ノ遺物相續人ニ對シテ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒテ訴訟ヲ爲ス可キ事ト相續人ニ對シテ得ル可シ

第三十二條 何レノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ刑ノ言渡ヲ受ケタル後定期ノ時間ニ其刑ニ處ヒラル、コトナキ時ハ其刑ヲ免ル、ニ至ルト雖モ其者ハ唯其刑ヲ免ル、コトヲ得ルノミヨリ民權ヲ復スルコトヲ得可カラズ

第三十三條 裁判所ヨリ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ノ准死ヲ受ケタル後ニ所得ト爲シタル物ヲ其者ノ死シタル日ニ尚所存シタル時ハ其者ノ人ニ遺物相續ヲ爲サシム可キノ權ナキヲ以テ其物ヲ官ニ沒收ス可シ然レ皇帝ハ刑ヲ受ケタル者ノ寡婦又ハ其兒又ハ其血屬等ノ爲メ仁恤ノ處置ヲ爲スコトヲ得可シ

第二章 民事ノ證書 比證書ハ其卷ノ第二章第三章第四章ノ出産婚姻死亡等ノ身上ニ管スル諸件ノ第四十條ニ依リて其簿冊ニ記シタルモノトシテ其簿冊ノ外別ニ證書アルニ非ズルコトナリ
八百三年三月十一日決定同月廿一日布告

第一章 總規則

第三十四條 民事ノ證書ニハ官吏ノ其證ノ陳述ヲ受ケル年月日時ト其書ニ記ス可キ人ノ姓名職業住所トヲ記ス可シ
第三十五條 民事ノ官吏ハ其證書中ニ出席ヲ爲シタル者ノ陳述シタル所ノ外行專ヲ論セス註解又ハ說明ノ爲メ記載スルコトヲ得可カラズ

第三十六條 本人ノ自カヲ出席スルニ及ハザル場合ニ於テハ別段ノ公正ノ證書以テシタル名代人ヲ出スコトヲ得可シ
第三十七條 民事ノ證書ニハ本人ノ血屬又ハ其他ノ者タルヲ問ハスニ二十一歳以上ノ男ノミヲ用フ可シ但シ其證人ハ本人ノ擇出所ニ從テ可シ

第三十八條 民事ノ官吏ハ其證書ヲ出席ヲ爲シタル者及ヒ證人ニ讀ミ聞カス可シ又其證書ニ其書ヲ讀ミ聞ヒタル式ヲ行ヒシコトヲ記載ス可シ

第三十九條 此證書ニハ民事ノ官吏ト出席ヲ爲シタル者及ヒ證人トニテ其姓名ヲ手署ス可シ又其出席ヲ爲シタル者及ヒ證人其姓名ヲ手署スルコトハ其旨ヲ記載ス可シ

第四十條 民事ノ證書ハ各コトニニテ一冊トシテ之ヲ區分シテニ於テ副本ヲ添タル一冊又ハ數冊ノ簿冊ニ記ス可シ
第四十一條 其簿冊ハ下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役其初葉ト冊尾トニ記号ヲ附シ且各葉ニ其姓名ヲ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ

第四十二條 民事ノ證書ハ其簿冊ニ空行ナク相連接シテ之ヲ記ルニ且塗抹及ヒ端書ノ符号モ本文ト同シク之ヲ承諾シテ其姓名ヲ手署ス可シ又其書中ニ略語ヲ用フ可ラス且其年月日時ハ數字ヲ用ヒ記ス可ラス

第四十三條 民事ノ官吏ハ歲終ニ至ル毎ニ其簿冊ヲ修整シテ一月内ニ其一冊ヲコトニシテノ書房中ニ藏メ又一冊ヲ下等裁判所ノ書記局ニ藏メ可シ

第四十四條 名代人ヲ任スル證書及ヒ其他民事ノ證書ニ添ヘ置ク可キ書類ハ之ヲ出シタル人ト民事ノ官吏トニテ其姓名ヲ手署スルニ代用スル横線ヲ畫シタル後民事ノ證書ノ簿冊ノ一冊ト共ニ之ヲ下等裁判所ノ書記局ニ藏可シ

第四十五條 何人ヲ論セス民事ノ證書ヲ記シタル簿冊ヲ管守スル者ヨリ其簿冊ノ抄出書ヲ得ルコトヲ得可シ但シ此抄出書ノ其簿冊ト異ナリタルコトヲ且ツ下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ確的ナリト爲シタルモノハ製造タルコトヲ訴フルノ書ヲ出ス迄之ヲ真正ナリト爲ス可シ

第四十六條 其簿冊ノ未ダアヲササル時又ハ七失セシ時ハ其本人ヨリ證書又ハ證人ヲ以テ其由ヲ證スルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ死シタル父母ノ記シタル簿冊及ヒ書面又ハ證人ヲ以テ證明出產死去ヲ證スルコトヲ得可シ

第四十七條 佛蘭西人又ハ外國人ノ外國ニ於テ記シタル民事ノ證書ヲ其國ニ於テ用フル所ノ體裁ニ循ヒ記シタル時ハ之ヲ真正ノモノト爲ス可シ
第四十八條 外國ニ在ル佛蘭西人ノ民事ノ證ハ佛蘭西ノ辦理公使又ハ同士ノ佛蘭西ノ法ニ循ヒ其陳述ヲ受ケ之ヲ記シタル時法ニ適シタルモノト爲ス可シ

第六十一條 又船具ヲ取收ム可キ港ニ着セシ時ハ其乗組人ノ姓名簿ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏ハ其出産ノ證書ノ副本ヲ通テ其姓名ヲ手署シテ之ヲ其子ノ父ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達シ若シ其父ノ住所ノ分明ナラサル時ハ其母ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ但シ其官吏ハ其副本ヲ直ニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記スヘシ第六十二條 子ヲ既ニ證書ハ之ヲ其日ニ民生ノ證書ノ簿冊ニ記ルシ又其子ノ出産ノ證書アル時ハ其證書ノ端ニ其

第三章 婚姻ノ證書

第六十三條 民生ノ官吏ハ婚姻ヲ行ハシムル前其ヨムニエーノ官廳門前ニ二次公告ヲ出シ示ス可シ但シ其公告ハ初ノ公告ヨリ後ノ公告ニ至ルマテ其時間八日ヲ隔テ其一ハ必ス日曜日之ヲ爲ス可シ又此公告書及ヒ其公告ヲ爲シタルニ付キ記シタル證書ニハ夫婦トナル可キ者ノ姓名職業住所及ヒ下年タル事幼年タル事ト其父母ノ姓名職業住所トヲ記ス可シ且其證書其公告ヲ爲シタル日時及ヒ場所ニ至ル迄ヲ記シテ別ニ設ケタル簿冊ニ記ス可シ但シ其簿冊ハ第四十一條ニ記載スル所ニ均シク記號ヲ附シ横線ヲ畫シテ歲終ニ至ル毎ニアルロシヌマレ

第六十四條 初ハニ分告ヲ爲シタル日ヨリ復ヒ公告ヲ爲スニ至ル迄ノ其八日ノ時間ハ其公告ノ證書ノ摘出書ヲヨムニエーノ官廳門前ニ貼附シ置ク可シ○婚姻ハ後ニ公告ヲ爲シタル日ヨリ三日ヲ過サル前ニ之ヲ行フ可カラ

第六十五條 若シ後ヨリ公告ヲ爲シタル日ヨリ三日ノ期限ノ終リシ後一年內ニ婚姻ヲ行ハサル時ハ前條ニ記載シタル法式ヲ以テ更ニ公告ヲ爲サシル前ニ婚姻ヲ行フ可カラ

第六十六條 婚姻ノ故障ヲ述フル證書ノ正本及ヒ副本ハ其故障ヲ述フル者又ハ別段ノ公正ノ書ヲ以テ任テ受ケタル名代人其姓名ヲ手署シ其正本及ヒ副本ヲ若シ名代人ヲ任シタル時ハ名代人ヲ任スル書ノ副本ト共ニ婚姻ノ結

第六十七條 民生ノ官吏ハ送達ナク公告書ノ簿冊ニ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ簡易ニ登記ス可シ又其官吏ハ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ裁判所ニ於テ止メレシタル者波書ノ副本又ハ其故障ヲ述ヘタル者ノ自ラ之ヲ止メタル證書ノ副本ヲ受取リ此副本ヲ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ記シテ書ノ端ニ登記ス可シ

第六十八條 婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ其時民生ノ官吏ハ其故障ヲ述ヘタル者ノ其事ヲ自カラ止メタル證書又ハ裁判所ヨリ之ヲ止メレシタル者波書ヲ受取ラサル前ニ其者ヲテ婚姻ヲ行ハシムル可カラ若シ其官吏ノ此規則ニ背ク時ハ三百グラシノ罰金及ヒ總テ婚姻ノ故障ヲ述ヘタル者ノ爲メ生シタル損失ノ償ヲ出ス可キノ責ヲ受テ可シ

第六十九條 婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ其時ハ其由ヲ婚姻ノ證書ニ記ス可シ若シ又數箇ノヨムニエーニ於テ婚姻ノ公告ヲ爲シタル時ハ各ヨムニエーノ民生ノ官吏ヨリ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ其由ヲ記シテ波シタル證書ヲ婚姻ヲ行フト爲ス者ヨリ婚姻ヲ行フ可キヨムニエーノ官吏ニ出シ可シ

第七十條 民生ノ官吏ハ婚姻ヲ爲ス可キ者ヲレテ其出産ノ證書ヲ出シシムル可シ若シ婚姻ヲ爲ス可キ者其出産ノ證書ヲ得ルト能ハサル時ハ其出産ノ地又ハ其住所ノ最下等裁判所ノ裁判役ヨリ渡シタルトテエテハ其出産ノ地

第七十一條 戸トリエテハ其證書ハ男又ハ女タル事及ヒ血屬又ハ血屬ナラサル事ヲ問ハス證人七人ヲ用ヒ其證人ノ陳述スル所ト婚姻ヲ行フ可キ者ノ姓名職業住所及ヒ知ルトテ得可キ時ハ其父母ノ姓名職業住所且婚姻ヲ行フ可キ者ノ出産ノ地及ヒ知ルヲ得可キニ於テハ其出産ノ時ト出産ノ證書ヲ出スト能ハザルノ原由トニ至ル迄ヲ記載ス可シ○其證人ハ最下等裁判所ノ裁判役ト共ニ其戸トリエテハ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其證人

第七十二條 戸トリエテハ其證書ハ婚姻ヲ行フ可キ地ノ下等裁判所ニ之ヲ出ス可シ○其裁判所ニ於テアロキニルアンペリアルノ陳述スル所ヲ聽聞セシ後其證人ノ陳述スル所ト出産ノ證書ヲ出スト能ハザルノ原由トテ之

第九十一條 其簿冊ハ各兵隊ニ於テハ其指揮ヲ爲ス士官記號ヲ附シ及ヒ姓名ノ手寫ニ代用スル換練ヲ重シトス
第九十二條 軍中ニ於テノ出産ノ陳述ハ出産ノ日ヨリ十日以内ニ爲ス可シ
第九十三條 民生ノ證書ノ簿冊ヲ管守スル任ヲ受ケタル士官ハ其簿冊ニ出産ノ陳述ヲ記セル時ヨリ十日内ニ其指揮
書ヲ出産シタル子ノ父ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可ク若シ其父ノ分明ナラザル時ハ其母ノ最終ノ住所
ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ
第九十四條 兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ婚姻ハ其最終ノ住所ニ於テ公告ス可ク且其公告ハ婚姻ヲ行フ可キ時
ヨリ廿五日前ニ兵隊中ノ者ニ付テハ其隊中ヨリ命令書中ニ登記シ兵隊ヲ指揮セザル士官及ヒ軍中ニテ使用ス
ル者ニ付テハ一軍又ハ其一部ノ毎日ノ命令書中ニ登記ス可シ
第九十五條 民生ノ證書ノ簿冊ヲ管守スル士官ハ婚姻ノ證書ヲ簿冊ニ記シタル後直チニ其副本一通ヲ夫婦ノ最終
ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ
第九十六條 死去ノ證書ハ各兵隊ニ付テハハルチエーメイト此證人三員ノ證ヲ得テ之ヲ記ス可ク又兵隊ヲ指揮セ
ザル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ付テハ一軍ノ副官ノ監察官三人ノ證ヲ得テ之ヲ記ス可ク但シ其證書ノ
摘要書ハ十日以内ニ死者ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ
第九十七條 搬運ス可キ兵病院又ハ搬運ス可カラザル兵病院ニ於テ死去シタル時ハ其病院ノ支配人死去ノ證書ヲ
記シ之ヲ死者ノ兵隊ノハルチエーメイト此又ハ一軍或ハ其一部ノ副官ノ監察官ニ送リ此等ノ士官ヨリ其證書ノ
副本一通ヲ死者ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ
第九十八條 前ノ數條ニ記載シタル死者ノ住所ノ民生ノ官吏ハ兵隊ヨリ民生ノ證書ノ副本ヲ受取リテ時直チニ之
ヲ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記ス可シ

第六章 民生ノ證書ノ改訂事

第九十九條 民生ノ證書ヲ改訂可キノ願ヲ爲ス者アル時ハ其所轄ノ裁判所ニ於テテロキリウルクアンペリアルノ陳
述スル所ヲ曉問シ其更改ノ旨渡ヲ爲ス可シ但シ此裁判所ノ旨渡ニ服セザル者ハ更正トシ其裁判所訴出ス可キヲ得
可シ○其民生ノ證書ニ管シタル數人ノ者ヲ呼出ス可キノ理アル時ハ之ヲ呼出ス可シ
第一百條 何レノ時ニ雖モ民生ノ證書ニ管シル者ノ中ニテ改訂ヲ願ハヌ又ハ之ヲ改訂ルニ付キ呼出ヲ受ケザル
者アル時ハ其證書ヲ改訂ルノ旨渡ヲ強テ其者ニ對シテ行テ得可キヲ得
第一百一條 民生ノ證書ヲ改訂ス可キ旨渡書ハ民生ノ官吏之ヲ受取リタル後直チニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記シ且之ヲ
登記シタル下ニ其改訂タル民生ノ證書ノ端ニ記ス可シ
第一百二條 第三卷 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百二十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百三十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百四十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百五十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百六十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百七十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百八十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十一條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十二條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十三條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十四條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十五條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十六條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十七條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十八條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第一百九十九條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布
第二百條 住所ノ八百三十三號三月十四日決定同月廿五日公布

第百二十三條 失踪者ノ最親ノ遺物相續人其財産ヲ假ニ所有ト爲スヲ得タル時其失踪者ノ遺囑書アルニ於テハ失踪者ニ管シタル者又ハ其地ノ裁判所ノプロキュールアンペリアルノ求メニ因リ其遺囑書ヲ開封シ失踪者ノ生存中ノ贈遺遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者及ヒ其他失踪者ノ死後ニ其財産ヲ得可キノ權アル者假ニ其權ヲ行フヲ得可シ但シ此事ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

第百二十四條 財産ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者失踪公告ノ言渡ノ後其財産ノ共通ヲ繼續セント欲スル時ハ其失踪者ノ財産ヲ遺物相續人ノ假ニ所有トナス事及ヒ其失踪者ノ死シタル後ニ其財産ヲ得可キ權アル者ノ假ニ其權ヲ行フ事ヲ拒ム配偶者自カテ其失踪者ノ財産ヲ支配スル特權ヲ得又ハ保ツコトヲ得可シ○又其配偶者其財産ノ共通ヲ假ニ解除セント求ムル時其財産ヲ取戻スノ權其法律上ニ於テ得ル所ノ權其契約ニテ得タル所ノ權ハ第三條ニ詳ナリ行フヲ得可シ但シ失踪者ノ現出シタル時還與ス可キ財産ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

第百二十五條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スヲ得タル者ハ唯其財産ノ附托ニ依リテ受タルノニ限リテ其者ハ失踪者ノ財産ヲ支配スルノ權ヲ有シ失踪者ノ現出スル時又ハ其消息ヲ得ルコトアル時失踪者ニ其失踪中ノ財産ヲ支配シタル其計ヲ爲ス可シ

第百二十六條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スヲ得タル者又ハ失踪者ノ財産ノ共通ヲ繼續セント求ムル時其配偶者ハ下等裁判所ノプロキュールアンペリアルノ面前又ハ其官吏ノ擇ミタル最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニ於テ其失踪者ノ動産金銀衣服家什等ノ及ヒ證書類ノ目錄ヲ記サシム可シ

其動産ノ全部又ハ一部ヲ賣拂フ可キノ道理アル時ハ裁判所ニ於テ其賣拂ヲ言渡ス可シ
其賣拂ヲ爲スル時ハ其賣拂ニ付テ得タル所ノ金額ヲ失踪者ノ利益トナル可キ法ニ用フ可シ又失踪者ノ爲メニ得タル金額モ亦同一ノ方法ニ處置ス可シ
失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スヲ得タル者ハ裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其失踪者ノ不動産ヲ檢視セシ

ノ其模様ヲ證明シタル書ヲ記サシムルコトヲ自己ノ安堵ノ爲メ求ムルコトヲ得可シ○此評價人ヲ記シタル書面ハプロキュールアンペリアルノ面前ニ於テ之ヲ確約ノモノト定ム可シ但シ其評價ノ費用ハ失踪者ノ財産中ヨリ取用フ可シ
第百二十七條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スヲ得タル者又ハ法律上ニ於テ支配スルコトヲ得タル者其失踪者失踪ノ時ヨリ全周十五年内ニ再ヒ現出スルニ於テハ其所得ト爲シタル入額ノ五分ノ一ヲ失踪者ニ還シ十五年後ニ現出スルニ於テハ十分ノ一ヲ還ス可シ

三十年間失踪ノ後ハ其失踪者ノ財産ノ入額ノ全數ヲ其財産ヲ假ニ所有トナス者又ハ法律上ニ於テ支配スルコトヲ得タル者ノ所得ト爲ス可シ
第百二十八條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲ス者ハ其失踪者ノ不動産ヲ人ニ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハイボテリシモ未屋等ノ借入貸付等ヲ但シテ爲スコトヲ得可キカラス

第百二十九條 失踪者ノ財産ヲ其遺物相續人ノ假ニ所有ト爲スヲ得タル時ヨリ三十年間其失踪者ノ現出セサル時又ハ財産ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者其財産ヲ支配シタル時ヨリ三十年間其失踪者ノ現出セサル時又ハ其失踪者ノ生シレ時ヨリ全周百年ヲ經タル後其失踪者ノ現出セサル時ハ裁判所ヨリ其保證ノ免除ヲ言渡シ其失踪者ノ財産ヲ得可キ權アル者ハ下等裁判所ニ其財産分派ノ事ヲ訴出シ其財産ヲ真ノ所有ト爲スノ言渡ヲ受クルコトヲ得可シ

第百三十條 失踪者ノ死去セシ證アル時ハ其時ノ最親ノ遺物相續人ノ爲メ其時ヨリ遺物相續ノコトヲ行ヒ始ム可シ但シ其失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲シタル者ハ第百二十七條ニ記載スル所ニ備ヒ其者ノ所得ト爲ス可キ利益ヲ除クノ外其財産ヲ其最親ノ遺物相續人ニ引渡ス可シ

第百三十一條 失踪者ノ再ヒ現出シタル時又ハ其財産ヲ假ニ所有ト爲ス時間ニ其失踪者生存ノ證アル時ハ賣買ノ爲タル失踪公告ノ言渡ヨリ生シタル諸件ヲ取消ス可シ但シ規則ト失踪者ノ財産ヲ支配ス可キ爲此卷第一章ニ記載セシ如シ財産ヲ保全スルノ爲置テ爲タル時ハ其專置ト相括屬スルコトヲ得可シ

同月二十二日布告ス

第五百五十二條 第四百四十八條ニ定ムタル齡ニ至リテ後男ハ三十歳ニ至ル迄女ハ二十五歳ニ至ル迄ノ時間前條ニ記載スル所ノ父母ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出シ其許シテ得サル時ハ其後月ヲ逐テ更ニ二次其證書ヲ出シ後ノ證書ヲ出セル時ヨリ一月後ニ至リテ婚姻ヲ行フヲ得可シ

第五百五十三條 三十歳ノ齡ニ至リン後ハ一次父母ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出シ其許シテ得スト雖モ一月後ニ至リテ婚姻ヲ行フヲ得可シ

第五百五十四條 父母ノ許諾ヲ請フノ證書ハハテイルニ負ヨリ又ハハテイル一自ト證人二負トヨリ第五百五十一條ニ記載シタル尊屬高曾祖父母、祖父母、父母、兄弟、姉妹、姪、孫、姪孫、曾孫、曾孫孫ノ親一人又ハ教人ニ送達ス可シ但シ此事ニ付キ記ス可キ證書ニハ其尊屬ノ親ノ答ヲモ亦記入ス可シ

第五百五十五條 若シ婚姻ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出ス可キ尊屬ノ親ノ失踪ノ時ハ其失踪公告ノ言渡書ヲ出シ又其言渡書ノアラサル時ハ失踪吟味ノ言渡書ヲ出シテ婚姻ヲ行フヲ得可シ若シ又其吟味ノ言渡書ノアラサル時ハ尊屬ノ親ノ最終ノ住所ノ地ノ最下等裁判所ノ裁判官ヨリ渡シタルハテイルニ證書ヲ出シ婚姻ヲ行フ事ヲ得可シ○其ハテイルニ證書ニハ其裁判官職務ヲ以テ呼出シタル證人四員ノ述フル所ヲ記ス可シ

第五百五十六條 滿二十五歳ニ至ラサル男又ハ滿二十一歳ニ至ラサル女ノ契約シタル婚姻ニ付キ其父母又ハ祖父母ノ許諾又ハ親族ノ許諾ヲ得ルノ必要ナル時其許諾セシテ婚姻ノ證書ニ記サスシテ其婚姻ヲ行ハシメタル民生ノ官吏ハ此婚姻ニ管セシ者ノ許ニ因リ又ハ其婚姻ヲ行フタル地ノ下等裁判所ノアロキリウルアルニリアルノ求ニ因リ第五百九十二條ニ記載シタル罰金ノ言渡書ヲ出シ且六月ヨリ少ナカラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第五百五十七條 父母ノ許諾ヲ請フノ證書ノ必要ナル時其書ナクシテ婚姻ヲ行ハシメタル民生ノ官吏ハ同上ノ罰金ノ言渡書ヲ受テ且一月ヨリ少ナカラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第五百五十八條 第四百四十八條第五百四十九條ニ記載シタル規則及ヒ父母ノ許諾ヲ請フノ證書ノ一ニ付キ第五百五十一

條第五百五十二條第五百五十三條第五百五十四條第五百五十五條ニ記載シタル規則ハ私生ノ子未ダ配婚セズレバ出生ミタルル子ヲ法ニ指シ裁子ナリト認メタル者ニモ亦適用シテ用フ可シ

第五百五十九條 私生ノ子ノ未ダ配婚セズレバ又ハ既ニ配婚セタル後父母ヲ亡ヒレ者又ハ其父母ノ其意ヲ表スルノ能ハサル者ハ滿二十一歳ニ至ラサル以前其者ノ為メ任シタル別段ノ後見人ノ許諾ヲ得ズレテ婚姻ノ契約ス可カラス

第六十條 滿二十一歳ニ至ラサル男女其父母及ヒ祖父母ノ共ニアラサル時又ハ共ニ其意ヲ表スルノ能ハサル時ハ其親族會議ノ許諾ヲ得ズレテ婚姻ノ契約ス可カラス

第六十一條 宗系ノ親ニ於テハ法ニ違レタル卑屬及ヒ尊屬ノ親又ハ法ニ違セサル卑屬及ヒ尊屬ノ親ヲ論セス其間ニ互ニ婚姻ヲ為レ又ハ宗系ノ姻屬ノ親ノ間ニ互ニ婚姻ヲ為スヲ禁ズ

第六十二條 傍系伯叔父母及ヒ兄弟ノ親ニ於テハ法ニ違レタル兄弟姉妹ト法ニ違セサル兄弟姉妹トヲ論セス其間ニ互ニ婚姻ヲ為レ又ハ同級ノ兄弟姉妹ト姪男ノ姻屬ノ親ノ間ニ互ニ婚姻ヲ為スヲ禁ズ

第六十三條 又伯叔父ト姪女ト伯叔母ト姪男ト互ニ婚姻ヲ為スヲ禁ズ

第六十四條 一千八百三十二年四月十六日如此換之然レ至重ノ道理アル時ハ第六十二條ニ記載シタル同級ノ姻屬ノ親互ニ婚姻ヲ為スノ禁及ヒ第六十三條ニ記載シタル伯叔父ト姪女ト伯叔母ト姪男ト互ニ婚姻ヲ為スノ禁ヲ廢止スルヲ得可シ

第二章 婚姻ヲ行フニ付テノ法式

第六十五條 婚姻ハ夫婦トナル可キ者ノ中其一人ノ居住スル地ノ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ

第六十六條 第六十三條民生ノ證ニ記載シタル二次ノ公告ハ夫婦トナル可キ者ノ住所ノコミニユービノ官廳ニ於テ之ヲ為ス可シ

第六十七條 若シ又現今所在ノ住所ニ居ル六月ニ滿テサル時ハ其地ニ移住セリ前最終ノ住所ノコミニユービ

ノ官廳ニ於テモ亦其公告ヲ爲ス可シ

第六十八條 婚姻ヲ爲ス可キ雙方ノ者又ハ一方ノ者婚姻ノ事ヲ小指令ヲ受ク可キ時ハ其指令ヲ爲ス者ノ住所ノ地ノヨリニ官廳ニ於テモ亦其公告ヲ爲ス可シ

第六十九條 至重ノ遺理アル時ハ皇帝又ハ皇帝ノ特ニ任シタル官吏ヨリ後ノ公告ヲ廢スルコトヲ得可シ

第七十條 外國ニ於テ佛蘭西人等ノ互ニ契約シタル婚姻又ハ佛蘭西人ト外國人ト互ニ契約シタル婚姻ハ其國ニ於テ用アル所ノ法式ヲ以テ之ヲ行ヒ且預メ第六十三條ノ條ニ記シタル公告ヲ爲シ其佛蘭西人前章ニ記シタル規則ニ違背スルコトナキ時ハ其婚姻ヲ法ニ適シタルモノト爲ス可シ

第七十一條 佛蘭西人ハ佛蘭西領地内ニ歸リ來リし時ヨリ三月内ニ外國ニ於テ爲シタル婚姻ノ證書ヲ其居住スル地ノ官廳ニ提出シ登記セシム可シ

第三章 婚姻ノ故障ヲ述フル事

第七十二條 婚姻ノ故障ヲ述フルノ權ハ婚姻ヲ爲ス可キ者ノ中一方ノ配偶者ニ屬ス可シ

第七十三條 又父若シ父ナキ時ハ母又父母共ニナキ時ハ祖父父母ヨリ其子及ビ卑屬ノ親ノ齡二十五歳以上ナル時ト雖モ其婚姻ノ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第七十四條 尊屬ノ親ナキ時ハ丁年ノ兄弟姉妹伯叔父母從兄弟從姉妹左ノ二箇ノ場合外婚姻ノ故障ヲ述フル可カラス

第七十五條 前條ニ記載シタル二箇ノ場合ニ於テヤニトシ又ハ復見人ノ其職務ヲ行フ間ハ其集會ヲ爲サレ

第七十六條 婚姻ノ故障ヲ述フルノ權ニハ之ヲ述フルノ權ヲ生ス可キ倫序身位ト婚姻ヲ行フ可キ地ニ住所ヲ擇ビタルトト記ス可シ又尊屬ノ親ヨリ故障ヲ述フル時ノ外ハ亦其意思ヲ記ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其故障ヲ述フル證書ヲ取消シ且其證書ニ姓名ヲ手署シタル官廳ハ暫時其職ヲ罷ス可シ

第七十七條 下等裁判所ニ於テハ婚姻ノ故障ヲ止ムルノ訴アル時之ヲ十日内ニ審判ス可シ

第七十八條 若シ下等裁判所ノ審判ニ服セスレテ更ニ上等裁判所ニ訴出シタル時ハ上等裁判所ニ於テ其時ヨリ十日内ニ其故障ヲ止ムルニ付テハ審判ヲ爲ス可シ

第七十九條 若シ裁判所ニ於テ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルコトヲ聽サハル時ハ之ヲ述ヘタル者尊屬ノ親ヲ除クノ外故失フ價ヲ可キ有渡テ受ク可シ

第四章 婚姻取消ノ訴

第八十條 夫婦雙方又ハ其一方ノ同意ノ承諾ナクシテ契約シタル婚姻ハ其雙方又ハ同意ノ承諾ヲ爲サハル其一方ニ非レハ婚姻取消ノ訴ヲ可カラス

第八十一條 前條ニ記載スル所ノ場合ト雖モ夫婦全ク其自由ヲ得又ハ其錯誤ヲ知リタル時ヨリ六月間絶エズ同居シタル時ハ婚姻取消ノ訴ヲ可カラス

第八十二條 父母及ビ其他尊屬ノ親ノ許諾又ハ親族會議ノ許諾ノ必要ナル時其許諾ヲ得ステテ契約シタル婚姻ハ其許諾ヲ爲ス可キ者又ハ夫婦中ニテ其許諾ヲ要スル者ニ非レハ其婚姻ノ取消ヲ訴フ可カラス

第八十三條 婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ者若シ明知シテ其許諾ヲ爲シタル時又ハ其婚姻ヲ爲スコトヲ知リタル後其取消ノ訴ヲ爲スコトヲ一年ノ時間ヲ経過シタル時ハ夫婦又ハ婚姻ノ許諾ヲ爲シタル者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ爲ス可カラス又夫婦中一方ノ者自ガテ婚姻ノ承諾ヲ爲スコトヲ得可キ齡ニ至リし時ヨリ一年ノ時間其婚姻

取消ノ訴ヲ為スナキ時ハ亦其訴ヲ為ス可カラス

第百八十四條 第百四十四條第百四十七條第百六十一條第百六十二條第百六十三條ニ記載シタル規則ニ背キテ設

約シタル婚姻ハ夫婦又ハ婚姻ノ下ニ管スル者或ハ其ニステルビヨリ其取消ノ訴ヲ為ス可キ得可レ

第百八十五條 然レ婚姻ヲ行フニ必要ト為ス可キ齡ニ未タ至ラサル夫婦又ハ其一方ノ契約シタル婚姻ハ其雙方又

ハ一方ノ其齡ニ至リレヨリ後六月ヲ經タル時又ハ婚姻ノ未タ其齡ニ至ラスト雖モ婚姻ヲ行ヒレヨリ六月ヲ經タ

ル前ニ既ニ懐胎シタル時ハ其取消ノ訴ヲ為ス可カラス

第百八十六條 前條ニ記載シタル場合ニ於テ結ビタル婚姻ヲ許シタル父母又ハ其他尊屬ノ親及ヒ親族ハ其取消

ノ訴ヲ為ス可カラス

第百八十七條 第百八十四條ニ記載スル所ニ指シ婚姻ニ管スル者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ為ス可キ場合ト雖

モ其傍系ノ親又ハ前婚ノ子ハ其婚姻取消ニ付キ現ニ管保アル時ニ非レハ夫婦ノ共ニ生存スル時間其婚姻取消ノ訴

ヲ為ス可カラス

第百八十八條 夫又ハ婦其配偶者ノ別ニ婚姻ヲ結ビタルニ因リ害ヲ蒙リレ時ハ其配偶者ノ生存中ニ於テモ其婚姻

ノ取消ノ訴ヲ為ス可キ得可レ

第百八十九條 又再婚シタル夫又ハ婦前婚ノ既ニ取消トナリタルトテ述ル時ハ裁判呀ニ於テ其前婚ノ既ニ取消ト

ナリタルヤ否ヤ先ニ審判ス可シ

第百九十條 前條ノリウレアンベリルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ夫婦ノ共ニ生存スル間ニ其婚姻

ノ取消シ其夫婦ノ別ニ離別セシム可キ言渡ヲ得ト前テ可レ但レ第百八十五條ニ記載スル所ハ格別ナリトス

第百九十一條 公ケニ契約シタルトナキ婚姻又ハ相當ノ官吏ノ面前ニ於テ行ハサル婚姻ハ夫婦自身又ハ父母及

其他尊屬ノ親又ハ婚姻取消ニ付キ現ニ管保アル者又ハ「ニステルビヨリ」ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ為ス可キ得可レ

第百九十二條 卷レ婚姻ヲ為スニ預ルニ次ノ公告ヲ為サル時又ハ法ニ於テ許シタル免除ヲ得サル時又ハ公告ト

婚姻ヲ行フトノ間ニ背キタル時ハ「ロ」ヨリウレアンベリルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ夫婦ノ共ニ生存スル間ニ其婚姻

ノ取消シ其夫婦ノ別ニ離別セシム可キ言渡ヲ得ト前テ可レ但レ第百八十五條ニ記載スル所ハ格別ナリトス

第百九十三條 第百六十五條ニ記載シタル規則ニ背キタルトナル時裁判所ニ於テ婚姻取消ノ言渡ヲ為スニ及ハサ

ルノ審判アリト雖モ前條ニ記シタル者ハ其記スル所ノ罰ヲ受ク可シ

第百九十四條 何レノ人ヲ論ス民生ノ證書ノ簿冊ニ記シタル婚姻ノ證書ノ抄出書ヲ出サレ時ハ夫婦ノ名義ト

婚姻ニ因リ生ヌ可キ民法ニ管シタル條件トヲ求ム可カラス但シ第百九十六條ニ記載シタル場合ハ格別ナリトス

第百九十五條 現ニ夫婦タルノ果状アリト雖モ夫婦ナリト述フル者ハ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行フタル證

書ノ抄出書ヲ出サレルコトヲ得ス

第百九十六條 現ニ夫婦タルノ果状アリテ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行フタル證書ノ抄出書ヲ出シタル時ハ

其夫又ハ婦ヨリ其證書ヲ取消ノ訴ヲ為ス可キ得ス

第百九十七條 然レ第百九十四條第百九十五條ニ記載シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦ノ果状アル者其生ヌタル子ア

リテ共ニ死去シタル時其子ハ其死者ノ子タルノ果状アリテ其出生ノ證書ニモ之ニ及シタルトナキニ於テハ其婚

姻ヲ行フタル證書ヲ出サレルコトヲ以テ口實トナシ其子ノ出生ニ非サルトテ述フ可カラス

第百九十八條 若シ犯罪ノ訴訟ニ因リ正シテ婚姻ヲ行ヒレ雖モ頭ハル時ハ其裁判ノ言渡ヲ民生ノ證書ノ簿冊ニ記ス

ルコトヲ以テ其夫婦及其婚姻ニ因リ生シ子ニ付キ其婚姻ヲ行ヒシヨリ純テ民法ニ管シタル條件ヲ得セシム可シ

第百九十九條 夫婦タル可キ雙方又ハ一方ノ者官吏ノ許情ヲ知ラズシテ死去シタル時ハ其婚姻ノ法ニ違シタルモ

ノト為テニ管シタル者及ヒ「ロ」ヨリウレアンベリルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦ノ果状アル者其生ヌタル子ア

リテ共ニ死去シタル時其官吏既ニ死去シタル時ハ其婚姻ニ管スル者ノ訴訟ニ從ヒ其面前ニ於テ「ロ」

ヨリウレアンベリルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦ノ果状アル者其生ヌタル子アリテ共ニ死去シタル時其官吏既ニ死去シタル時ハ其婚姻ニ管スル者ノ訴訟ニ從ヒ其面前ニ於テ「ロ」

ヨリウレアンベリルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦ノ果状アル者其生ヌタル子アリテ共ニ死去シタル時其官吏既ニ死去シタル時ハ其婚姻ニ管スル者ノ訴訟ニ從ヒ其面前ニ於テ「ロ」

第二百一十一條 婚姻ヲ取消スノ旨渡アリト雖正意ヲ以テ其婚姻ヲ結ビタル時ハ夫婦及ヒ其子ニ付キ其婚姻ヨリ民法ニ管スル事件ヲ生ス可シ

第二百一十二條 夫婦中一方ノ者ノ正意ヲ以テ婚姻ヲ結ビタル時ハ其存及ヒ其婚姻ニ因テ生レシ子ノ為メニ付キ其婚姻ヨリ民法ニ管スル事件ヲ生ス可シ

第五章 婚姻ヨリ生スル義務

第二百一十三條 夫婦ハ婚姻ヲ行ヒシヨリニ因リ相共ニ其子ヲ養育スルノ義務アリトス

第二百一十四條 子ハ婚姻ヲ為シテ産業ヲ定ムル事及ヒ其他ノ事ニテ産業ヲ定ムル事ニ付キ其父母ニ對シテ婚ヲ為スノ權ナシ

第二百一十五條 子ハ父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ノ窮乏ナル時之ヲ養フ可シ

第二百一十六條 又婿及ヒ婦ハ前條ニ記シタル場合ニ於テ其舅姑ヲ養フ可シ然レトモ再婚シタル時又ハ婿及ヒ婦ノ配偶者及ヒ其子ノ共ニ死去シタル時ハ義務ナシトス

第二百一十七條 前條ニ記シタル義務ハ舅姑ノ婚婦ニ於ケルモ亦同一ナリトス

第二百一十八條 養料ハ之ヲ得シメスル者ノ要スル所ト給スル者ノ家産トノ割合ヲ以テ與フ可シ

第二百一十九條 若シ養料ヲ給與スル者既ニ之ヲ與フルコト能ハサルニ至リシ時又ハ養料ヲ受ル者其全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ要セザルニ至リシ時ハ全ク其養料ヲ給スルコトヲ止メ或ハ之ヲ減スルノ訴ヲ為スコトヲ得可シ

第二百二十條 養料ヲ給ス可キ人ノ之ヲ給スルコト能ハサルノ證ヲ立ル時ハ裁判所ニ於テ其理由ヲ吟味シタル後養料ヲ受ク可キ者ヲ其住所ニ引取り之ヲ養フ可キノ旨渡ヲ為スコトヲ得可シ

第二百二十一條 又父母養料ヲ給ス可キ子ヲ已ノ住所ニ引取りテ養育ス可キコトヲ送フル時ハ裁判所ニ於テ其養料ヲ給スルニ及ハサルコトヲ旨渡ス可シ

第六章 夫婦ノ權利及ヒ義務

第二百二十二條 夫婦互ニ貞實ニシテ相扶持ス可シ

第二百二十三條 夫ハ其婦ヲ保護シ婦ハ其夫ニ聽順ス可シ

第二百二十四條 婦ハ其夫ト同居シ且夫ノ居住ヲ為サント欲スル地ニ隨行ス可シ又夫ハ其婦ヲ引取り已ノ家産ト分限トニ應シ生計ノ為メ費用ノ事件ヲ給ス可シ

第二百二十五條 婦ハ公ケノ商賣ナル時又ハ夫ト財產ヲ共通セサル時又ハ夫ト財產ヲ分チタル後雖モ其夫ノ許諾ヲ得ルニ非ザレハ裁判所ニ出テ訴訟ヲ為スコトヲ得ス

第二百二十六條 婦ノ重罪犯又ハ輕罪犯ニ因リ訴訟ヲ受ケタル時ハ其夫ノ許諾ヲ得スニテ裁判所ニ出ルコトヲ得可シ

第二百二十七條 婦ハ夫ト財產ヲ共通セス又ハ財產ヲ分チタル時雖モ其夫ト共證書ヲ記シ又ハ書ヲ以テ夫ノ許諾ヲ得ルニ非レハ人ニ物ヲ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハ引取テ下為シ又ハ費用ノ有無ヲ問ハス已ノ所得ト為スコトヲ得

第二百二十八條 若シ夫其婦ノ許諾ヲ記スルコトヲ許諾セサル時ハ其婦其夫ヲ相與ニ居住スル住所ヲ管轄スル下等裁判所ニ直チニ呼出サシム可シ但シ裁判所ニ於テハ裁判後會議ノ空ニ其夫ヲ呼出シ其送フル所ヲ聽キタル後又ハ之ヲ呼出シテ撤出布セサル時其允許ヲ為シ又ハ為ササルコト自由ナリトス

第二百二十九條 婦ノ公ケノ商賣ナル時ハ其商賣ニ管スルコトニ付キ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ為スコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テ夫婦互ニ其財產ヲ共通シタル時ハ其夫亦其契約ノ義務ヲ負フ可シ

婦ハ其夫ノ商品ノ賣買ヲ為スルニ付キ公ケノ商賣ナリト謂フ可カラズ刑ニ自カラ商賣ヲ為ス時ノミ之ヲ公ケノ商賣ナリト謂フ可シ

第二百三十條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ為サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時雖モ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ハ其婦ノ丁年又ハ幼年ナルヲ問ハ夫ノ罰ヲ受ル時問ハ裁判後ヨリ

ノ允許ヲ得スシテ訴訟及ヒ契約ヲ為スコトヲ得可カラズ但シ裁判所ニ於テハ其夫ヲ呼出シ又ハ其送フル所ヲ聽ルコトヲ得可シ

第二百三十一條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ為サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時雖モ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ハ其婦ノ丁年又ハ幼年ナルヲ問ハ夫ノ罰ヲ受ル時問ハ裁判後ヨリ

ノ允許ヲ得スシテ訴訟及ヒ契約ヲ為スコトヲ得可カラズ但シ裁判所ニ於テハ其夫ヲ呼出シ又ハ其送フル所ヲ聽ルコトヲ得可シ

第二百二十二條 若シ夫治産ノ禁ヲ受ケタル時又ハ失踪ノ時ハ裁判依其原由ヲ聽ルシテ其時ニ訴訟又ハ契約ヲ為ス可キノ外其許ヲ用フ可カラス

第二百二十三條 夫ヨリ婚姻ノ契約書ニテ其時ニ訴訟又ハ契約ヲ為ス可キ一般ノ許ヲ與ヘタリト雖モ其時ハ已ノ欺意ヲ支配スルノ外其許ヲ用フ可カラス

第二百二十四條 夫ノ丁年ニ至ラサル時ハ其訴訟及ヒ契約ヲ為スニ必ス裁判役ノ允許ヲ必要トス

第二百二十五條 允許ヲ得サルヲ以テ契約ヲ取消ス可キハ婦又ハ夫又ハ其遺物相續人ニ非レシテ之ヲ述フルコトヲ得ス

第二百二十六條 婦ハ其夫ノ許諾ヲ得ズシテ遺囑ヲ為ス可キヲ得ル

第二百二十七條 婚姻ヲ辭スル原由ハ左ノ數件ニアリ
第一 夫又ハ婦ノ死去スル事
第二 法律ニ依リ離婚ヲ言渡シタル事
第三 夫又ハ婦准死ニ至ル可キノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタル事

第二百二十八條 婦ハ前條ヲ辭シヨリ十月ノ後ニ非サレハ再婚ノ契約ヲ為ス可カラス

◎第六卷 離婚ノ原由
◎第一章 離婚ノ原由
◎第二十九條 夫ハ其妻ノ姦通ヲ以テ原由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

◎第三十條 婦ハ其夫ノ其家ニ女子ヲ蓄ヒ置キシ時其姦通ヲ以テ原由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十一條 夫婦中一方ノ者過慾苛虐又ハ至重ノ害ヲ受ケタルコトヲ以テ原由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十二條 夫婦中一方ノ者加辱ノ刑ヲ言渡サレ時ハ其言渡ヲ以テ原由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十三條 夫婦法律上ニ定メタル方法ヲ以テ互ニ相欺詭レ離婚ヲ求ムル旨ヲ固執シテ述ヘ且法律上ニ定メタル規則ヲ遵守セシ時ハ其妻ニ夫婦タルニ耐ヘズシテ離婚ヲ為ス可キ確切ノ原由アル十分ノ證ト為ス可シ

第二百三十四條 第一狀 定リレ原由アル離婚ノ規則
住所ヲ管轄スル下等裁判所ニ訴ヘ可シ

第二百三十五條 若シ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦ノ述ベタル事情ニ因リヨミニステールビニアリヨリ刑法ニ管レタル事
訟ヲ為スヨリ時ハ上等刑法裁判所ノ言渡アルニ至ル迄離婚ノ訴訟ヲ中止シ其言渡アリレ後ニ再ヒ離婚ノ訴訟ヲ始ルコトヲ得可シ但レ被告ノ夫又ハ婦ハ刑法裁判所ノ言渡ノ如何ナルヲ問ハス其言渡ヲ以テ原告ノ夫又ハ婦ノ訴訟ヲ為スニ付テ其後述ヲ可カラス

第二百三十六條 離婚ノ訴フル書ニハ其事情ヲ詳細ニ記ス可シ但レ其書ハ離婚ヲ訴フルニ要用ナル證書アル時ハ其證書ノ副本ト共ニ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦自カラ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ニ出ス可シ若シ其夫又ハ婦ニ病ニ罹リ此事ヲ為スニ能ハサル時ハ裁判役其者ノ願書ト内科外科ノ醫官二名又ハ下等醫師二名ノ證書トヲ受取タル後離婚ヲ訴フル者ノ住所ニ至リ其訴ヲ聽ク可シ

第二百三十七條 裁判役ハ離婚ヲ訴フル者ノ住所ヲ聽キ相當ノ問訊ヲ為シタル後離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ置キ此等ノ書類ヲ受取リレ證書ヲ記ス可シ且此證書ニハ裁判役及ヒ離婚ヲ訴フル者其姓名ヲ手署ス可シ但レ離婚ヲ訴フル者其姓名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第二百三十八條 裁判役ハ其職務ノ終尾ニ記シ定メタル日刻ニ原告被告雙方ノ者自身ニテ已レノ面前ニ出席ス可キコトヲ言渡ス可レ且之カ為メ裁判役自カラ其言渡書ノ寫ヲ被告ノ夫又ハ婦ニ送達ス可キコトヲ言渡ス可レ

第二百三十九條 裁判役ハ預定セシ日ニ至リ夫婦共ニ出席スル時ハ其雙方ノ者ニ對シテ又離婚ヲ訴フル者ノ出席スル時ハ其者ノヒニ對シテ和解ヲ為ス可キコトヲ暗示ス可レ若シ和解ヲ為サレムルコトヲ得サル時ハ其言ヲ調書ニ記シ離縁ヲ訴フル書及ヒ證書類ヲ「ミニステール」ビテ送達シテ其訴訟ヲ裁判所ノ審判ニ任ス可キコトヲ言渡ス可レ

第二百四十條 此時ヨリ三日内ニ裁判所ニ於テハ其上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ啓告ノ旨ト「ミニステール」ビテ送達スル所ノ旨トニ從ヒ原告人ニ被告入ヲ裁判所ニ呼出ス可キノ允許ヲ與ヘ又ハ暫ク之ヲ猶豫ス可レ但レ其猶豫ノ時間ハ二十日ヲ過ク可カラズ

第二百四十一條 原告人ハ裁判所ノ允許ヲ得タルニ因リ尋常ノ法式ニ循ヒ法律ニ於テ定メタル定期内ニ被告人自カラ内吟味ニ出席ヲ為ス可キ為メ裁判所ヨリ之ヲ呼出サレム可レ且其呼出書ト共ニ離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ノ寫ヲモ亦被告人ニ送達セシム可レ

第二百四十二條 法律ニ於テ定メタル定期ノ終リ時被告人ノ出席ヲ為スト否トヲ問ハス原告人ハ一人ニテ出席ヲ為シ又ハ代官人ト共ニ出席ヲ為シ其訴ノ趣意ヲ自カラ述ヘメハ代官人ヲテ述ヘレム可レ又原告人ハ證書類ヲ出シ其證人ノ姓名ヲ述フ可レ

第二百四十三條 被告人自カラ出席ヲ為シ又ハ名代人ヲ出席セシメ時ハ原告人ノ訴ノ趣意及ヒ證書類並ニ原告人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人ノ事ヲ付キ自カラ已ルヲ述ヘ又ハ名代人ヲテ之ヲ述ベシムルコトヲ得可レ又被告人ハ自己ノ方ニ於テ出席セシメント欲スル證人ノ姓名ヲ述フ可レ但レ原告人ハ被告人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人ノ事ニ付キ已レ悉ク述フルコトヲ得可レ

第二百四十四條 裁判役ハ原告被告ノ出席セラル事及ヒ其述ヘタル所並ニ其自陳レタル所ヲ調書ニ記シ其調書ヲ雙方ニ讀聞セシメ後雙方ヲテ其調書ニ姓名ヲ手署セシム可レ但レ其調書ニハ雙方共ニ姓名ヲ手署セラル事又ハ姓名ヲ手署スルコト能ハス或ハ手署スルコトヲ欲セサル旨ヲ述ヘタルコトヲ附記ス可レ

第二百四十五條 裁判所ニ於テハ原告被告ノ雙方ニ公ク内吟味ニ出席ス可キコトヲ言渡シテ其日刻ヲ定メ且内吟味ニ當レタル書類ヲ「ミニステール」ビテ送達ス可キコトヲ言渡シテ其訴訟ヲ裁判所ノ審判ニ任ス可レ若シ被告ノ出席セザル時ハ裁判所ノ言渡ニテ定メタル期限内ニ原告人ヨリ其言渡書ヲ被告人ニ送達セシム可レ

第二百四十六條 預定セシ日刻ニ至リ裁判所ニテ掛リ裁判役ヨリ啓告ニ從ヒ且「ミニステール」ビテ送達セラル後被告人他故ヲ述ヘ其訴訟ヲ拒ムコトアルニ先其拒ム所ヲ裁判所ニ告シ其拒ム所道連アル時ハ離婚ノ訴ヲ為ス可レ

第二百四十七條 離婚ノ訴ヲ為スコトアル後原告人ハ其訴訟ヲ拒ムコトアル時ハ離婚ノ訴ヲ為ス可レ

第二百四十八條 訴訟中何ノ時ニ於テモ雙方ノ者裁判役ノ啓告ノ後「ミニステール」ビテ其説ヲ述フル前ニ始テ他故ヲ以テ訴訟ヲ拒ムコトアルニ付キ後ハ訴訟ノ原告ニ付キ各其論辨ヲ為シ又ハ代官人ヲテ之ヲ論辨セシム可レ但レ原告人自カラ出席スルニ非ズハ其代官人ヲ出スコトヲ許ス可カラズ

第二百四十九條 裁判所ノ證人ノ吟味ヲ為ス可キ言渡ヲ為シタル後裁判所ノ書記官ハ直チニ調書ノ中ニテ雙方ヨリ出サント欲スル證人ノ姓名ヲ記セシメ部ヲ請上ク可レ○裁判所ノ上席人ハ雙方ノ者ニ此時猶他ノ證人ノ姓名ヲ送ルコトヲ得可レ雖モ後ニ至リテハ之ヲ許サル旨ヲ言聞ス可レ

第二百五十條 其後直ニ雙方ヨリ互ニ相忌避スル證人ニ付キ故障ヲ述ヘ裁判所ニ於テハ「ミニステール」ビテ其説ヲ述フル所ヲ聽キレ後其故障ノ可否ヲ裁判所ニ可レ

第二百五十一條 原告被告雙方ノ者ハ其子及ヒ卑屬ノ親ヲ除ク外其他ノ親族ニ付キ其親族タルヲ以テ證人ト為スノ故障ヲ述フ可カラズ又雙方ノ婢僕ニ付テモ其婢僕タルヲ以テ證人ト為スノ故障ヲ述フ可カラズ裁判所ニ於

テハ親族及ヒ婢僕ノ證ヲ聽ル可シ

第二百五十二條 證人ヲ以テ證ス可キトテ允許スル旨渡書ニハ吟味ヲ為ントスル證人ノ姓名ヲ記シ且雙方ヨリ其證人ヲ出席セシムル可キ日刻ヲ定ム可シ

第二百五十三條 證人ハヨニニステールビテリリ及ヒ原告被告並ニ其代理人又ハ其用友ノ面前ニ於テ内吟味ヲ受ケ其證ヲ述フ可シ但レ其代理人又ハ朋友ノ實ハ三人ニ過ク可カラス

第二百五十四條 原告被告ハ其相當ト思量スル所ヲ自カラ證人ニ心付ケ且問訊レ又ハ代理人アレテ之ヲ為サレム可シ但レ證人ノ其證ヲ述フル時間ハ辭ヲ奪フルコトヲ得ス

第二百五十五條 裁判所ニ於テハ證人ノ述フル所及ヒ其證人ニ原告被告ヨリ心付ケ且問訊セリ所ノ調書ニ記シ其調書ヲ雙方ノ者ト證人トニ讀聞セレ後皆其姓名ヲ手署セシム可シ又此等ノ者其姓名ヲ手署シタル時ハ其旨ヲ附記シ姓名ヲ手署スルコト能ハス或ハ姓名ヲ手署スルコト欲セサルコトヲ述フル時ハ亦其旨ヲモ附記ス可シ

第二百五十六條 雙方ノ證人ノ吟味ヲ為レ終リ後又ハ被告人ヨリ證人ヲ出サスレテ原告人ノ證人ノモノ吟味ヲ為レ終リ後裁判所ヨリ其雙方ノ者ニ公ケテ吟味ニ出席ス可キコトヲ旨渡シテ其日刻ヲ定メ且内吟味ニ備レタル審判官ニステールビテリリニ送達ス可キコトヲ旨渡シテ掛リ裁判役ヲ任ス可シ○其旨渡書ハ原告人ノ求メニテ其書中ニ記シタル定期内ニ被告人ニ送達ス可シ

第二百五十七條 決定ノ裁判ヲナス為メ定メタル日ニ於テ掛リ裁判役ヨリ裁判所ニ其啓告ヲ為シタル後原告被告雙方ノ者ハ其相當ト思量スル所ヲ自カラ述ベ又ハ代理人アレテ之ヲ述ベシ後ヨニステールビテリリニ其旨ヲ述フ可シ

第二百五十八條 決定ノ裁判ハ公ケテ旨渡ス可シ且原告人離婚ノ許レシ旨渡ヲ得タル時ハ民生ノ官吏ノ面前ニ至リ離婚ヲ旨渡サシムルコトヲ允許ヲ得可シ

第二百五十九條 過當苛重又ハ至重ノ審ヲ受ルニ因リ離婚ヲ訴フル時ハ其訴フル所ニ確證アリト雖モ裁判役直ニ離婚ヲ允許ス可カラス○此場合ニ於テハ裁判ヲ為ス前ニ婦ニ其夫ト居ラ分チテ其婦ノ意ニ從ヒ其夫ヲ容接スルニ

及ハサルコトヲ允許シ且婦ノ其生計ヲ為スニ足ル可キ人額ヲ有セサル時ハ夫ノ家産ニ准ヒシ養料ヲ其婦ニ給ス可キコトヲ旨渡ス可シ

第二百六十條 此ノ如ク一年ノ時間ヲ經過セシ後雙方猶協和セサル時原告人ハ法律ニ於テ定メシ定期中ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出サシムル旨渡ヲ得可シ

第二百六十一條 若シ夫又ハ婦ノ加辱ノ刑ヲ旨渡ラ受ケシニ因リ一方ノ者ヨリ離婚ヲ訴フル時ハ刑法裁判所ノ旨渡書ノ真正ノ寫ト此旨渡書ヲ法律ニ循ヒ更改ス可カラサル旨ヲ記シタル刑法裁判所ノ證書トテ下等裁判所ニ出スル旨ヲ以テ足レリトス

第二百六十二條 離婚ノ事ニ付テ下等裁判所ヨリ訴訟ヲ允許スル旨渡ヲ受ケハ離婚旨渡ヲ受ルト雖モ尚此等ノ旨渡ニ服セシメテ更ニ上等裁判所ニ訴出ス時ハ其上等裁判所ニ於テ之ヲ至急ノ事トシテ吟味シ其裁判ヲ為シ

第二百六十三條 下等裁判所ヨリ上等裁判所ニ訴出スルコトハ下等裁判所ニ雙方ノ者出席ヲ為シタルト一方ノ者ノ三出席ヲ為シタルトト問ハス其裁判旨渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス○又上等裁判所ノ裁判旨渡ニ服セシメテコトヲカサシヨシテ他ノ裁判所ニ旨渡シタル裁判所ニ訴出ル定期ニ其旨渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ之ヲ為ス可シ此コトヲカサシヨシテ訴出シタル時間ハ上等裁判所ノ旨渡ノ執行ヒテ中止ス可シ

第二百六十四條 下等裁判所又ハ上等裁判所ニ於テ離婚ノ旨渡ヲ得タル夫又ハ婦ハ二月内ニ民生ノ官吏ノ面前ニ至リ其旨吏ヲシテ離婚ヲ旨渡サシムル旨渡ヲ得ス但シ此時ハ被告人モ相當ノ法式ヲ以テ呼出ラ受ケ可シ

第二百六十五條 此二月ノ期限ハ下等裁判所ノ旨渡ニ付テハ上等裁判所ニ訴出ス可キ定期ノ終リシ時ヨリ之ヲ算メ又上等裁判所ニ訴出シタル時被告人ノ出席ヲ為スコトナク旨渡セシ裁判ニ付テハ其裁判執行ヒノ故障ヲ述フルコトヲ得可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算メ又上等裁判所ニ於テ雙方出席ノ旨渡シタル裁判ニ付テハコトヲカサシヨシテ訴出ス可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算メ可シ

第二百六十六條 原告人ノ被告人ヲ民生ノ官吏ノ面前ニ呼出サシムルコトナク前條ニ記セシ二月ノ期限ヲ經過シタル時ハ裁判官ノ利益ヲ失ヒ更ニ新ナル理由アルニ非サレハ再ヒ離婚ヲ訴フルコトヲ得ス但シ新ナル理由アリテ再ヒ離婚ヲ訴出シタル時ハ已ノ利益ノ為メ以前ノ理由ヲ述ケルコトヲ得可シ

○第二款 定リタル理由ノ為メノ離婚ニ付キ假リノ處置
第二百六十七條 離婚ノ訴訟中子ヲ假リニ管督スルコトハ離婚ノ原告タルト被告タルト問ハス其父之ヲ為ス可シ但シ子ノ利益ノ為メ母又ハ親族或ハ三ニステイルビブルノ訴ニ因リ裁判所ヨリ別段其處置ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第二百六十八條 婦ハ離婚ノ原告又ハ被告タルト問ハス其訴訟ノ時間夫ノ住所ヲ去リ夫ノ家産ニ准シタル養料ヲ得ント訴フルコトヲ得可シ○裁判所ヨリ婦ノ居住可キ家屋ヲ指示出且夫其婦ニ養料ヲ給ス可キ時ハ其額定ム可シ
第二百六十九條 婦裁判所ヨリ指示シタル家屋ニ居住スルノ證ヲ立リ可キ求メテ受ケン時ハ其證ヲ立リ可シ若シ其證ヲ立テサル時ハ夫其養料ヲ給ス可キコトヲ拒且其婦原告タル時ハ其訴ヲ繼續ス可カラサルノ言渡ヲ受可シ
第二百七十條 夫ト財產ヲ共通シタル婦ハ離婚ノ原告被告タルト問ハス第二百二十八條ニ記載シタル言渡ノ日ヨリ後其訴訟ヲ為ス時間何レノ時ト雖モ其權ヲ保護ス可キ為メ共通ノ財產ニ封印ヲ為スヲ訴フルコトヲ得可シ但シ其財產ノ評價ヲ為シテ其目錄ヲ記シ且夫ヨリ其目錄ニ記シタル財產ヲ引渡シ又ハ其價額ヲ拂フノ證ヲ立ルルニ非サレハ其封印ヲ除キス可カラズ

第二百七十一條 第二百三十八條ニ記シタル言渡ノ日ヨリ後夫婦共通ノ財產ヲ以テ債ヲ可キノ約定ニテ夫ノ負タル義務又ハ其言渡ノ後夫婦共通ノ不動產ヲ夫ヨリ妻拂フ可キ契約ハ其婦ノ權ヲ害ス可キ為メナシタルノ證アル時之ヲ取消ス可キコトヲ言渡ス可シ
○第三款 定リシ理由ノ為メノ離婚ノ訴ヲ他故ヲ述ヘ拒ム事
第二百七十二條 離婚ノ訴訟ヲ為スノ權ハ其訴訟ヲ起サシメタル事故アリシ後又ハ離婚ノ訴訟ヲ既ニ為シ始メタル後夫婦互ニ和解ヲ為スニ因リ消滅ス可シ

第二百七十三條 前條ノ場合ニ於テハ原告人其訴訟ヲ為ス可カラサルノ言渡ヲ受ク可シ然レ和解ノ後更ニ離婚ヲ訴フルノ理由アル時ハ其訴訟ヲ為シ且已レノ利益ノ為メ以前ノ理由ヲ述フルコトヲ得可シ

第二百七十四條 其訴訟ノ原告人ヨリ和解ヲ為シタルコトヲ述ル時ハ被告人此章ノ第一款ニ記シタル法式ニ循ヒ書面又ハ証人ヲ以テ和解ヲ為スルノ證ヲ立ツ可シ
○第三章 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為ス事
第二百七十五條 夫ノ二十五歳以下ナル時及ヒ婦ノ二十一歳以下ナル時ハ其雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ許ス可カラズ

第二百七十六條 二年間婚姻ヲ結ビシ後ニ非レハ雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ許ス可カラズ
第二百七十七條 既ニ二十年間婚姻ヲ結ビタル後又ハ婦ノ既ニ四十五歳以上ノ齡ニ至リシ時ハ雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ得ス

第二百七十八條 第五百十條ノ規則ニ均シク父母又ハ現存ノ尊屬ノ親ノ許可ヲ受ルニ非サレハ夫婦雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為ス可カラズ
第二百七十九條 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為シテ欲スル夫婦ハ先ツ雙方ノ動産及ヒ不動產ノ目錄ヲ記シ且其評價ヲ為シテ雙方ノ權ヲ定ム可シ但シ其權ヲ定メタル後ト雖モ雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ更改スルコト自由ナリトス

第二百八十條 又左ノ三件ニ付テハ雙方ノ契約スル所ヲ證書ニ記ス可シ
○第一 其婚姻ニ因テ生レシ子ハ訴訟ノ時間又ハ離婚ノ言渡ヲ受シ後何レノ方ニテ引受ク可キヤ
○第二 訴訟ノ時間婦ハ何レノ家屋ニ至リテ居住ス可キヤ

○第三 若シ婦其生計ヲ為スニ十分ナル入額ヲ有セサル時ハ訴訟ノ時間夫ヨリ其婦ニ幾許ノ金額ヲ給可キヤ
第二百八十一條 夫婦相與ニ自カラ其住所ヲ管轄スル下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判所ノ面前

ノ者又相送達ス可シ

第二百九十三條 下等裁判所ノ口ニステールビテリルハ上等裁判所ニ再次訴出シタル願書ノ副本ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内ニ下等裁判所ノ言渡書ノ副本及ヒ其言渡ヲ為スニ用ヒタル證書類ヲ上等裁判所ノ口ヨリ送達シ得タル子テールビテリルハ其言渡ヲ送達ス可シ○テロキリケルセテタールハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書面ヲ以テ其求ムル所ヲ述ベ上等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ヨリ上等裁判所ノ裁判役會議ノ室ニ其言渡ヲ為シ上等裁判所ニテテロキリケルセテタールノ求メテ記シタル書ヲ受取リ時ヨリ十日内ニ決定ノ裁判ヲ言渡ス可シ

第二百九十四條 離婚ヲ允許セシ上等裁判所ノ言渡ヨリ二十日內ニ雙方ノ者相與ニ自カラ民生ノ官夫ノ面前ニ至リ離婚ノ言渡ヲ受ク可シ若シ此定期ヲ過ル時ハ其離婚ノ言渡ヲ取済シタルト看做ス可シ

◎第四章 離婚ヨリ生ズル諸件

第二百九十五條 何レノ理由タルヲ問ハズ離婚シタル夫婦ハ互ニ復テ婚姻ヲ為ス可カラズ

第二百九十六條 走リタル理由ニ因リ離婚ノ言渡アル時ハ離婚ヲ受ケル婦其言渡ヲ受レ時ヨリ十月ノ後ニ非サルハ再婚ス可カラズ

第二百九十七條 雙方ノ承諾ニ因リ離婚シタル時ハ雙方共ニ其言渡ヲ受ケレ時ヨリ三年ノ後ニ非レハ再婚ス可カラズ

第二百九十八條 姦通ヲ為タルニ付キ裁判所ヨリ離婚ヲ言渡シタル時ハ姦通ヲ為タル夫又ハ婦其姦通姦夫ト婚姻ヲ為ス可カラズ且姦通ヲ為タル婦ハヨニステールビテリルノ求メテ離婚ノ言渡ト共ニ三月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁錮スルノ言渡ヲ受ク可シ

第二百九十九條 雙方ノ承諾ヲ以テ離婚セシ時ノ外ハ離婚ノ理由ノ如何ナルヲ問ハズ離婚ヲ受ケレ被告ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ契約ニ因リ原告タル配偶者ヨリ得タル利益ヲ失ヒ又ハ婚姻ノ契約セシ後得タル利益ヲ失テ可シ

第三百條 離婚ヲ得タル原告ノ夫又ハ婦ハ被告ノ婦又ハ夫ヨリ得タル利益ヲ與ヘタル利益ヲ保有ス可シ但シ其利益ハ原告

被告互ニ之ヲ與フ可キノ契約アリト雖モ原告ノミ之ヲ得可シ

第三百一條 夫婦互ニ利益ヲ與ヘタルトナキ時又ハ利益ヲ與フルノ契約アリト雖モ其利益ノミニテハ離婚ヲ得タル原告ノ夫又ハ婦ノ生計ヲ為スニ十分ナキナル時ハ裁判所ヨリ被告ノ婦又ハ夫ノ所有物中ニテ原告ノ夫又ハ婦ニ養料ヲ給ス可キノ言渡ス可シ但シ其養料ハ被告ノ入額ノ三分ノ一ニ過ク可カラズ○其養料ハ給與スルニ及ハサルニ至リレ時之ヲ廢ス可シ

第三百二條 子ハ離婚ヲ得タル原告ノ夫又ハ婦ニテ養フ可シ但シ裁判所ニ於テ親核又ハヨニステールビテリルノ求メニ因リ其子ノ利益ヲ為ノ皆之ヲ被告ノ夫又ハ婦又ハ他人ニ托レ或ハ其中ノ者ヲ此等ノ者ニ托ス可キノ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第三百三條 何レノ人ニ子ヲ托レタルヲ問ハズ父母ハ各其子ノ教育ヲ管督スルノ權ヲ保チ且ツ其家産ニ准レテ其教育ノ援助ヲ為ス可シ

第三百四條 裁判所ヨリ離婚ヲ允許セシニ因リ婚姻ヲ解キタルト雖モ其婚姻ニ因テ生レテ子ハ法律上ニテ父母ノ婚姻ノ契約ヨリ得可キ利益ヲ失フコトナカル可シ但シ其子權利ヲ得ントスルニハ父母ノ離婚ヲ為サ、ル時其子ノ之ヲ得可キ同一ノ方法ニ准ヒ且同一ノ票状アルコトヲ必要トス

第三百五條 夫婦雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為シタル時ハ其雙方ノ財産ノ半ヲ所有スルノ權ヲ初テ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述ヘタル日ヨリ其婚姻ニ因テ生レテ子ニ移ス可シ然レ其子ノ丁年ニ至ラサル時間其子ニ屬ス可キ財産ノ入額ハ父母之ヲ所得ト為シ其合限及ヒ家産ニ准レテ其子ノ教育スルコトヲ任ス可シ

但レ此規則ト父母ノ婚姻ノ契約ニ因リ其子ニ屬ス可キ他ノ利益ト相觸ル、コトナカル可シ

◎第五章 夫婦居分ノ事

第三百六條 定リレ理由ノ為メ離婚ヲ訴フ可キ道理アル時ハ夫婦其居分ヲ分ツ可キノ訴ヲ為シ自由ナリトス

第三百七條 夫婦ノ居分ヲ分クント為スノ訴ハ民法ニ管シタル他ノ訴訟ト同一ノ方法ヲ用ヒ之ヲ述ヘ且之ヲ吟味シ

其裁判ヲ為ス可レ但シ其居ヲ分ツ事ハ夫婦雙方ノ承諾ニヨリテ為ス可カラズ

第三百八條 婚後遺言ヲ為シタルニ付キ夫ト居ヲ分ツ可キ言渡ヲ受ケレ時ハヨニスケルヒテリシノ求ニ因リ其

言渡ハ共ニ三月ヨリ少ナカラズ二年ヨリ多カラザル時間惣湯場ニ禁錮スル刑ノ言渡ヲ受テ可レ

第三百九條 夫其婦ヲ再ヒ引取ル可キコトヲ承諾スルニ於テハ其居ヲ分ツ可キ言渡ノ取消ヲ願フコトヲ得可レ

第三百十條 婦ノ遺言ヲ除ク外其他ノ理由ニ付テ居ヲ分ツ可キコトヲ言渡セシ時ハ三年ノ後ニ至リ被告入ヨリ裁

判好ニ離婚ヲ祈フルコトヲ得可シ但シ其時裁判所ニテ原告入ヲ呼出シタル上原告入直チ三居ヲ分ツ言渡ノ取消ヲ

願フコトヲ承諾セザルニ於テハ離婚ヲ許ス可シ

第三百十一條 夫婦ノ居ヲ分ツ時ハ必ス亦其財産ヲ分ツ可シ

第七卷 父タル事及ヒ子タル事千八百三年三月二十三日決定第四月二日布告

第一章 婚姻ノ結ビタル間ニ生レテ子ヲ子ト為ス事

第三百十二條 婚姻ノ結ビタル間ニ生レテ子ヲ子ト為ス事ハ其夫ヲ以テ父トス

然レ其子ノ生レテ前ヨリ百八十日ニ至ル迄ノ時間ニ夫其妻ニ在ラズ又ハ事故アリテ其婦ト同居スルコトヲ

得サルノ時ハ其夫其子ヲ以テ我子ニ非スト為スコトヲ得可シ

第三百十三條 夫ハ己ノ身體ノ屬ナルコトヲ述テ其子ヲ我子ニ非スト為ス可カラズ又婦ノ遺言ノ理由ト為レ其子

ヲ我子ニ非スト為ス可カラズ但レ婦其子ノ出產ヲ夫ニ掩蔽シレ時ハ夫其子ノ父ニ非ナルコトヲ得可シ

夫其子ノ父ニ非ナルコトヲ得可シ

第三百十四條 婚姻ノ結ビタル日ヨリ百八十日ニ至テタル時間ニ生レシ子ハ左ノ場合ニ於テ夫我子ニ非スト為スコトヲ得

第一 夫婚姻ヲ為ス以前ニ婦ノ懐胎セシコトヲ知リタル時

第二 夫其子ノ出產ノ證書ヲ記スル立會ヲ為シ且其出產ノ證書ニ姓名ヲ不著シ又ハ姓名ヲ不著スルコトヲ知ラ

サルノ時

第三 其子ノ生存シ能ハサル時

第三百十五條 婚姻ヲ解キシ時ヨリ三百日後ニ生レシ子ハ夫我子ニ非サルノ訴ヲ為スコトヲ得可シ

第三百十六條 夫其子ヲ我子ニ非スト為スノ訴ヲ為シ得可キ場合ニ於テ夫其子ノ出產ノ地ニ在ル時ハ出產ノ時ヨ

リ一月内ニ之ヲ訴ヘ出ス可シ

若シ夫其子ノ出產シタル地ニ在ラザル時ハ其歸來ノ時ヨリ二月間ニ其訴ヲ為ス可シ

若シ婦其子ノ生レシコトヲ夫ニ掩蔽シシ時ハ夫其妻ヲ知リタル時ヨリ二月間ニ其訴ヲ為ス可シ

第三百十七條 若シ夫其子ヲ我子ニ非スト為スコトヲ訴ヘ得可キ定期内ニ其訴ヲ為サズレバ死セシ時ハ其子其死

者ノ財産ヲ所有ト為シタル時又ハ遺物相續人等其死者ノ財産ヲ所有スルニ付キ其子ノ故障ヲ述シ時ヨリ二月内

ニ其遺物相續人等其子ノ遺出ニ非サルコトヲ訴ヘ出ス可シ

第三百十八條 夫又ハ其遺物相續人等其子ヲ子ト為シタル證書ヲ記シタル日ヨリ雖モ裁判所外ニテ之ヲ記シタル時ハ

其時ヨリ一月内ニ其子ノ別段ノ後見人ニ對シ其母ノ面前ニ之ヲ訴訟ヲ為サハルニ於テハ其證書ヲ全ク記サハル

同ニ看做ス可シ

第二章 遺出ノ子ノ子タル證

第三百十九條 遺出ノ子ノ子タル證

第三百十九條 嫡出ノ子ハ子タル事ハ民生ノ證書ノ簿冊ニ記シタル出產ノ證書ニ因テ之ヲ證ス

第三百二十條 此證書ナシト雖モ嫡出ノ子タルノ景状ヲ數年間現ニ有スルコトアル時ハ嫡出ノ子ナリト爲スニ足ルノ證アリトス

第三百二十一條 子ト其子ノ竹屬ナリト言做シタル家族トノ間ニ互ニ親子タル可キノ關係ヲ證ス可キ事件ノ具ハル時ハ嫡出ノ子タルノ景状ヲ有スルモノト看做ス可シ但シ其事件中ニ於テ至重ナルモノハ

子其父ナリト言做タル者ノ姓ヲ常ニ帶用スル事
其子ナリト言フ者ヲ現ニ我子ト爲シテ取扱ヒ且其教育産業等ノ管督ヲ爲ス事
他人常ニ其者ヲ嫡出ノ子ナリト見做シタル事
其親族モ亦之ヲ嫡出ノ子ナリト見做シタル事

第三百二十二條 何レノ人ト雖モ出產ノ證書ニ從ヒ現ニ有スル所ノ景状ニ反シタル景状アリト自カラ述ルコトヲ得ス又出產ノ證書ニ從ヒ現ニ有スル所ノ景状ハ人ヨリ生テ可カラス

第三百二十三條 出產ノ證書ナク且多年ノ間子タルノ景状ヲ有スルコトナキ時又ハ姓名ヲ誤リ或ハ分明ナキナル父母ノ生ミタルモノト爲シテ其子ノ出產ノ證書ヲ記ルシタル時ハ證人ヲ以テ子タルノ證ヲ立ツルコトヲ得可シ然レ書面ニ據リ其證ヲ端緒アル時又ハ其景状ヲ思度スルニ其證ヲ立ルコト許スニ足ル可キ事アル時ニ非サレハ證人ニ因リ其證ヲ立ルコト許ス可カラス

第三百二十四條 其證ノ端緒ハ家系又ハ父母ノ私ノ簿冊及ヒ書類又ハ訴訟ニ管シタル者ノ公私ノ證書又ハ既ニ死去シタルト雖モ若シ生存スル時ハ其訴訟ニ管ス可キ者ノ公私ノ證書等ニ因テ之ヲ得可シ

第三百二十五條 之ニ反スルハ子ナリト言フ者其母ト言做シタル者ノ子ニ非サル事又ハ母ニ付テノ確證アリト雖モ其母夫ノ子ニ非サルコトヲ証スルニ足ル可キ事件ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第三百二十六條 子タルノ景状ヲ付テノ訴訟ヲ裁判スルコトハ民法裁判所ノ管轄ニアリトス

第三百二十七條 出產ノ證書ヲ廢棄又ハ滅盡シタル罪ニ付テノ訴訟ハ子タルノ景状ニ付キ起リシ訴訟ノ裁判確定ノ後ニ非レバ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十八條 子其父母ノ子ナリト述ル訴訟ヲ爲スニ付テハ定期ナシトス

第三百二十九條 子未タ子タルノ訴訟ヲ爲サスニテ死去シタルニ於テハ其子ノ未タ幼年ニテ死シタル時又ハ丁年ニ至リテ時ヨリ五年内ニ死シタル時ノ外其遺物相續人ヨリ其訴訟ヲ爲スコトヲ得可カラス

第三百三十條 若シ子其父母ノ子タルノ訴訟ヲ爲シ其訴訟ノ未タ審判ヲ得サル前ニ死去シタル時ハ其子ノ遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ爲スコトヲ得可シ但シ其子既ニ其訴訟ヲ止ムルコトヲ陳述シ又ハ最終ニ其訴訟ヲ爲シタル時ヨリ三年ノ時間ヲ其訴訟ヲ爲サスニテ經過セシ後ニ死去シタル時ハ其遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ爲スコトヲ得ス

第三章 私生ノ子

第一款 私生ノ子ヲ嫡出ノ子ト爲ス事

第三百三十一條 私生ノ子ハ亂倫姦通ニ因リ生レシ者ヲ除クノ外其父母後ニ婚姻ヲ結フ前ニ之ヲ我子ナリト認メ或ハ婚姻ノ證書ヲ以テ之ヲ我子ナリト認メタル時其父母ノ婚姻ヲ結ビタルニ因リ嫡出ノ子ト爲スコトヲ得可シ

第三百三十二條 私生ノ子車馬ノ親ヲ遺留シテ死去シタル時ト雖モ其死去ノ後ニ至リ亦之ヲ嫡出ノ子ト認メ爲スコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其死去セシ子ノ車馬ノ親ノ爲メ權利ヲ生ス可シ

第三百三十三條 私生ノ子其父母後ニ婚姻ヲ結ビタルニ因リ嫡出ノ子タルコトヲ得タル時ハ其父母ノ婚姻ヲ結ビシ後ニ生レタルト同一ノ權利ヲ有ス可シ

第二款 私生ノ子ヲ我子ナリト認ムル事

第三百三十四條 私生ノ子ヲ其出產ノ證書ヲ以テ我子ナリト認ルコトナキ時ハ別ニ公正ハ證書ヲ以テ我子ト認ルコトヲ得可シ

第三百三十五條 亂倫及ヒ姦通ニ因リ生レシ子ハ我子ナリト認ルコトヲ得ス

第三百三十六條 母の陳述及ヒ米諾ナク父ノニテ私生ノ子ヲ我子ナリト認メタル時ハ其父ノニ付キ其關係アリトス可シ

第三百三十七條 夫又ハ婦共配偶者ト婚姻ヲ爲シタル以前ニ其配偶者ニ非サシテ男又ハ女ニ因リ暴ク私生ノ子ヲ其婚姻ノ後我子ナリト認メタル時ハ其配偶者又ハ其婚姻ニ因リ生レシ子ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ然レ共婚姻ヲ解キシ後其婚姻ニ因リ生レシ子ノ生存スルコトナキ時ハ前項ノ私生ノ子ノ爲メ權利ヲ生ス可シ

第三百三十八條 私生ノ子ハ父母ノ子ナリト認メラレタルト雖モ嫡出ノ子ノ權利ヲ承ムルコトヲ得可カラズ但シ私生ノ子ノ權利ハ遺物相續ノ卷之ヲ記ス

第三百三十九條 父又ハ母ハ私生ノ子ヲ我子ナリト認ルコト及ヒ私生ノ子ヨリ其事ヲ求ムルコトハ之ニ管係アル者ヨリ故障ヲ述テ得可シ

第三百四十條 私生ノ子人ヲ指シテ我父ナリト許ヘ出ル事ハ之ヲ禁ス然レ母ハ強誘セラレタルト孕妊シタルト其時日ノ相近接シタル時ハ之ニ管係アル者ノ許ニ因リ強誘者ヲ以テ其子ノ父ト爲スコトヲ得可シ

第三百四十一條 私生ノ子人ヲ指シテ我母ナリト許ルコトハ之ヲ許ス人ヲ指シテ我母ナリト許ル私生ノ子ハ其母ノ生レシ子ト同人ナルノ證ヲ立テ可シ但シ此事ニ付テハ書面ニ據リ其證左端結アル時ノ外證人ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得可カラズ

第三百四十二條 第三百三十五條ニ從ヒ私生ノ子ヲ我子ナリト認ムルニ能ハザル場合於テハ其子人ヲ指シテ父又ハ母ナリト許ルコトヲ得可カラズ

附則 西民法二
法律書

中博士眞作譯

○第八卷 養子ノ事及ヒ自テイルヲヒトニ養ヒ其養見ヲ爲ス事 事千八百二十三年三月二十三日決定第四月二日布告

第一章 養子ノ事

第一款 養子ヲ 爲ス事及ヒ養子ヲ爲ス事ヨリ生スル諸件

第三百四十三條 男女之間ハ其齡五十歳以上ニシテ子又ハ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養子トナル可キ者ヨリ十五歳以上ノ年長ナル者ニ非レハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 一人ニシテ親トナル可キ夫婦ノ外二人以上ノ養子トナル可カラズ

第三百四十六條 記シタル場合ノ外夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非レバ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十五條 養子トナル可キ者ハ幼年ノ時六年以上ノ時間絶ヘズ養親トナル可キ者ヨリ資助監督ヲ受ケ又ハ戰闘及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ヲ養子ト爲スニハ養親トナル可キ者丁年ニシテ子及ヒ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養

子ト爲ル可キ者ヨリ高年ニシテ配偶者アル時ハ其配偶者其養子ヲ爲スコト承諾シタルコトヲ以テ足レリトス

第三百四十六條 何レノ場合ニ於テモ養子トナル可キ者未ダ丁年ニ至ラサル時ハ養子トナルコトヲ得ス○若シ養子トナル可キ者ノ父母共ニ生存シ又ハ父母ノ中一人生存シテ已レノ齡未ダ滿二十五歳ニ至ラサル時ハ其者ヨリ其

父母又ハ父母中ノ生存スル者ニ養子トナル可キコトノ承諾ヲ乞フ可シ又二十五歳以上ノ者ナル時ハ父母ノ誨諭ヲ得可キコトヲ求ム可シ

第三百四十七條 養子トナルコトハ己ノ姓ニ養親ノ姓ヲ兼用ス可シ

第三百四十八條 養子トナリタル者ハ猶其實家ノ指揮ヲ受ケ且實家ニ於ケル諸般ノ權利ヲ保ツ可シ但シ左ノ者等ハ五ニ婚姻ヲ結フヲ禁ス

養親ト養子トノ間及ヒ養親ト養子ノ車屬ノ親トノ間並ニ養子ト養親ノ車屬ノ親トノ間養子トナリシ者等ノ間

養子ト養親ノ養子ヲ為シタル後産ミタル子トノ間養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ養親ト養子ノ配偶者トノ間

第三百四十九條 法律ニ定メタル場合ニ於テ子タル者其父母ニ養料ヲ給ス可ク又父母ヨリ其子ニ養料ヲ給ス可キ天賦ノ義務ハ養親ト養子トノ間ニ於テモ亦五ニ之ヲ行フ可シトス

第三百五十條 養子ハ養親ノ親族ノ遺物相續ヲ為スノ權ナシ然レモ養親ノ遺物相續ヲ為スニ於テハ猶其實子タルト同一ノ權ヲ有ス可ク且養子トナリシ後ニ養親ノ實子ヲ擧ケタル時ト雖モ亦其遺物相續ヲ為スノ故障ナシトス

第三百五十一條 若シ養子ノ遺出ノ車屬ノ親ナク死セシ時曾テ養親ヨリ養子ニ與ヘタル物又ハ養子ノ養親ヨリ遺物相續トシテ得タル物其遺現存スル時ハ養親又ハ其車屬ノ親之ヲ取返ス可キノ權アリ但シ此權ト他人ノ得タル權ト相觸ルハフナク且ツ養親又ハ其車屬ノ親此權ヲ行フニ付テハ其取返シタル財産ノ割合ヲ以テ其養子ノ負債ヲ償フ可シ

前ニ記シタル物件ノ外養子ノ有シタル財産ハ其死去ノ時其實家ノ父母及ヒ親族ニ屬ス可シ又其實家ノ父母及ヒ親族ハ前ニ記シタル物件ニ付テモ養親ノ車屬ノ親ニ非サル遺物相續人ヨリ先ニ之ヲ得可キノ權アリ

第三百五十二條 若シ養親ノ生存中ニ養子ノ死去シ其後其養子ノ遺留セシ子及ヒ車屬ノ親モ亦子孫ナク死去シタル時ハ其養親前條ニ記セシ如ク曾テ養子ニ與ヘタル物件ヲ取返ス可シ然レモ此權ハ養親ノ一身ノミニ有スルモノニシテ其遺物相續人ハ車屬ノ親ト雖モ其權ヲ讓リ受ク可カラズ

○第二款 養子ヲ為スノ法式

第三百五十三條 養子ヲ為サントスル者及ヒ養子トナシントスル者ハ相共ニ養子ヲ為サントスル者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁判所ノ面前ニ至リ雙方互ニ養子ノ事ヲ承諾スルノ證書ヲ記ス可シ

第三百五十四條 此證書ノ副本ハ其時ヨリ十日内ニ先ニ願出タル者ヨリ養子ヲ為ス者ノ住所ヲ管轄スル下等裁判所ノ前ヨリ提出スルベシ出シ其裁判所ノ許可ヲ得可キ求メテ為ス可シ

第三百五十五條 裁判所ハ會議ノ室ニ集會シ相當ノ關係ヲ為シタル後養子ノ事ニ付テ法律ニ定メレ規則ニ依リシヤス養子ヲ為サントスル者ニ惡名ナキヤテ取調テ可シ

第三百五十六條 裁判所ハプロモリウルクアンベリアルノ送フル所ヲ聽キ別ニ裁判ノ式ヲ用ヒ且別ニ其主意ヲ言フコトヲ唯養子ヲ為サントスル者ニ許セシトス言渡ス可シ

第三百五十七條 下等裁判所ノ言渡ヨリ一月内ニ先ニ訴出タル者ヨリ其言渡書ヲ上等裁判所ニ出ス可シ但シ上等裁判所ニ於テハ下等裁判所ト同一ノ方法ヲ以テ裁判ヲ為シ其趣意ヲ言フコトヲ唯下等裁判所ノ言渡ヲ可トス又ハ下等裁判所ノ言渡ヲ改ムト言渡シ次之ニ因リ養子ヲ為サントスル者ニ許セシトス言渡ス可シ

第三百五十八條 上等裁判所ニ養子ヲ為ス可キヲ許スル言渡ハ衆人ノ面前ニ於テ之ヲ為シ裁判所ニテ相當ト思量スル場所ニ其言渡書ノ寫ノ相當ノ數ヲ貼附ス可シ

第三百五十九條 其言渡ノ時ヨリ三月内ニ養子トナリタル者又ハ養子ヲ為シタル者ノ願ニテ養子ヲ為シタル者ノ住所ノ民生ノ證書ノ簿冊ニ養子ノ事ヲ記載ス可シ

此記載ヲ為スニハ上等裁判所ノ言渡書ノ法ニ適シタル寫ヲ照視スルコトヲ必キトス但シ三月ノ定期内ニ其記載ヲ願フコトナキ時ハ養子ノ事ヲ許シタル言渡ヲ取消ス可シ

第三百六十條 若シ養子ヲ為サントスル者養子ノ契約ヲ為ス可キノ意ヲ表シタル證書ヲ取下等裁判所ノ裁判後ノ面前ニテ記ルシ之ヲ下等裁判所ニ出セル後下等裁判所ニテ未タ決定ノ言渡ヲ為サル前養子ヲ為サントスル者死去シタル時ハ猶其實家ノ審判ヲ為シ允許ス可キ道理アル時ハ之ヲ允許ス可シ若シ養子ヲ為サントスル者ノ遺

物相續人等養子ヲ為ス可キコトヲ許ス可カラスト思量スル時ハテロモリウレアンベリアルニ其養子ヲ為ス事ヲ拒止スルノ書類ヲ渡シ且其意ヲ述ルコトヲ得可シ

第二章 左テールヲヒヒウズノ事

第三百六十一條 五十歳以上ニシテ子及ヒ嫡出ノ卑屬ノ親ナキ者幼者ヲ法律上ノ名義ニテ已ニ依附セシメント欲スル時ハ其幼者ノ父母又ハ父母中ノ生存スル者或ハ父母共ニナキ時ハ其親族ノ會議又ハ其幼者ニ分明ナル親族ヲササル時ハ其幼者ノ住スル孤院ノ支配人又ハ其住地ノ官吏ノ許諾ヲ得テ其子ノ左トウルヲヒヒウズ人ノ子ヲ養ヒ其子ノ住トナルコトヲ得可シ

第三百六十二條 夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ズレテ左トウルヲヒヒウズトナルコトヲ得ス

第三百六十三條 幼者ノ住所ノ取下等裁判所ノ裁判後ハ左テールヲヒヒウズニ管シタル請求及ヒ承諾等ヲ調査ニ記ス可シ

第三百六十四條 左テールヲヒヒウズヲ受ケル者ハ十五歳以下ノ幼者ニ限ル可シ
此左テールヲヒヒウズヲ為ス時ハ其幼者ヲ養育ヲ為シ且生計ヲ為スノ道ヲ得セシムルコト當然ナリトス但シ此規則ト別段ノ契約ト相觸ルコトナカル可シ

第三百六十五條 其幼者財産ヲ所有シ且以前後見ヲ受ケル者タル時ハ其財産支配ノ事及ヒ其身ヲ指揮スルノ權ヲ其左トウルヲヒヒウズニ移ス可シ然レ此左トウルヲヒヒウズハ其幼者ヲ養育スルノ費用ヲ其幼者ノ入額中ヨリ用フ可シ

第三百六十六條 若シ左トウルヲヒヒウズ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ全周五年ノ後ニ至リ其幼者ノ未タ丁年ニ至ラサル中自カラ死ス可キコトヲ先知シ遺囑書ヲ以テ其幼者ヲ養子ト為サントスル時其左トウルヲヒヒウズ嫡出ノ子ナキニ於テハ其遺囑書ニ備ヒ之ヲ養子ト為スコトヲ得可シ

第三百六十七條 左トウルヲヒヒウズノ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ五年ニ至ルト至ラサルトテ間ハ其幼者ヲ養育シ爲サントスルコトヲ死後ニシテ其幼者ニ其幼年ノ時間生計ヲ為ス可キ物件又ハ金額ヲ與フ可シ但シ其與フ可キ金額ハ其財産ノ種類ニ付テ曾テ契約ヲ爲シ定メシコトナキ時ハ其死者ノ代人ト其幼者ノ代人ト協議シテ之ヲ決定シ可シ若シ協議セズシテ訴訟ヲ爲シ裁判所ヨリ之ヲ定ム可シ

第三百六十八條 幼者ノ丁年ニ至リ其幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ之ヲ養子ト為サント欲シ其幼者承諾シタル時ハ前章ノ規定ニ於テハ法式ニ備ヒ之ヲ養子ト為ス可シ但シ養子ト為シタル事ヨリ生ス可キ諸件モ亦前章ニ記スル所ト同一ナラトス

第三百六十九條 幼者丁年ニ至リシ時ヨリ三月内ニ養子トナル可キ事ヲ左トウルヲヒヒウズニ求メ其幼者雖モ其求ムル所ヲ得ルコトナラズ且其幼者生計ヲ為ス可キノ道ヲキ時ハ其左トウルヲヒヒウズ其幼者ニ生計ノ道ヲ得セシムルコト能ハサルニ因リ幼者ニ債ヲ為ス可キノ言葉ヲ受ク可シ
其債ハ幼者ヲ生計ヲ得セシムルニ足ル可キ資助ヲ與フルニアリトス但シ此債ヲ曾テ如此場合ヲ先知シテ為シタル所ノ契約ト相觸ルコトナカル可シ

第三百七十條 幼者ノ財産ヲ支配スル權ヲ有シタル左トウルヲヒヒウズハ常ニ其使費ヲ算計ス可シ
○第九卷 親ノ權ヲ八百三年三月二十四日決定第四月三日布告

第三百七十一條 子タル者ハ其年次ヲ問ハハ父母ヲ尊敬ス可シ
第三百七十二條 子ハ丁年ニ至ル迄又ハ後見ヲ免ルニ至ル迄父母ノ權ニ從フ可シ
第三百七十三條 父母ノ婚姻ヲ結フ時間ハ父ノ其權ヲ行フ可シ
第三百七十四條 子ハ滿十八歳ニ至ルノ後教頭兵呂基加ハル為メノ外父許可ヲ得スシテ其親家ヲ去ル可カラス

第三百七十五條 父其子ノ行状ニ付キ至重ナル庚意ノ事アル時ハ其子ヲ懲治スルニ左ノ方法ヲ用テ可シ
第三百七十六條 若シ子ノ未タ十六歳ニ至ラサル時ハ其父一月ニ過サル時間其子ヲ禁錮セシムルコトヲ得可シ但シ
之ガ為メ下等裁判所ノ上席人ハ父ノ求メニ從ヒ必ズ其子ヲ捕提スル命令書ヲ渡ス可シ

第三百七十七條 十六歳ノ齡ニ至リシ時ヨリ丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間ハ父ヨリ其子ヲ六月ニ
過サル時間禁錮スルノ願ヲ為スコトヲ得可シ但シ此事ヲ為ス父ヨリ前條ニ記シタル裁判所ノ上席人ニ其願ヲ為シ
其上席人ハ之ヲロキリウルクベリアルト尚該シタル後其子ヲ捕提スルノ命令書ヲ渡シ又ハ之ヲ渡スコトヲ允許セ
サルヲ自由ナリトス又其上席人ハ其捕提ノ命ヲ下シタル時ト雖モ父ヨリ願フタル禁錮ノ期日ヲ減スルコトヲ得可
第三百七十八條 何レノ場合ニ於テモ捕提ノ命令書ノ外ハ書類及ヒ裁判ノ法式ヲ用ヅルコトナカル可シ但シ捕提ノ
命令書ニハ其捕提ヲ為スノ理由ヲ記スルコトナカル可シ

父ハ其子ヲ禁錮スル時間ノ費用ヲ償ヒ且相當ノ善品ヲ給ス可キ證書ヲ記シ之ニ姓名ヲ手署ス可シ
第三百七十九條 父ハ其子ノ定メタル禁錮ノ時間又ハ裁判所ニ願フタル禁錮ノ時間ヲ減スルコトヲ得可シ○若シ其
子禁錮ヲ免レン後再ヒ不良ノ所行ヲ為ス時ハ前ノ數條ニ記スル所ノ如ク再ヒ禁錮ヲ言渡ス可シ
第三百八十條 父ハ再婚ヲ結ビタル時ハ前婚ノ子十六歳以下ノ齡ト雖モ之ヲ禁錮セシムルニ付キ第三百七十七條
ニ記スル所ニ備テ可シ

第三百八十一條 夫ノ死去シテ再婚セザル婦其子ヲ禁錮セシメント為スニハ夫ノ最親ノ親族二名ノ承諾ヲ得且第
三百七十七條ニ記スル所ニ備テ願出スコトヲ必要トス
第三百八十二條 子其身ニ屬スル財產ヲ所有セ又ハ自カラ職業ヲ行フ時ハ十六歳以下ノ者ト雖モ之ヲ禁錮セシム
ルニ第三百七十七條ニ記スル所ノ規則ニ備テ可シ
禁錮ヲ受ケシ子ハ上等裁判所ノプロキリウルクベリアルニ禁錮ノ故有テ請フノ書ヲ出スコトヲ得可シ其時プロキリ
ウルクベリアルハ下等裁判所ノプロキリウルクベリアルヲシテ其情實ヲ告グシメ已ノ説ヲ上等裁判所ノ上席人

ニ告知ス可シ其止席人ハ父ニ其子ノ禁錮ヲ止メシムルノ意ナキヤヲ問ヒセシ後該般條件ヲ得タル上ニテ下等裁
判所ノ上席人ノ言渡テ廢止シ又ハ更改スルコトヲ得可シ

第三百八十三條 第三百七十六條第三百七十七條第三百七十八條第三百七十九條ニ記スル所ハ法ニ備ヒ私生ヲ端
出シ為シタル子ノ父母ニモ亦適用シテ用テ可シ

第三百八十四條 夫婦ノ婚姻ヲ結ビタル間ハ夫又婚姻ヲ解キタル後ハ夫婦中ノ後ニ生存スル者ニテ其子ノ滿十八
歳ニ至ル迄又ハ十八歳以下ニテ其子ノ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間其子ノ財產ノ入額ヲ得ルノ權アリ

第三百八十五條 此ノ如ク子ノ財產ノ入額ヲ得ル者ハ左ノ諸件ヲ擔當ス可シ
第一 總テ人ノ財產ノ入額ヲ得ル者ノ為ス可キ義務 第六百條以下ニ詳ナリ

第二 子ノ家産ニ準シテ教育ヲ為ス事
第三 子ノ負債ノ餘額ヲ償フ事及ヒ負債ノ息銀ヲ償フ事
第四 子ノ最後ノ疾病中ノ費用及ヒ埋葬ノ費用ヲ償フ事

第三百八十六條 離婚ヲ受ケタル夫又ハ婦ハ其子ノ財產ノ入額ヲ得可カラス又再婚ヲ為タル時モ亦之ヲ得可カラス
第三百八十七條 子ノ父母ニ管領ナク自己ノ職業因リ得タル財產又ハ父母ノ入額ヲ得可カラサル契約ヲ以テ他人
ノ其子ニ附與シ又ハ遺留シタル財產ハ父母其入額ヲ得可カラス

○第十章 幼年ノ事
○第一章 幼年ノ事
○第一百八十八條 男女ヲ論ゼズ未滿二十一歳ニ至ラサル者ヲ幼者トス
○第二章 後見ノ事

○第十卷 幼年ノ事後見ノ事
○第一章 幼年ノ事
○第一百八十八條 男女ヲ論ゼズ未滿二十一歳ニ至ラサル者ヲ幼者トス
○第二章 後見ノ事

○第十卷 幼年ノ事後見ノ事 皇千八百三十三年三月二十六日決定第四月五日布達

○第一級 父母ノ後見

第二百八十九條 婚姻ヲ結ヒタル間ハ夫其幼年ノ子ノ財産ヲ支配ス可シ
子ノ財産中ニテ父其入額ヲ所得ト爲サル物ニ付テハ其入額及ヒ其所有ノ權ヲ其子ニ屬スルモノトシ父其入額
ヲ所得ト爲ス可キ物ニ付テハ其所有ノ權ノミヲ其子ニ屬スルモノトス
第二百九十條 夫婦中ニテ死去シ又ハ准死ヲ受ル者アチ婚姻ヲ解シ後ハ他ノ一方ノ者後見ヲ免レサル幼年ノ子
ノ後見ヲ爲スノ權アリ

第三百九十一條 然レ父ヨリ後ニ生存ス可キ母其子ノ後見ヲ爲スニ付キ父其輔佐人ヲ任シタル時ハ其母其輔佐人
ノ說ヲ得スシテ後見ニ管シタル證書ヲ記ス可カラス
若シ父ヨリ其輔佐人ノ管涉ス可キ證書ノ種類ヲ特ニ定メタル時ハ後見ヲ爲ス母其他ノ證書ヲ記スルニ付キ其輔
佐人ノ說ヲ得ルニ及ハズ
第三百九十二條 其輔佐人ヲ任スルニハ左ノ二箇ノ方法中ノ一ヲ用フ可シ

第一 遺囑ノ證書ヲ以テ爲ス事

第二百九十三條 若シ夫ノ死去セシ時其婦勝胎シヨルニ於テハ親族ノ會議ニテ其未タ出生セサル子ノモトウレ
ヲ任ス可シ

第二 書記官立會ノ上或下等裁判所ノ裁判役ノ面前又ハハカイル教人ノ面前ニ於テ陳述スル事

第三百九十四條 母ハ必ズ後見ノ任ヲ受ルヲ承諾スルニ及ハス然レ特ニ後見人ヲ担任セシムルニ至ル迄ハ後見ノ
子ノ出生タル後ハ其母後見人トナリ得テトシ此後見人ノ監察者トナルノ權アリ
第三百九十五條 後見ヲ爲ス母再婚セント欲スル時ハ婚姻ノ證書ヲ記スル前親族ノ會議ヲ爲サシメ其會議ニテ後
見ノ職ヲ日後猶其母ニ任ス可キヤ否ヲ定ム可シ

若シ親族ノ會議ヲ爲サシメサル時ハ其母後見ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ又再婚ノ夫ハ其婦不相當ニ後見ヲ行フタル
ヨリ生ゼシ諸件ニ付キ婦ト相違帯シテ責ニ任ス可シ

第三百九十六條 母ヨリ相當ニ親族ノ會議ヲ爲サシメ其會議ニテ日後猶其母ニ後見ヲ爲スヲ任シタル時ハ必ズ其再
婚ノ夫ヲ其後見ノ副職ニ任ス可シ但レ其夫ハ婦ノ婚姻ノ後行フ其後見ノ諸事ニ付キ相違帯シテ責ニ任ス可シ

○第二級 父母ヨリ任シタル後見

第三百九十七條 親族タルト否トヲ問ハズ後見人ヲ撰ムノ權ハ父母ノ中後ニ死去スル者ニ屬ス可シ
第三百九十八條 此權ヲ行フニ付テハ第三百九十二條ニ記スル所ノ法式ニ循ヒ且此後ニ記スル所ノ格別ノ規則ヲ
守ル可シ

第三百九十九條 母再婚ヲ爲シ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケザル時ハ其母其子ノ後見人ヲ撰ム可カラス
第四百條 母再婚ヲ爲シ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケ其死去セントスル時其子ノ後見人ヲ撰ミタルト雖レ親族會
議ニテ之ヲ承諾シタルニ非レハ其撰任ヲ確定スルコトヲ得ズ

第四百一條 父又ハ母ヨリ撰任ヲ得タル後見人ハ必ズ其職ニ任スルコトヲ承諾スルニ及ハス但レ其人父母ヨリ別ニ
撰任ヲ得スト雖レ親族ノ會議ヨリ其撰任ヲ得可キ者タル時ハ格別ナリトス

○第三級 尊屬ノ親ニテ後見ヲ爲ス事

第四百二條 父母ノ中後ニ死去セシ者ヨリ幼者ノ後見人ヲ撰ミシコトナキ時ハ其幼者ノ本宗ノ祖父其後見ヲ爲スノ
權アリ又本宗ノ祖父ナキ時ハ其外族ノ祖父其後見ヲ爲スノ權アリ又祖父ナキ時ハ曾祖父ニ其權アリトス但レ同
級ノ尊屬ノ親ノ中ニ於テハ本宗ノ親外族ノ親ヨリ先ニ後見人トナルノ權アリ

第四百三條 幼者ノ本宗ノ祖父及ヒ外族ノ祖父ノ共ニアルコトナリ本宗ノ曾祖父二人アリテ互ニ後見ノ職ヲ爭フ時
ハ其二人中ニテ幼者ノ父ノ本宗ノ祖父其後見ノ任ヲ受ク可シ

第四百四條 又外族ノ曾祖父二人ノ間ニ互ニ後見ヲ爭フアル時ハ親族ノ會議ニテ其二人中ノ一人ヲ後見ノ職ニ

仕ス可シ

○第四款 親族ノ會議ニテ任シタル後見

第四百五條 幼年ニシテ未ダ後見ヲ免レサル子父母及ヒ父母ヨリ任シタル後見人ナク又尊屬ノ男ノ親ナク且前ニ記シタル後見人ノ撰任ヲ受ケタル者後ニ記スル所第四百二十七條第四ノ如ク後見ノ職ニ任スルヲ能ハス又ハ後見ノ職ヲ相當ニ辭シタル時ハ親族ノ會議ニテ其子ノ後見人ヲ任ス可シ

第四百六條 親族ノ會議ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ横主又ハ其他幼者ニ管保アル者ノ次メニ從ヒ又ハ幼者ノ住所ノ親下等裁判所ノ裁判後ヨリ其職務ヲ以テ求ムル所ニ從ヒ之ヲ集會ス可シ○何レノ人ト雖モ後見人ヲ任ス可キ原由ヲ其裁判後ニ述ルヲ得可シ

第四百七條 親族ノ會議ハ裁判後ヲ除クノ外幼者ノ住所ノヨムニユーンノ内又ハ其住所ヨリニヨリヤマトルノ距離内ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親六員ヨリ成ル可シ但シ其六員ノ中半ハ本宗ノ親ニシテ半ハ外族ノ親タル可ク且其親族ハ本宗外族共ニ親近ノ順序ニ從テ可シ

同級ノ親ニ於テハ血屬ノ親姻屬ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ケ又同級ノ血屬中ニ於テハ高年ノ親若年ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ケ可シ

第四百八條 幼者ト父母ヲ同スル兄弟及ヒ姉妹ノ夫ハ前條ニ記シタル定員ニ倍テニ及ハス但シ此等ノ者ノ數六人以上ナル時ハ幼者ノ尊屬ノ親ノ寡婦及ヒ後見ノ職ヲ相當ニ辭シタル尊屬ノ親ト共ニ親族ノ會議ヲ為シ他ノ親族ヲレテ參セシムルニ及ハズ

若キ父母ヲ同スル兄弟及ヒ姉妹ノ夫ノ員六人ニ充サル時ハ其他ノ親族ヲ以其缺ヲ補ヒ親族ノ會議ヲ為サシム可シ
第四百九條 本宗及ヒ外族ノ血屬又ハ姻屬ノ親幼者ノ住所ノ地又ハ第四百七條ニ記シタル距離内ニ在ル者ノ數定員ニ充ナル時ハ親下等裁判所ノ裁判後ヨリ更ニ隔離ノ地ニ居住スル血屬又ハ姻屬ノ親又ハ幼者ノ住所ノヨムニウチ内ニテ幼者ノ父母ト平生親交シタル者ヲ親族會議ニ參マシムル其缺ヲ補ハシム可シ

第四百十條 幼者ノ住所ノ地ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親ノ數定員ニ充ル時ト雖モ親下等裁判所ノ裁判後ハ其血屬又ハ姻屬ノ親ヨリ更ニ近親ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ同級ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ更ニ隔離ノ地ニ居住スル者ヲレテ親族會議ニ參セシムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ幼者ノ住所ノ地ニ在ル親族ニテ親族會議ノ中ニ加ハル可キ者ノ數ヲ減テ前ニ定メタル親族會議ノ定員ニ過ルヲ得カラン可シ

第四百十一條 親族會議ニ出席ス可キ期限ハ親下等裁判所ノ裁判後之ヲ定ム可シ但シ其會議ニ參ス可キ親族等皆幼者ノ住所ノヨムニウチ内ニ居住シ又ハニヨリヤマトルノ距離内ニ居住スル時ハ呼出書ヲ送達シタル日ト其會議ヲ為サント定メタル日トノ間ニ必ス三日ヨリ火カラサル時間ヲ隔リ可シ

又親族會議ニ參ス可キ者ノ中其距離外ニ居住スル者アル時ハ三ヨリヤマトル毎ニ一日ヲ増ス可シ
第四百十二條 此ノ如ク招集ヲ受ケタル血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友ハ自カラ會議ニ出席シ又ハ特ニ任シタル名代人ヲ出ス可シ

一人ニテ數人ノ名代人トナルヲ得ス
第四百十三條 血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友ノ親族會議ニ出席ス可キ招集ヲ受ケン者正シキ辨解ノ理ナクシテ出席セサル時ハ親下等裁判所ノ裁判後ヨリ五十フランノ罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ但シ其言渡ニ服セスト雖モ更ニ上等裁判所ニ訴出ス可カラズ

第四百十四條 若シ親族會議ヲ為ス可キ定期ニ至リ正シキ辨解ノ理アリテ出席セサル者アル時其若ク來ルヲ待ツ事又ハ之ニ代テ他人ヲ任スル事ノ至當ナルニ於テハ總テ幼者ノ利益ノ為メ必要ナル事アル時ノ如ク親下等裁判所ノ裁判後其親族會議ノ集會ヲ日ヲ定メテ延期セシメ又ハ日ヲ定ムルヲナク延期セシムルヲ得可シ

第四百十五條 親下等裁判所ノ裁判後ヨリ親族會議ヲ為ス可キ場所ヲ別段ニ撰マサル時ハ當然其裁判所ノ家ニテ其會議ヲ為ス可シ○其會議ニ參ス可キ人員四分ノ三以上出席ヲ為サレハ集會シテ決議ヲ為ス事ヲ得
第四百十六條 其裁判後ハ親族會議ノ上席人ニシテ其會議ニ加ハリ可否ヲ述ルヲ得可ク且議員ノ決議ヲ為ス時

可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相均シキ時ハ其裁判後ノ說ニ備ヒ之ヲ定ム可シ

第四百十七條 若シ佛蘭西國內ニ居住ル幼者佛蘭西ノ藩屬地ニ財產ヲ所有シ又ハ佛蘭西ノ藩屬地ニ居住ル幼者佛蘭西國內ニ財產ヲ所有スル時ハ此等ノ財產ノ支配ノ為メテ其ノ後見ノ任ヲ受ケル可シ

第四百十八條 後見人面ニ後見ノ職務ノ任ヲ受ケル時ハ其任ヲ受ケル日ヨリ其職務ヲ行フ可シ然ラサル時ハ後見ノ職ヲ任シタル告知アリレロヨリ其職務ヲ行フ可シ

第四百十九條 後見ノ職ハ後見人ノ一身ハニ付キ任スル所ノモノトシ之ヲ其相續人ニ移ス可カラズ

第四百二十條 前條ニ記シタル以外ノ者後見ノ職ニ任シタル時ハ之ノ同時ニ其監察者ヲ任ス可シ

第四百二十一條 此章ノ第一款第二款第三款ニ記シタル所ノ者後見ノ任ヲ受ケタル時ハ其職務ヲ行ヒ始ムル前ニ第四款ニ記シタル如ク親族會議ヲ為サシメ其監察者ヲ任セシム可シ

第四百二十二條 前條ニ記シタル以外ノ者後見ノ職ニ任シタル時ハ之ノ同時ニ其監察者ヲ任ス可シ

第四百二十三條 如何ナル場合ニ於テモ後見人ハ其監察者ヲ任スルニ辭ヲ奉フルヲ能ハス但シ後見人ノ監察者ト

ナル可キ者ハ幼者ト父母ヲ同スル兄弟中ヨリ之ヲ撰ミタル時ノ外本宗及ヒ外族中ニテ後見人ノ所屬ニ非サル族中ノ者ヲ撰ム可シ

第四百二十四條 後見人ノ監察者ハ後見ノ職ノ空位トナリ又ハ後見人ノ失職セシレ時其儘直ニ後見人トナル可キノ權ナレ但シ此場合ニ於テハ其監察者新クニ後見人ヲ任セシム可キ處置ヲ為ス可シ若シ此規則ニ背キテ幼者ノ為メニ後見ノ職ヲ退ケル可キ言渡ヲ受ク可シ

第四百二十五條 後見人ノ監察者ノ職務ハ後見人ノ職務ト同時ニ終ル可シ

第四百二十六條 此章ノ第六款第七款ノ規則ハ後見人ノ監察者ニモ亦適當レテ用フ可シ然レ後見人ハ其監察者ヲ選任セシムルノ處置ヲ為ス可カラズ又監察者ヲ選任セシムルカ為メニ親族會議ノ中ニ辭ヲ奉ルヲ可カラズ

第四百二十七條 左ノ數人ハ後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

千八百四十年五月十八日ノ法律ノ第三章第五款第六款第八款第九款第十款第十一款ニ記スル所ノ人

海軍總督參謀長官

陸軍總督參謀長官

閣下院ノ議長

グウルトカツサレラントノ上席人及ヒ裁判役並ニ其裁判所ノプロキニウルセテラルル及ヒアボカーセテラルル

幼者ノ住所ノアパルトマン外ノ地ニテ公務ヲ行フ者

第四百二十八條 現ニ服役ニ充ツル兵士及ヒ佛蘭西國外ニテ皇帝ヨリ任シタル職務ヲ行フ者モ亦後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

第四百二十九條 若シ皇帝ヨリ職務ノ任ヲ受ケタル公正ノ證ナキニ因リ爭論ノ生スル時ハ後見ノ職ニ任スルヲ

辭セント欲スル者其所屬官局ノ執政ヨリ渡シタル證書ヲ出サレバ後見ノ職ヲ辭スル許レノ言渡ヲ得可カラズ

第四百三十條 前數條ニ記シタル者後見ノ任ヲ受ルヲ得可キ公務ニ任シタル後ニ後見ノ職ニ任スルヲ得可キ

諾シタル時ハ後ニ其公務ヲ述ヘテ後見ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第四百三十一條 後見ノ任ヲ受ケ其職ヲ行ヒレ後公務ニ任シタル者其後見ノ職ヲ保有スルコトヲ欲セサル時ハ其公務ニ任シタル日ヨリ一月内ニ親族會議ヲ為サレシム他ノ後見人ヲ探マシム可レ

其者公務ノ任ノ滿チタル後自カラ再ヒ後見ノ職ニ任スルコトヲ求メ又ハ其者ニ代リ後見人トナリレ者其職ヲ返ク可キコトヲ求メタル時ハ親族會議ニテ前ノ後見人ヲ其職ニ後サレシムルコトヲ得可レ

第四百三十二條 幼者ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ非サル者ハ其幼者ノ住所ヨリ四ミリヤノ距離内ニ後見ノ職ヲ任ヒ得可キ血屬及ヒ姻屬ノ親ノアササル時ノ外強テ之ヲ後見ノ職ニ任スルコトヲ得可カラス

第四百三十三條 滿六十五歳以上ノ者ハ後見ノ職ニ任スルコトヲ辭シ得可レ○既ニ後見ノ職ニ任シタル者ハ七十歳ニ至リレ時其後見ノ職ヲ退クコトヲ得可レ

第四百三十四條 重疾ニ罹ルノ確證ナル者ハ後見ノ職ニ任スルコトヲ辭シ得可レ

又既ニ後見ノ職ニ任シタル後重疾ニ罹ル時ハ其職ヲ退クコトヲ得可レ

第四百三十五條 如何ナル人ト雖モ二箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ辭スルコトヲ得可レ

夫及ヒ父タル者既ニ一箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ受ルコトヲ得可レ但レ已レノ子ノ後見ニ付テハ格別ノリトス

第四百三十六條 五人ノ嫡出ノ子ナル者ハ其子ノ後見ノ外更ニ他ノ後見ノ職ニ任スルコトヲ得可レ

皇帝ノ兵籍ニ入リ服役ニ充テテ死シタル子ハ此五人ノ子ノ數中ニ算入スルコトヲ得可レ

其他ノ死シタル子ハ現ニ生存スル孫ヲ遺留シタルニ非ラレハ五人ノ數中ニ算入ス可カラス

第四百三十七條 後見ノ職ヲ行フ時間ニ子ノ出産スルコトヲ知リテ雖モ之ヲ述ベテ後見ノ職ヲ退クコトヲ得ス

第四百三十八條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ル時ハ其席ニ於テ直チニ其職ヲ辭スルコトヲ述ベ其會議ニテ其辭職ヲ為ス可レ若シ其席ニ於テ辭スルコトヲ述ベ其後ニ至リ辭スルコトヲ許サス

第四百三十九條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ラサル時ハ其職ヲ辭スルコトヲ評議セシム可キ為シ特ニ親族會議ヲ為サシム可レ

其屬置ハ其職ニ任スル告知ヲ得タル時ヨリ三日内ニ之ヲ為ス可レ但レ幼者ノ住所ノ地ニ居住セサル者ノ為シニハ其住所ト幼者ノ住所トノ間其路程三ミリヤノ一トル毎ニ一日ヲ増ス可レ○此等ノ期限ヲ過ル時ハ其辭職ノ求メヲ許サス

第四百四十條 親族會議ニテ後見人ノ辭職ヲ肯セサル時ハ後見人裁判所ニ訴出テ其辭職ノ求メノ允許ヲ請フ可レ然レ其訴訟ノ時間ハ假ニ後見ノ職ヲ行フ可レ

第四百四十一條 裁判所ニテ後見ノ職ヲ辭スルコトヲ允許シタル時ハ其辭職ヲ肯セサル者訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ旨渡ラ受テ可レ

若シ裁判所ニテ其辭職ヲ允許セサル時ハ原告人訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ旨渡ラ受テ可レ

第七款 後見ノ職ニ任スルコトヲ能サル者其後見ノ職ニ參セシムル事其後見ノ職ヲ退カレハル事

第四百四十二條 左ノ數人ハ後見人又ハ親族會議ノ員中ニ加ハルコトヲ得ス

第一 父母ヲ除ク外ノ幼者

第二 治産ノ禁ヲ受ケル者

第三 母及ヒ血屬ノ親ニ非サル女

第四 幼者ノ身分幼者ノ家産入ハ幼者ノ財産ノ各量ニ付キ自カラ幼者ニ對シテ訴訟ヲ為ス者及ヒ其父母幼者ニ對シテ同上ノ訴訟ヲ為ス者

第四百四十三條 施體又ハ加辱ノ刑ニ處セザレバ後見ノ職ニ任スルコトヲ得ス○既ニ後見ノ職ニ任シタル者此等ノ刑ニ處セザレバ時ハ後見ノ職ヲ退ケラル可レ

第四百四十四條

第一 聞ハアル不存跡ノ人

第二 後見ノ職ヲ行フニ不適當又ハ不情實ノ處置ヲ為シタル證アル者

此等ノ者ハ後見ノ職ニ任スルコト能ハス又既ニ後見ノ職ニ任セシメ者ハ其職ヲ退ケラレ可シ

第四百四十五條 後見ノ職ニ任スルコト能ハス或ハ後見ノ職ヲ退ケラレタル者ハ親族會議ノ其中ニ加ハルコト得ス

第四百四十六條 後見人ヲ退職セシメントスル時ハ後見人ノ監察者ノ求ニ應ジ又ハ宸下等裁判所ノ裁判後ヨリ公務ヲ以テ集會セシメントスル親族會議ニテ之ヲ言渡ス可シ

其裁判後幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近親ノ血屬又ハ姻族ノ親一人又ハ數人ヨリ親族會議ヲ集會セシム可キノ求ノヲ受ケタル時ハ之ヲ為サシメヤコト得ス

第四百四十七條 親族ノ會議ニテ後見人トナル可キ者ヲ其職ニ任セサルコト又ハ既ニ任レタル後見人ヲ退職セシムルコト言渡ス書ニハ其言渡ヲ為スノ道理ヲ記ス可シ但レ後見人ノ述ル所ヲ聽キタル後又ハ後見人ヲ呼出シテ指

第四百四十八條 後見人親族會議ノ言渡ニ指シタル時ハ其言ヲ其言渡書ニ附記シ新クニ任レタル後見人宣テニ其職務ヲ行ヒ始ルコト得可シ

若シ後見人親族會議ノ言渡ニ指ハサル時ハ後見人ノ監察者親族會議ノ言渡ノ允許ヲ得シコト下等裁判所ニ訴出ス可シ

但レ其裁判所ノ言渡ニ服セサル者ハ更ニ上等裁判所ニ訴出ルコト得可シ

又後見人トナル可キ者其職ニ任スルコト能ハス又ハ其職ヲ退ケラレシ時ハ其職ヲ得ントスルニ付キ後見人ノ監察者ヲ裁判所ニ呼出スコト得可シ

第四百四十九條 親族ノ會議ヲ為サシメント求ントスル血屬又ハ姻族ノ親ハ前條ニ記スル所ノ訴訟ニ參スルコト得可シ但レ此訴訟ハ至急ノ吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ及ヒ裁判ス可シ

○第八款 後見人ノ職務

第四百五十條 後見人ハ幼者ノ身體ヲ監察シ且民法ニ管スル諸件ニ付キ幼者ニ代ル可シ後見人ハ懇切ニ幼者ノ財產ヲ支配シ且其支配ノ不良ナルニ付キ幼者ノ為メ生シタル損害ヲ擔當ス可シ

後見人ハ幼者ノ財產ヲ買入ルルコト得ス又親族會議ヨリ後見人ノ監察者ヲシテ其後見人ニ別段リ許ラザル限リ可キコト仕タル時ニ非レハ幼者ノ財產ヲ期限ヲ定メ借入ルルコト得ス又幼者ニ對シ債ヲ討スルノ權又ハ幼者ニ對シ訴訟ヲ為スノ權アル者ヨリ其權ヲ讓リ受ルコト得ス

第四百五十一條 幼者ノ財產ニ封印アル時ハ後見人其任ヲ受ケタルコト相當ノ式ヲ以テ知り得タル日ヨリ十日内ニ其封印ヲ除去ス可キコトヲ求メ直チニ封印ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ財產ヲ自録ヲ記サシム可シ

又幼者ヨリ後見人ニ債ヲ可キ物件アル時ハ後見人封印ノ問ハシテ其幼者ヨリ得可キ物件アル旨ヲ述ベ之ヲ幼者ノ財產ノ目錄中ニ記入セシメ且之ヲ記入シタル旨ヲ調書ニ記ス可シ若シ後見人此事ヲ為ササル時ハ幼者ヨリ債ヲ得ルコト得ス

第四百五十二條 後見人ハ幼者ノ財產ノ目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ一月内ニ官吏ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ動産ヲ賣買ヲ以テ賣拂ハシム可ク且其賣買ヲ為スニハ公告又ハ貼附ヲ為シ其由ヲ調書ニ記ス可シ但シ新族會議ニテ物品ノノ價保ヲ置テ可キコトヲ欲スル財產ハ之ヲ賣拂フ可カラズ

第四百五十三條 父母法律ニ循ヒ幼者ノ財產ノ入額ヲ所得ト為シ且之ヲ物品ノ價ニテ後ニ幼者ニ渡サント欲スル時ハ之ヲ賣拂フニ及ハス

此場合ニ於テハ父母已ノ費用ヲ以テ評價人ハ幼者ノ財產ノ真價ヲ算定セシム可シ但シ其評價人ハ後見人ノ監察者ヨリ任スル所ニシテ宸下等裁判所ノ裁判後ノ面前ニテ誓ヲ述ノ可シ○父母後ニ物品ノ價ヲ以テ幼者ニ渡スルコト得ル動産ハ其價額ヲ幼者ニ渡ス可シ

第四百五十四條 父母ノ後見ヲ除ケノ外總テ後見ノ職ヲ行ヒ始メントスル時親族會議ニテ後見人ノ支配スル財產

ノ多寡。准シ其計畫ヲ以テ幼者ノ母藏ノ費用及ヒ財産支配ノ費用ノ額ヲ定ム可シ
又其計畫ニ後見人其支配ヲ為スニ付キ給料ヲ與フ可キ輔佐人一人又ハ數員ノ助ケヲ得可キヤ否ヤ定ム可シ
但シ其輔佐人ノ處置ノ不良ナルトアル時ハ後見人其責ニ任ス可シ
第四百五十五條 親族ノ會議ニテ幼者ノ入額其費用ノ額ヨリ多キヲ發許ニ至ル時ハ後見人其金額ヲ幼者ノ利益ト
ナル可キ方法ニ用フ可キヤヲ定ム可シ但シ幼者ノ為メニ其金額ヲ用フルハ六月内ニ之ヲ為ス可シ若シ此定期間
ニ之ヲ為サル時ハ後見人其金額ニ付幼者ニ相當ノ息銀ヲ持テ可シ
第四百五十六條 若シ後見人幼者ノ金額發許ニ至ル時ハ之ヲ幼者ノ利益ノ為メ用フ可キヤヲ親族會議ニテ定メシ
ノタルトキ時其後見人前條ニ記シタル定期ニ至リ前之ヲ用ヒサルニ於テハ金額ノ多少ヲ論セス幼者ノ利益ヲ用
ヒサル其總額ノ息銀ヲ幼者ニ持テ可シ
第四百五十七條 後見人ハ父母ト雖モ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケ又ハ幼者ノ不動
産ヲ他人ニ給與シ又ハ賣却シ又ハイボテテ得ルモノヲ得ス其許諾ハ極メテ切要ナル事又ハ明白ナル利益アル
ニ非レハ之ヲ為ス可カラズ
幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケント為スニハ後見人ヨリ簡略ナル計畫書ヲ出シ幼者ノ金額動産入額ノ不足ナルトテ
證シタルニ非レハ親族會議ニテ其許諾ヲ為ス可カラズ
何レノ場合ト雖モ親族會議ニテ如何ナル不動産ヲ先ニ賣却シ得ル可キヤヲ指示シ且之ヲ賣却フコト付キ有益ナリト思
覺セシ諸件モ亦指示ス可シ
第四百五十八條 此事ニ付キ親族會議ニテ決定ハ後見人ヨリ下等裁判所ノ願ヒ其允許ヲ得タル後ニ非カ
レハ之ヲ執行シ可カラズ但シ下等裁判所ニ於テ裁判役會議ノ室ニテテロキリウルアンベリアルノ述ル所ヲ聽キ
シ後其裁判ヲ為ス可シ
第四百五十九條 其不動産ノ賣却ヲ為スニハ其ガノトシテアルノ地中ノ常例ノ場所ニテ相繼テ三次ノ

日曜日ニ親賣ノ書ヲ貼附セシ後下等裁判所ノ裁判役又ハ特ニ任ヲ受ケタルノテイル後見人ノ監察者ノ面前ニテ
之ヲ為ス可シ
其貼附書ノ各通ハ之ヲ貼附シタルヨシニエントシテノノール支配スル者 檢印ヲ為シテ證ス可シ
第四百六十條 幼者ノ不動産ヲ共通シテ所有スル者ノ願ニ因リ其不動産ヲ親賣ニ為ス可キノ旨渡ヲ為シタル時ハ
幼者ノ財産賣却ニ付キ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス
此場合ニ於テハ唯前條ニ記スル所ノ體裁ニ據ヒ其親賣ヲ為スノミヲ必用トス但シ此親賣ニハ必ス外人ヲ卷ヒ
シム可シ
第四百六十一條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコトヲ承諾シ又ハ之ヲ拒
ムコトヲ得ス○後見人幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコトヲ承諾シタル時ハ其遺物ノ目錄ヲ記シ其遺物ノ價額ニ至ル
迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハサルノ約定ヲ以テ幼者ノ為メ之ヲ引受ク可シ
第四百六十二條 後見人幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコトヲ拒ミシ後他ニ其遺物ヲ引受ル者トシ時ハ後見人更ニ親
族會議ノ許諾ヲ得テ幼者ノ為メ其遺物ヲ引受ルコト又ハ幼者ト年ニ至リテ自カラテ之ヲ引受ルコトヲ得可シ但シ此場
合ニ於テハ其遺物ヲ引受ケタル時ノ景況ヲ以テ其財産ヲ受取ル可キ其以前法ニ適シテ為タル財産賣却ノ契約又
ハ其他ノ契約ニ付キ許諾ヲ為ス可カラズ
第四百六十三條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ人ヨリ幼者ニ與フル贈物ヲ幼者ノ為メ受テ可カラズ
幼者ノ受ケタル贈物ハ丁年者ノ受ケタル贈物ト均シク看做ス可シ
第四百六十四條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ幼者ノ不動産ニ管シタル權ニ付キ許諾ヲ為ス可カラズ又
其權ニ付キ他人ヨリ受スル所ヲ承諾ス可カラズ
第四百六十五條 後見人幼者ノ他人ト共通スル財産ヲ分派セントスルニハ必ス親族會議ノ許諾ヲ要ス可シ然レ他
人ヨリ其幼者ト共通スル財産ヲ分派セントスル時後見人其答ヲ為スニハ親族會議ノ許諾ヲ必要トセス

第四百六十六條 前條ニ記シタル財産分派ニ付テ後見人幼者ヲシテ丁年者ニ均シキ權ヲ得セシメントスルニハ遺物相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其財産ヲ評價セシメタル後裁判所ニテ其分派ヲ為ス可シ評價人ハ其裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可キ裁判所ノ面前ニテ正實ニ其職ヲ行フ可キノ誓詞ヲ述ヘ其後遺物ノ不動産ヲ區分シテ其區分シタル地ヲ裁判所又ハ裁判所ヨリ任シタルバタイルノ面前ニテ開引ニ為シ此等ノ官吏其地ヲ引渡ス可シ

此方法ヲ用ヒスニテ為シタル分派ハ假令廢止ナリト看做ス可シ

第四百六十七條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得且下等裁判所ノ前キリウルクアンベリアルノ撰ビタル法律家三員ノ報告ヲ得ルニ非サレハ幼者ニ代リテ和解ヲ為ス可カラズ 第三條第十五條ニ準テ

又其和解ハ下等裁判所ニテ前キリウルクアンベリアルノ述ル所ヲ聽キテ後之ヲ允許シタルニ非サレハ其効ナカル可シ

第四百六十八條 後見人幼者ノ行状ニ付キ至重ナル良意ノ事アル時ハ之ヲ親族會議ニ述ヘ其許諾ヲ得タル上此篇第九條ノ規定ニ依リテ規則ニ依リテ幼者ヲ禁錮セント欲ルヲ得可シ

○第九條 後見人ノ算計ノ事

第四百六十九條 後見人ハ何者タルヲ問ハス其職ノ終リシ時其執行ヒタル諸件ニ付テ算計ヲ為ス可シ

第四百七十條 父母ヲ除クノ外總テノ後見人ハ其職ヲ行フ時間ト雖モ親族ノ會議ニテ特ニ預定シタル期限ニ其行

ヒシ諸件ニ付テ算計書ヲ後見人ノ監察者ニ渡ス可シ然レ後見人ハ毎歲其算計書ヲ一通以上出スニ及ハス○此書ハ印紙ナキ紙ニ記シ且之ヲ渡スニ裁判ノ式ヲ用フルヲナク又費用ヲ要スルヲナシ

第四百七十一條 後見人ノ職終リ算計書ハ幼者ノ丁年ニ至リ又ハ後見人免ルニ至リシ時幼者ノ費用ヲ以テ之ヲ記ス可シ但シ其費用ハ後見人之ヲ前拂ニ為ス可シ

此算計書ニ記シタル費用中確證アリテ幼者ノ利益トナル可キモノハ後見人ニ償フ可シ

見人ノ算計書及ヒ證書類ヲ其幼者ニ渡シ且其約定ヲ為スコリ少クモ十日前ニ幼者ノ其算計書及ヒ證書類ヲ受取リタル證書アルニ非レハ其約定ノ効ナカル可シ

第四百七十三條 若シ後見人ノ算計書ノ事ニ付キ前キ生シタル他ノ民法管スル爭論ノ如ク之ヲ斷ヘ裁判ヲ受テ可シ

第四百七十四條 後見人ヨリ未ダ幼者ニ償ナル債務アル時ハ別ニ裁判所ニ訴出シ算計書終成ノ時ヨリ其息銀ヲ拂ハレム可シ

幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ債務ハ算計書終成ノ後其債務ヲ償フ可キヲ訴出セシ時ヨリ其息銀ヲ拂フ可シ

第四百七十五條 後見ノ諸事ニ付テ幼者ヨリ後見人ニ對シテ訴訟ヲ為スヲ得可キ期限ハ幼者ノ丁年ニ至リシ時ヨリ十年ナリトス

○第三章 幼者ノ後見ノ免ルノ事

第四百七十六條 幼者ハ婚姻ヲ為スニ因リ其後見ヲ免ル可シ

第四百七十七條 幼者ハ婚姻ヲ為サスト雖モ滿十五歳ノ齡ニ至リシ時ハ其父又ハ父ナキニ於テハ其母ヨリ後見ヲ免ル可キノ許レテ受ルヲ得可シ

此ノ如ク幼者ヲ免レテ後見ヲ免レシメント為スニハ父又ハ母ヨリ最下等裁判所ノ書記官ノ立會ニテ其裁判所ノ裁判役ニ其旨ヲ述ヘ其裁判役之ヲ屬タルコトヲ以テ足レリトス

第四百七十八條 父母ナキ幼者滿十八歳ノ齡ニ至リシ時親族會議ニテ相當ト思量スルニ於テ後見ヲ免ルヲ得可シ

此場合ニ於テハ親族會議ニテ幼者ノ後見ヲ免ルハコトヲ許可スルノ決定書ヲ記シ且最下等裁判所ノ裁判役親族會議ノ上席人タルニ付テ其決定書中ニ幼者ハ其後見ヲ免ルト云ヘル語ヲ書キ加フルヲ以テ其幼者後見ヲ免ルハコトヲ得可シ

第四百七十九條 前條ニ記スル所ノ場合ニ於テ後見人幼者ノ後見ヲ免ル可キヲ求ムルコトナク幼者ノ從兄等又ハ更ニ近キ血屬及ヒ姻屬ノ親一人又ハ數人幼者ノ後見ヲ免ルハコトヲ相當ト思量スル時ハ此等ノ者ヨリ此事ヲ議

第四百九十五條 治産ノ禁ヲ受ケレム可キノ訴訟ヲ爲シタル者ハ親族會議ノ列ニ加ハル可ク然レ其訴訟ヲ爲シタル者之ヲ受ケレ者ノ配偶者又ハ其子トシテハ親族會議ノ列ニ加ハルコト得可ク其決議ノ時ニ該ヲ受ケテ可カラズ

第四百九十六條 裁判所ニテ親族會議ノ説ヲ聽タル後裁判役會議ノ室ニ於テ被告人ノ問訊ス可シ若シ被告人其室ニ出席スルコトヲ得タル時ハ裁判役一員書記官ト俱ニ其室ニ坐リ之ヲ問訊ス可シ但レ何レノ場合ニ於テモガロキリケルアンベリアルハ問訊ノ場所ニ立會フ可シ

第四百九十七條 一度問訊ヲ爲シタル後裁判所ニ於テ必要ナリト思量スル時ハ被告人ノ身體及ヒ財産ヲ監禁ス可キ假ノ支配人ヲ任ス可シ

第四百九十八條 治産ノ禁ノ訴訟ニ付テノ裁判ハ原告被告ノ雙方ヨリ呼出タル上又ハ一方ノ者呼出ヲ受ケテ出席セザル上公ケニ意味ヲ爲シテ之ヲ言渡フ可シ

第四百九十九條 治産ノ禁ヲ受ケシム可キノ訴訟ヲ裁判所ニテ允許セザル時ト雖モ裁判所ヨリ其時ノ景状ニ隨ヒ日後被告人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ任シタル補佐人ノ立會アルニ非レハ訴訟ヲ爲シ又ハ和解ヲ爲シ又ハ金額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ附與シ又ハハポタートトナス等ノ事ヲ爲ス可カラザル言渡スコトヲ得可シ

第五百條 下等裁判所ノ言渡ニ服セズト更ニ上等ノ裁判所ニ訴出スコトアル時上等裁判所ニテ必要ナリト思量スルニ於テハ其治産ノ禁ノ訴訟ヲ受ケレ者ヲ再ニ問訊シ又ハ特ニ任タル裁判役ヲシテ其問訊ヲ爲サレム可シ

第五百一條 治産ノ禁ヲ受ケレムル言渡書又ハ其補佐人ヲ任スル言渡書ハ原告人ノ求メニ應ジ十日間ニ之ヲ爲シ取リ其高ヲ被告人ニ送達シ且之ヲ憑貼ニ記ス可シ但レ其憑帖ハ裁判ノ室及ヒ其裁判所管轄内ニ在ルガテイルノ役所ニ懸ク可シ

第五百二條 治産ノ禁ヲ受ケレムル言渡又ハ補佐人ヲ任スル言渡ハ之ヲ爲シタル日ヨリ執行ヲ可シ○其言渡ノ後ニ治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ記シタル證書又ハ補佐人ノ立會ナシテ記シタル證書ハ皆廢物ナリトス

第五百三條 治産ノ禁ヲ受ケタル以前ニ記シタル證書ハ之ヲ記シタル時既ニ治産ノ禁ヲ受ク可キノ原由アルコト明白ナルニ於テハ亦之ヲ廢物ト爲スコトヲ得可シ

第五百四條 人ノ死セザル中ニ治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケ又ハ其禁ヲ受ク可キノ訴訟ヲ受ケタル時ニ非レハ其者ノ記シタル證書ヲ其死後ニ至リ精神錯亂ヲ言渡廢物ト爲サント訂ルコトヲ得ス但レ其證書上ニ精神錯亂ノ證ノ分明ナル時ハ格別ナリトス

第五百五條 下等裁判所ヨリ治産ノ禁ヲ受ケシムルコトヲ言渡シタル裁判ニ付キ定期存ニ更ニ上等裁判所ニ訴へ出スコトナキ時又ハ更ニ上等裁判所ニ訴へ出スト雖モ其裁判所ニテ下等裁判所ノ言渡ヲ可ナリト爲タル時ハ此條ノ第十卷 幼年後見ニ記スル所ノ規則ニ備ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ後見人及ヒ後見人ノ監察者ヲ任ス可シ○以前任シタル假ノ支配人ハ其職ヲ退ク可シ但レ其支配人後見ノ職ニ任セザル時ハ後見人ニ算計ヲ爲ス可シ

第五百六條 夫ハ別ニ類出ルニ及ハスシテ治産ノ禁ヲ受ケタル婦ノ後見人タル可キノ權アリ

第五百七條 婦ハ其夫ノ後見ノ職ニ任スルコトヲ得可シ○此場合ニ於テハ親族會議ニテ後見ノ職ヲ行フニ付テノ規則及ヒ約定ヲ立ツ可シ但シ其親族會議ノ決定不正ナリト思量スル時ハ之ヲ裁判所ニ訴出スコトヲ得可シ

第五百八條 治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ配偶者及ヒ尊屬卑屬ノ親ヲ除クノ外ハ何人ヲ論セス其後見ノ職ヲ十年以上ノ時間行フニ及ハストス但レ十年ヲ過ル時ハ其後見人代職ノ者ヲ撰ム可キコトヲ請ヒ選職ヲ爲スコトヲ得可シ

第五百九條 治産ノ禁ヲ受ケレ者ハ其身體及ヒ財産ニ付キ幼者ニ均シクシテ幼者ノ後見ノ法則ハ亦之ヲ治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ後見ニ適用シテ用フ可シ

第五百十條 治産禁ヲ受ケレ者ノ入額ハ其養生ノ方ヲ厚クシ且其疾ヲ速ニ平愈セシムルノ用ニ供ス可シ○其病症ト其家産トニ從ヒ親族會議ニテ其者ヲ其家ニテ療養セシメ又ハ養生所或ハ病院ニ送ル可キコトヲ定ム可シ

第五百十一條 治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ子婚姻ヲナスコトアル時ハ嫁資ノ事及ヒ子ノ相續ス可キ父ノ遺物ノ一部ヲ預メ受取ル事並ニ其他婚姻契約ノ條件ヲ親族會議ニテ定ム可シ但レ其定ムル所ハ裁判所ニテガロキリケルアンベ

リアルノ説ヲ曉タル後之ヲ允許レタルノ旨渡ヲ得ルコトヲ必要トス

第五百十二條 治産ノ禁ヲ受ケレタル理由ノ終リシ時ハ其禁モ亦終ル可シ但シ其禁ヲ免スノ旨渡ハ以前其禁ヲ受ケレタル時ト同一ノ法式ヲ行フタル後ニ非レハ之ヲ為ス可カラス又其禁ヲ受ケン者ハ其禁ヲ免スノ旨渡ヲ得タル後ニ非レハ巴レノ權ヲ行フコトヲ得ス

○第三章 裁判所ヨリ命シタル補佐人ノ事

第五百十三條 浪費ヲ為ス者ハ裁判所ヨリ命シタル補佐人ノ立會ナクシテ訴訟ヲ為シ又ハ和解ヲ為シ又ハ金額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リ其受取書ヲ與ヘ或自己ノ不動産ヲ附與シ不費納ヒ及ヒイボテトナス等ノ事ヲ為ス可カラス

第五百十四條 浪費ヲ為ス者補佐人ノ立會ナクシテ訴訟ヲ行フ可カラサル禁ハ精神錯亂ノ者ニ治産ノ禁ヲ受ケシム可キコトヲ許スルノ權アル者ヨリ之ヲ許出スコトヲ得可シ又其訴ヲ吟味シ且裁判スルノ方法モ治産ノ禁ノ訴ト同一ナリ

又此禁ヲ免スニ付テモ治産ノ禁ヲ免スト同一ノ法式ニ倫ア可シ

第五百十五條 治産ノ禁ノ旨渡及ヒ補佐人ヲ任スルノ旨渡ハ下等裁判所ニ許出シタル時ニ於テモ又ハ更ニ上等ノ裁判所ニ許出シタル時ニ於テモ皆ヨニスルコトヲ許スルルニ非レハ之ヲ為ス可カラス

辻士學堂

法律書 民法三

民法 三十九

法律書 民法第四

大博士其作詳口譯

○第二篇 財産及ヒ財産所有ノ種類

○第一卷 財産ノ區別 千八百四年一月二十五日決定 第二月四日布告

第五百十六條 財産ハ皆不動産又ハ動産ノ中ニアリトス

○第一章 不動産

第五百十七條 財産ハ其性質ニ因テ不動産タルモノアリ又ハ其用法ニ因テ不動産タル物アリ及ヒ權利ノ中ニ其目的ニ因テ不動産ト看做スモノアリ

第五百十八條 土地及ヒ建造物ハ其性質ニ因テ不動産トス

第五百十九條 枕ニ附着シテ建造物ノ一部ヲ為ス風車及ヒ水車ハ亦其性質ニ因テ不動産トス

第五百二十條 橋有レテ地上ニ生シタル収納物及ヒ未タ摘取セサル樹果モ亦同上ノ不動産トス

収納物ヲ刈取レシ及ヒ樹果ヲ摘取レタル時ハ未タ他物ニ搬運セスト雖モ之ヲ動産トス

若シ収納物ノ一部ヲ刈取レタル時ハ其一部ノミヲ動産トス

第五百二十一條 森林ノ所有者期限ヲ定メ伐出サントスル小樹及ヒ大木ハ其既ニ伐リ倒シタル物ノミヲ動産トス

第五百二十二條 借價ヲ出シテ土地ヲ借受ル者又ハ収納物ノ一部ヲ出シテ土地ヲ借受ル者ニ其土地所有者ヨリ其地ヲ耕ス可キ為メ貸與ヘタル狀類ハ其貸價ノ有無ヲ問ハズ契約ニ備ヒ其狀類ヲ其地ニ留メ置ク間之ヲ不動産トス

第五百二十三條 家屋及ヒ其他ノ不動産ニ水ヲ灌導スル水管ハ其不動産所屬ノ一部ニシテ亦之ヲ不動産トス

第五百二十四條 土地ノ所有者其地ヲ耕シ或ハ其地ニテ用フ可キカ為メ其土地ニ借ヘタル物ハ其用法ニ因テ不動

産トス故ニ

土地ヲ耕スニ用フル狀類

農具ノ器具

土地ヲ借リテ之ヲ耕シ借價又ハ其収納物ノ一部ヲ出ス者ニ與ヘタル種子類

漁令中ニアル地

充令中ニアル充

密林ノ果

池沼中ノ魚

櫛木釜蒸溜ノ器具桶樽ノ類

鑄造ノ器具

炭及ヒ燃料

此等ノ品物ハ其所有者土地ヲ耕シ又ハ其土地ニテ用フ可キカ爲ノ備ヘタル時其用法ニ因テ不動産トス

如何ナル動産ト雖モ其所有者未ク之ヲ離分セサル方ヲ用ヒ不動産ニ附著シタル時ハ亦用法ニ因テ不動産トス

第五百二十五條 粘及ヒ石灰ヲ以テ動産ヲ不動産ニ附著シ又ハ其動産ヲ離令スル時ハ其動産又ハ不動産ノ一部ヲ

必ス毀壞シ又ハ損害ス可キ方ヲ以テ附著シタルニ於テハ其動産ノ所有者未ク之ヲ離分セシメサル方ヲ用ヒ不動

産ニ附著シタルモノト看做ス可シ

居室ノ玻璃板ノ格ヲ其屋敷ト連合シタル時未ク之ヲ離分セシメサル方ヲ用ヒ備ヘタルモノト看做ス可シ但シ畫額

及ヒ其他ノ裝飾ノ具モ亦此ノ如シ

立後ハ之ヲ移動スルニ其屋敷ヲ毀壞シ又ハ損害スルヲナシト雖モ特ニ之ヲ入置ク爲ノ壁ニ作タル凹所ニ在ル時

ハ之ヲ不動産トス

第五百二十六條

不動産ノ入額ヲ得ルノ權

土地ノ義務ヲ得ルノ權

不動産ヲ取戻サントスル訴訟ヲ爲スノ權

此等ノ權利ハ其目的ニ因テ之ヲ不動産ト看做ス可シ

第二章 動産

第五百二十七條 財産ハ其性質ニ因テ動産ト爲ス物アリ又ハ法律ニテ定メタル所ニ因リ動産ト爲ス物アリ

第五百二十八條 鳥類獸類ノ如ク自カラ運行ヲ爲ス可キト無生物ノ如ク他力ニ因テ運行ヲ爲ス可キトヲ問ハス此

地ヨリ彼地ニ搬運スルヲ得可キ物ハ其性質ニ因テ動産トス

第五百二十九條 人ヨリ金額又ハ動産ヲ得可キ契約及ヒ之ヲ得可キ訴訟ヲ爲スノ權又ハ錢糧貿易工作ノ會社ニ加

ハリタル股分及ヒ利益ハ其會社ニテ其興作ニ管シタル不動産ヲ所有シタルト雖モ法律ニ於テ定メタル時ニ因リ

之ヲ動産ト看做ス可シ但シ其股分及ヒ利益ハ其會社ノ存続スル時間ノ會社中各人ニ代テ之ヲ動産ト看做ス可シ

官府及ヒ平民ヨリ得可キ無期ノ年金第三章第十條及ヒ學生年金ハ法律ニテ定メタル所ニ因リ之ヲ動産ナリトス

第五百三十條 千八百四年第三月廿一日決定同月三十一日布告不動産ヲ買入レシ價ノ爲メ與テ可キ無期ノ年金又

ハ不動産ノ附與ヲ得タルニ代ヘテ出ス可キ無期ノ年金ハ之ヲ出ス可キ者ヨリ其元金ヲ皆濟スルヲ得可シ

然レ其年金ヲ得可キ者ハ元金算還ノ契約ノ箇條ヲ定ムルヲ得可シ

其年金ヲ得可キ者ハ三十年ヨリ多カラサル期限ノ後ニ非サレハ其元金ノ算還ヲ許ササルノ契約ヲ爲スヲ得可シ

但シ此定期ニ背キタル契約ハ之ヲ取消ス可シ

第五百三十一條 小艇渡舟船舶船ニ在ル風車及ヒ水車浴舟其他代ニ附著シテ家屋ノ一部ヲ爲スニ非サル諸般ノ器

具類ハ之ヲ動産トス然レモ此等ノ物件ハ重大ノモノタルニ因リ訴訟法ニ記スル所ノ如ク債主別段ノ法式ヲ行フ

タ之ヲ概價ス可シ
第五百三十二條 建造物ヲ毀テ得タル物件及ヒ前ニ建造物ヲ管理ス可キ為メ集メタル物件ハ管理ノ為メ工丁ノ
才ヲ用テサル間之ヲ動産トス

第五百三十三條 動産ノ産ニテ其
貨類書籍畫障琴藝及ヒ製造ノ器具亞麻布馬車兵器鞍轡葡萄酒糖菓其他人獸ノ飲食料ヲ指シテ言フナク亦必賣ノ
品物ヲ指シテ言フコトナシ

第五百三十四條 動産ノ産ニテ其
此類ノ物及ヒ裝飾ト爲ル物ノモト云フ
房室ノ家具ノ一部タル畫額及ヒ立像ハモト云フアルモモト云フアル中ニ算計ス可シ然レモ展覧ノ房室又ハ其他ノ房室
内ニ集メタル畫額ハ其中ニ算入セズ

又附屬ノ類モ房室ノ裝飾ノ一部タル物ノモト云フアルモモト云フアル中ニ算入ス
第五百三十五條 動産ノ産ニテ其
前數條以下ヲ云フコトナシ記スル所ニ指シテ動産ト爲ス可キ物ヲ總括シテ云フ

動産ノ係ハ動産ノ賣買ト又ハ贈與ト謂フ時ハ其ノモト云フアルモモト云フアル中ニ算入ス
第五百三十六條 家屋ヲ其内ニ在ル諸品物ト共ニ賣拂ヒ又ハ贈與スト謂フト雖モ金額又ハ其屋内ニアル貨類ノ價
券及其他ノ權利ヲ得可キ證券ヲ算入スルコトナシ但シ其他ノモト云フアルモモト云フアル中ニ算入ス

○第三章 財産トシテ所有スル者トノ關係
第五百三十七條 何ノ人ト雖モ法律ニテ定メタル規則ヲ遵守スル時ハ已ニ屬スル所ノ財産自由ニ爲スコト得可シ
一人ニ屬セザル所ノ其財産ノモト云フアルコトナシ規則ニ指シテ之ヲ支配シ及ヒ賣拂フ可シ

第五百三十八條 政府ニテ管轄スル所ノ道路巷路市街舟楫ヲ通ス可キ河川海濱海潮ノ進退ニ因リ出沒スル洲汀港

口碇泊場及ヒ其他私ノ所有ト爲ス可カラサル佛蘭西領地ノ部方ハ公領ノ所屬ナリト看做ス可シ

第五百三十九條 所有者ナキ財産及ヒ遺物相續人ナキ財産又相續人皆抱素シタル財産ハ公領ニ附屬スルモノトス

第五百四十條 城塞ノ門壁壕溝等ハ亦公領ノ一部トス

第五百四十一條 既ニ戦闘ノ用ニ共セザル城塞中ノ地及ヒ壁壕溝ハ亦公領トス但シ官ヨリ之ヲ賣拂ヒ又ハ官ヨリ
其所有者ニ對シ定期ノ時間訴訟ヲ爲サザル時ハ特別ナリトス

第五百四十二條 公領ノ財産トハ一箇又ハ數箇ノ公領ノ住民相共ニ之ヲ所有ト爲シ及ヒ其産物ヲ
所得ト爲ス可キ財産ヲ云フ

第五百四十三條 人財産ニ付キ其所有ノ權ヲ有スルアリ又其入額ヲ所得トスルノ權ヲ有スルアリ又土地ノ義務
ト得可キノ權ヲ有スルアリ

○第二章 所有ノ權
第五百四十四條 所有ノ權ハ八百四十年八月十七日決定第二月六日布告
用テ財産ノ益ヲ得及ヒ財産ヲ取扱フノ權ヲ云フ

第五百四十五條 公ケノ利益ノ爲メトシテ預メ相當ノ償ヲ得タルニ非レハ何人ヲ問ハス雖モ其所有物ヲ奪ハル
コトナカレ可シ

第五百四十六條 動産不動産間ハ其財産所有ノ權アル時ハ天然又ハ人工ニ因テ其財産ヨリ生スル物及ヒ其財産ニ
附加スル物モ亦所有スルノ權アリ
是ヲ名ケテ主ニ因テ從テ併スル權ト云
○第一章 財産ヨリ生スル物ニ付キ主ニ因テ從テ併スル權

第五百四十七條

天然又ハ人工ニ因リ地ヨリ生スリ利益法律上ニテ財産ヨリ得可キ利益ニ土地家屋ノ賃金銀
基金タル歌類

此等ノ物ハ主ニ因リ從ヲ併スノ權ヲ以テ其財産ノ所有者ニ屬ス可シ
第五百四十八條 財産ヨリシテ生シタル益ハ其所有者他人ノ為シタル勞動耕種種子ノ費用ヲ償ハサレハ已レノ所
有ト爲ス可ラス

第五百四十九條 財産ヲ寄有スル者ハ信義ヲ以テ之ヲ有シタル時ノニ其財産ノ利益ヲ已ノ所得ト爲スヲ得可シ
若シ信義ナク之ヲ有シタル時ハ其財産ト共ニ其財産ヨリ生シタル利益ヲ其真ノ所有者ノ要ノニ應シ還與ス可シ
第五百五十條 人ヨリ財産ノ譲リ渡ヲ得シ證券ノ不正ナルヲ知ラスシテ其財産ヲ譲リ受ケ之ヲ已ハ有ト爲シタル
時ハ信義ヲ以テ之ヲ寄有セシモノト爲ス可シ

其證券ノ不正ナルヲ知リタル後債之ヲ有スル時ハ信義ナク寄有シタルモノト爲ス可シ

○第二章 財産ニ附加シ且合同スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

第五百五十二條 財産附加シ且合同スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權
第五百五十三條 財産附加シ且合同スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

○第三章 不動産ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權
第五百五十二條 土地ヲ所有ト爲ス時ハ自カチ其地上ノ上下ヲ所有ト爲スノ權ヲ生ス
其地ノ所有者ハ此條ノ第四條ノ規定ニ依リテ其地上ニ自己ノ欲スル所ノ種植造營爲スヲ得可シ
又其所有者ハ礦坑ノ規則及ヒ取締ノ規則ニ定メタル所ヲ除クノ外其地下ニ自己ノ欲スル所ノ造營及ヒ容定等ヲ造
營且其容定知リ生ス可キ物ヲ掘取ルヲ得可シ

第五百五十三條 地上又地下ニ在ル諸般ノ造營種植及ヒ容定ハ別段ノ法律ル時ノ外其地ノ所有者自己ノ費用ヲ
以テ之ヲ爲シテ其者ニ屬スルモノト爲ス可シ但シ他人其地ノ建造物ノ下ニ在ル地窖又ハ其建造物ノ一部ヲ定
期ノ時間所有シタル時ハ其者終ニ之ヲ所有ト爲スノ權アリ

第五百五十四條 土地ノ所有者自己ニ屬セザル品物ヲ用ヒ造營種植及ヒ土功ヲ爲スル時ハ其品物ノ價ヲ補フ可ク且
別段ノ法律ル時ハ其價金ヲ出ス可キノ旨波ヲ受テ可シ然レ其品物ノ所有者ハ其品物ヲ轉換スルノ權アリ

第五百五十五條 土地ノ所有者ニ非ザル人信義ニ依テ其地ヲ所有シタル品物ヲ以テ種植造營及ヒ土功ヲ爲
シタル時ハ其土地ノ真ノ所有者其種植造營及ヒ土功ヲ已ニ保有シ又ハ此諸般ノ工作ヲ爲スル者ニテ其地ノ
轉換セシムルノ權アリ

土地ノ真ノ所有者其種植造營土功ヲ廢止セシムル時ハ其者價ヲ出スニ及ス其種植造營土功ヲ爲スル者
若レ其費用ヲ以テ之ヲ廢止セシムル且別段ノ法律ル時ハ其種植造營土功ヲ爲シタル者其土地ノ所有者ノ受テ
タル損失ノ價ヲ出ス可キノ旨波ヲ受テ可シ

若シ土地ノ真ノ所有者此種植造營土功ヲ已ニ保有セント欲スル時ハ其種植造營土功ニ因リ地價ノ幾許ヲ増シ
ルヲ問ハス唯其種植造營土功ヲ爲スニ用ヒタル品物ノ價及ヒ其工作ノ費用ノ價ヲ出ス可シ
土地ノ所有者タルノ權ヲ失フ下雖信託以テ之ヲ寄有セシメ因リ其地ヨリ生シタル利益ヲ失ハサル者此種植造營
土功ヲ爲シタル時ハ其土地ノ真ノ所有者其種植造營土功ヲ廢止セシムルヲ得ス但シ其者ハ其種植造營土功ヲ
爲スル者ニ其用ヒタル品物ノ價及ヒ工作ノ費用ヲ償ヒ又ハ其種植造營土功ニ因リ地價ノ増シタル額ヲ償フヲ自
由ナラシメス

第五百五十六條 河川ノ傍側ニ知覺スルヲ得スレバ次第ニ増成セシ地ヲ名ケテ漸積ノ地ト云フ
漸積ノ地ハ河川ノ舟楫ノ通スルト否トヲ問ハス其傍側ニ在ル土地ヲ所有スル者ニ屬ス可シ但シ舟楫ヲ通ス可キ
河川ノ傍側ニ於テハ規則ニ依リ沿岸ノ小徑又ハ舟楫ノ津路ヲ除ク可シ
第五百五十七條 流水ノ知覺セザル中ニ此岸ヲ侵シテ彼岸ヲ越キ乾涸ヒシ地ヲ遺シ留ムル時ハ亦前條ニ記スル所

二均シク其乾涸セシ地ヲ其傍側ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ但シ其對岸ノ地ノ所有者ハ其失ヒシ地ヲ取還ス可キノ
 求メテ為スヲ得ス
 海水ノ退キテ遺シ留メタル乾涸ノ地ニ付テハ此權ナシトス
 第五百五十八條 湖池ニ付テハ湖積ノ地ヲ有スルコトニトス但シ湖池ノ所有者ハ水量ノ減シタル時ト雖モ其滿ナ
 ル時復テ可キ地ヲ常ニ所有ス可シ
 又沼池ノ所有者ハ其水ノ異常ニ滲流スル時復テタル傍側ノ地ヲ所有スルノ權ヲ得ル
 第五百五十九條 若シ河川ノ舟楫ヲ通スルト否トノ間ハス若シ遠シテ漲流シテ其傍側ノ地ノ不明ニ知リ得キ廣大
 ノ一部ヲ裁割シテ之ヲ下流又ハ對岸ノ地ニ移去シタル時ハ其裁割地ノ所有者猶其移去シタル地ヲ所有セシ
 上界ハルコトヲ得可シ然レ共其要メハ一年間ニ為ス可クシテ此定期ノ後ハ裁割セシ地ヲ其連合シタル土地ノ所有者
 未タ已レノ所有ト為ササル時ノ外之ヲ為スヲ許サス
 第五百六十條 舟楫ヲ通ス可キ河川中ニ生シタル島嶼洲渚ハ官ニ屬ス可シ但シ別段ノ證書ナルニ付キ又ハ定期ノ
 時間之ヲ有シタル者アリテ終ニ其所有ノ權ヲ得タル時ハ格別ナリトス
 第五百六十一條 舟楫ヲ通ス可カラザル河川中ニ生シタル島嶼洲渚ハ其生シタル河川ノ土地ノ所有者ニ屬ス可シ
 若シ其島嶼洲渚河川ノ一方ニ偏ラサル時ハ其河川ノ中央ヲ畫スル線ヲ分テ之ヲ兩岸ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ
 第五百六十二條 若シ河川ノ新タニ支流生シ河川ノ地ヲ裁割シテ之ヲ環繞シ島ト為シタル時ハ其島舟楫ヲ通ス
 可キ河川中ニ生シタル時ト雖モ其地ノ所有者ニ屬ス可シ
 第五百六十三條 舟楫ヲ通スルト否トノ間ハ其河川共故道ヲ去テ新決ノ道ヲ為ス時ハ新タニ河水ノ侵入セシ地ノ
 所有者其價ノ為メ各其失ヒシ地ノ割合ヲ以テ故道ノ地ヲ所有ス可シ
 第五百六十四條 鳩兎魚ノ使來棲息シタルニ非サル鳩兎魚允舎池沼ニ棲棲セシ時ハ許許ヲ以テ誘導シタルノ外之ヲ
 其棲棲セ鳩兎魚允舎池沼ノ所有者ニ屬ス可シ

第五百六十五條 動産ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權
 第五百六十六條 所有者ノ其時ノ其狀ニ從ヒ裁判役ノ考案ノ為メ之ヲ用フ可シ
 第五百六十七條 所有者ノ所有物ノ價ヲ價トシ其全部ヲ所有ト為スヲ得可シ
 第五百六十八條 然レ附品ノ價主品ノ價ヨリ大ニ貴クシテ且其附品ノ所有者之ヲ附添シタルコトヲ知ラザル時ハ
 其連合セシ主品ノ差數損スルコトアリト雖モ附品ノ所有者之ヲ離分シ已ニ選ヤンム可キノ要メヲ為スヲ得可シ
 第五百六十九條 若シ連合シテ全部ヲ為シタル二箇ノ品物中ニ何レヲ主品ト為シ何レヲ附品ト為ス可キコトノ分明
 ナラサル時價ノ貴キ物ヲ以テ主品ト看做シ又其價ノ賤キ時ハ形ノ大ナル物ヲ以テ主品ト看做ス可シ
 第五百七十條 若シ工丁及其他ノ人己ニ屬セサル品物ヲ用ヒ新ナル物ヲ造リシ時ハ其品物ノ舊ニ復スルヲ得可
 キト否トノ間ハス其品物ノ所有者工價償之ヲ已メ所有者ト為スヲ要ムルノ權アリ
 第五百七十一條 然レ工價ノ額許多シレテ其用タル品物ノ價ヨリ更ニ貴キ時ハ其工價ヲ以テ主品ト為シ工丁ヨリ
 其品物ノ所有者ニ其品物ノ價額ヲ價ト看做シ其品物ヲ以テ已メ所有者ト為スノ權アリ
 第五百七十二條 已ニ屬スル品物ト已ニ屬セサル品物トヲ併用シテ新ナル品物ヲ造リ其二箇ノ品物全ク其本質ヲ
 失フコトナシ雖モ亦離スル時ハ必ス之ヲ損ス可キニ於テハ其所有者二人ニテ共ニ其新造ノ品物ヲ所有ス可シ但
 シ其一人ハ已ニ屬スル品物ノ正ニ付テリ權ヲ有シ又二人ハ已ニ屬スル品物ト其工價トニ付テリ權ヲ有ス可シ
 第五百七十三條 數人ノ所有者ニ屬スル數箇ノ品物ヲ連合シテ一箇ノ品物ヲ造リ其數箇ノ品物中ニ主品ト看做ス
 可キ物ヲ以テ離令スルヲ得可キ時ハ其數人中ニテ已ニ屬スル品物ノ連合シタルヲ知ラサル者ヨリ之ヲ離令セ
 ント要ムルコトヲ得可シ

若シ其品物ヲ離分シテ之ヲ損ス可キ時ハ其數人ノ所有中各人ニ屬シタル品物ノ性質分量價額ノ割合ヲ以テ其物
造ノ品物ヲ共同シテ所有ス可シ

第五百七十四條 然レ數人ノ所有者中ノ一人ニ屬スル品物ノ分量及ヒ價額他ノ所有者ニ屬スル品物ニ數倍シタル
時ハ其品物ヲ所有スル者他ノ品物ノ所有者ニ其價額ヲ償ヒ其適合シテ造リタル品物ヲ已メテ所有シセント要ムル
コトヲ得可シ

第五百七十五條 數箇ノ品物ヲ以テ物ニ造リタル物ヲ其所有者數人ニテ相共ニ所有ト爲ス時ハ其數人ノ利益ノ爲
メ之ヲ權費ト爲ス可シ

第五百七十六條 品物ノ所有者知ルコトナク他人其品物ヲ用ヒテ他種ノ品物ヲ造リシテ因リ其所有者其物ナル品物
ヲ所有セント要ムルコトヲ得可シ時ハ其書物ト同種同形同量同尺同貫ノ物ヲ取戻サントスルコト又ハ其價額ヲ取戻
サントスルコトヲ得可シ

第五百七十七條 物ニ品物ヲ製造スルニ他人ニ屬スル品物ヲ其所有者ニ知ラシメテ用ヒタル者其所有者ニ其
價ヲ拂フ可キノ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其他別段ノ道理アル時ハ其品物ノ所有者犯罪
ノ所由ヲ爲ストテ得可シ

○第三章 入額ヲ所得ト爲スノ權
ニ屬スル家屋ノ權千八百四年第一月三十日決定第二月九日布告
ニ住ス可キ權ノ權千八百四年第一月三十日決定第二月九日布告

第五百七十八條 入額ヲ所得ト爲スノ權トハ他人ノ所有スル物件ヲ保存シテ所有者ニ等シク其物件ノ入額ヲ得可
キノ權ヲ云

第五百七十九條 入額ヲ所得ト爲スノ權ハ法律ニ因テ之ヲ生スルコトアリ又ハ各人ノ意ニ因テ之ヲ生スルコトアリ

第五百八十條 入額ヲ所得ト爲スノ權ハ或ハ別段ノ約定ナク或ハ期限ヲ定メ或ハ別段ノ約定ヲ爲シテ之ヲ生可レ

第五百八十一條 同上ノ權ハ動産及ヒ不動産ノ各種ニ付テ生ス可シ

○第一款 入額ヲ所得ト爲ス者ノ權
第五百八十二條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ其物件ヨリ生ス可キ天然ノ利益人工ノ利益法律上ノ利益ヲ得ルノ權アリ

第五百八十三條 天然ノ利益トハ土地ヨリ自然ニ生スル利益ヲ云フ○樹類ヨリ生スル物件及ヒ増殖シタル樹類モ
亦天然ノ利益ナリトス

土地ノ人工ノ利益トハ土地ニ植付テ爲シテ得タル所ノ利益ヲ云フ
第五百八十四條 法律上ノ利益トハ家屋ノ賃價賃額ノ利息銀金ノ額ヲ云フ
土地ノ賃價モ亦法律上ノ利益中ニ算入ス可シ

第五百八十五條 入額ヲ得ルノ權ヲ得ル時其種ノ權ニ附著セシタル天然及ヒ人工ノ利益トナル可キ物ハ其種ヲ得ル
ル者ニ屬ス可シ又其種ノ終リシ時其種根ニ附著シタル天然及ヒ人工ノ利益トナル可キ物ハ土地ノ所有者ニ屬ス
可シ但シ雙方ノ者ハ其勞動及ヒ種子ニ付キ互ニ償ヲ得ント要ム可カラス又入額ヲ得ルノ權ヲ得タル時及ヒ其種ノ
終リシ時其土地ノ收捐物ノ一部ヲ得可キ借主ナル時ハ其借主其種根ニ附著セシ物ノ一部ヲ得可キ種ノ差支トナ
ルコトナカル可シ

第五百八十六條 法律上ノ利益ハ日毎ニ之ヲ得ルモノナリト看做シ入額ヲ所得ト爲ス者其種ヲ有スル時間ニ准レ
其利益ヲ得可シ○此規則ハ家屋ノ賃價土地ノ賃價及ヒ其他ノ法律上ノ利益ニモ亦適當シテ用フ可シ

第五百八十七條 入額ヲ得ル物ト爲ス可キ物件中ニ金額穀物飲料ノ如ク之ヲ用アル時ハ必ス耗盡ス可キ物ナル時
ハ其種ヲ得タル者之ヲ用アルコトヲ得可シト雖モ其種ノ終リニ至リテ其耗盡シタル物ト同量同質同價ノ物又ハ其
評價レシ金額ヲ償還ス可シ

第六百條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ物件ノ其景状ノ儘ニテ受取ル可レ然レ其所有者ノ面前又ハ其面前ニ非スト雖モ法律ニ循ヒ其所有者ヲ呼出シタル後動産ノ目錄及ヒ不動産ノ換算書ヲ記セシメテハ其入額ヲ所得ト爲スヲ得ス
第六百一條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ得ルノ證書ニ因リ別後免許ヲ得タルニ非レハ其物件ヲ毀損セサルノ保證ヲ立ツ可レ然レ父母法律ニ循ヒ其子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲ス時又ハ物件ノ所有者候ニ其入額ヲ得可キノ約束ヲ以テ之ヲ賣リ又ハ贈リタル時ハ格別ナリトス
第六百二條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルニ能ハサル時ハ其不動産ヲ他人ニ貸與ヘ又ハ他人ニ附托シ又其金額ニ息銀ヲ得可キノ之ヲ使用シ又其商品ハ之ヲ賣却ヒ其賣却ニ因リ得タル所ノ金額モ亦息銀ヲ得可キノ爲ス使
用ス可レ
此等ノ金額ノ息銀及ヒ不動産ノ賃價ハ入額ヲ所得ト爲ス者ニ屬ス可レ
第六百三條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルニ能ハサル時ハ其所有者動産中ニテ使用スルニ因リ損敗ス可キノ物件ヲ賣却ヒ其賣却ニ因リ得タル所ノ金額ヲ商品ノ金額ニ均シク息銀ヲ得可キノ爲ス使用スルヲ得可レ但レ此場合ニ於テハ入額ヲ得可キノ者其權ヲ有スル時間其金額ノ息銀ヲ得可レ○然レ入額ヲ得可キノ者自カラ管ヲ爲レテ證ヲ立テ已ノ用フルニ必要ナル動産ノ一部ヲ殘シ置ク可キヲ求メ裁判後其時ノ景状ニ從ヒ之ヲ允許スルヲ得可レ但レ入額ヲ得可キノ者ハ其權ノ終ニ至リ其物件ヲ還ス可レ
第六百四條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ツルヲ遲延スト雖モ其者入額ヲ得可キノ權ヲ得タルヨリ以來得可キノ所ノ利益ヲ失フナレ
第六百五條 家屋ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其小修理ノ一ヲ爲ス可レ
修復ハ所有者ニテ之ヲ爲ス可レ但レ入額ヲ得可キノ者其權ヲ得タル後必要ナル小修理ヲ爲スニ忌リ家屋ノ損壞レタル時ハ入額ヲ得可キノ者其修復ヲ爲ス可レ
第六百六條 修復トハ塙壁及ヒ天井ヲ修理シ梁柱及ヒ屋蓋ノ全部ヲ改造スル事并ニ塙堤繞圍家屋ヲ支持スル壁ノ

金部ヲ改造スル事其他ノ修理ハ皆小修理ナリトス
第六百七條 年月ヲ經クルニ因リ自カラ腐潰シタル建造物及ヒ意外ノ事ニ因リ損敗シタル建造物ハ其所有者及ヒ其入額ヲ得可キノ者共ニ之ヲ改造スルニ及ハス
第六百八條 土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者之ヲ得ル時間ハ其稅銀ヲ納メ其定例ニ因リ其入額中ヨリ償フ可キノ毎歲ノ費用ヲ拂フ可レ
第六百九條 財産ノ入額ヲ所得ト爲ス時間ニ其財産所有ノ權ニ付キ官ニ出ス可キノ金額ハ其所有ト其入額ヲ所得ト爲ス者トニテ左ノ如ク之ヲ出ス可レ
所有者ハ其金額ヲ拂ヒ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其息銀ヲ所有者ニ算計ス可レ
若シ入額ヲ所得ト爲ス者其金額ヲ出シタル時ハ其入額所得ノ權ノ終リレ時其母銀ヲ取還ス可レ
第六百十條 遺囑ヲ爲ス者ヨリ入ニ畢生間ノ年金又ハ養料ヲ贈遺トシテ與ヘタル時ハ其遺物ノ入額ノ全部ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者其年金又ハ養料ノ金額ヲ償フ可レ又其遺物ノ一部ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者ハ其入額ノ割合ヲ以テ其年金又ハ養料ノ償フ可レ但レ此等ノ者ハ遺物所有ノ權ヲ相續シタル者ヨリ其金額ヲ償還セシムルヲ得ス
第六百十一條 遺囑者ノ不動産中ニテ別決定メタル一物ノ入額所得ノ權ヲ相續シタル者ハ其不動産ノ全部ヲ賣却ト爲タル債ヲ償フニ及ハス若シ其者已ムコトヲ得シテ其債ヲ償フタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル者ヨリ之ヲ取還ス可レ但レ其千二十條ニ記載スル所ハ格別ナリトス
第六百十二條 遺囑者ノ財産入額ノ全部ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者又ハ其一部ノ入額ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者ト其財產所有ノ權ヲ相續シタル者ト共ニ遺物ニ屬シタル債ヲ償フ可キノ方法左ノ如シ
同上ノ者ハ先ツ入額ヲ得可キノ不動産ノ債ヲ算計シ其割合ヲ以テ各擔當ス可キノ負債ノ額ヲ定ム可シ
又不動産ノ入額所得ノ權ヲ相續シタル者其不動産ノ割合ヲ以テ償フ可キノ負債ノ額ヲ拂フ時ハ其入額所得ノ權ノ

終りに至り忠實ヲ得ルコトナシ其母銀ノ償還ヲ得可シ

若シ又其入額所得ノ權ヲ相續シタル者其不動産ニ付テノ負債ヲ拂フコト承諾セタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル者其負債ノ額ヲ拂ヒ入額ヲ得ル者トシテ其權ヲ有スル時間其忠實ヲ算計セシメ又ハ其不動産ニ屬シタル負債ノ額ニ至ル迄其不動産ノ一部ヲ賣拂フ事ヲ為シ得可シ

第六百十三條 財産ノ入額ヲ所得ト為ス者ハ其入額ヲ得ルニ關係シタル訴訟ノ費用ト其訴訟ニ因リ言渡サル可キ債金トヲ已ニ擔當ス可シ

第六百十四條 不動産ノ入額ヲ所得ト為ス時間ニ他人其不動産ノ一部ヲ掠奪シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ所有者ノ權利ヲ害スル時ハ其入額ヲ得ル者ヨリ其由ヲ其所有者ニ報知ス可シ若シ其事ヲ報知セシメテ其所有者ノ為メノ損害ノ生レタル時ハ其入額ヲ得ル者之ヲ償フ可キト擔當其者ノ自ラ其所有者ニ損害ヲ加ヘタル時ト同一ナリ

第六百十五條 一額ノ賦ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル後其者ノ過失ニ非ヌメ其賦ノ死セシ時ハ其者ヨリ其賦ニ代ヘ他ノ賦ヲ選與シ又ハ其價ヲ償フニ及ハス

第六百十六條 數額ノ賦額ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル後其者ノ過失ニ非ヌレテ意外ノ事又ハ疾病ニ因リ其賦ノ盡メ死スル時ハ其者ヨリ其所有者ニ其皮又ハ皮ノ價ヲ選與スルコトニミテ必要トス

若シ其數額ノ賦額ノ中一部ノ死セタル時ハ入額ヲ得可キ者此迄其賦額ノ増殖シタル數ニ至ル迄其死セタル賦額ノ數ヲ補フ可シ

第三款 入額ヲ所得ト為ス權ノ終ル方法
第六百十七條 入額所得ノ權ハ左ノ方法ニテ終ル可シ
入額ヲ所得ト為ス者ノ死去スル事准死トナル事及ヒ入額ヲ所得ト為ス可キコトヲ許セシメ期限ノ終ル事
入額ヲ所得ト為スノ權ト所有ノ權ト同一人ニテ併セタル事
入額ヲ得可キノ權ヲ三十年間行ハサル事

入額ヲ得可キ財産ノ全ク滅盡スル事
第六百十八條 又入額ヲ所得ト為ス者其不動産ヲ毀壞シタル事及ヒ修理ヲ加ヘスシテ其不動産ヲ損取セシメタル事ニ因リ其權ヲ行フコトヲ行フノ過失ナル時ハ其權終ル可シ

入額ヲ所得ト為ス者ノ債主ハ其者ト所有者トノ間ニ起ルコトアル可キ訴訟ニ管涉シテ已ノ權利ヲ保全ス可キ為メ入額ヲ得可キ者ノ行ヒシ毀壞ヲ修繕セント述ヘ且以後其者ノ保證者トナル可キコトヲ訴フルヲ得可シ但シ裁判後ハ其時ノ景狀ニ從ヒ其入額ヲ得可キノ權ノ全ク終ル可キコトヲ言渡シ或ハ入額ヲ得可キ者及ヒ其債主ニ其權ノ終リニ至ラズ其所有者ヨリ毎歲定數ノ金額ヲ償フ可キノ約定ヲ為シテ其財産ノ入額ヲ其所有者ニ屬ス可キコトヲ言渡ス可シ

第六百十九條 一人ニ與ヘサル入額所得ノ權ハ其期限三十年ヨリ多カラサル可シ

第六百二十條 甲ノ定リシ齡ニ至ル迄乙ニ與ヘシ入額所得ノ權ハ甲ノ定リシ齡ニ至ラズシテ死去シタル時ト雖モ預メ定メタル期限ニ至ル迄繼續ス可シ

第六百二十一條 入額ヲ得可キ者アル財産ヲ其所有者ノ賣拂ヒタル時ト雖モ其入額ヲ得可キ者ノ權ニ變更アルコトナシ但シ其者別段其權ヲ拋棄スルコトヲ述ヘタル時ハ格別ナリトス

第六百二十二條 入額ヲ所得ト為ス者其權ヲ拋棄シテ債主ノ損害トナル可キ時ハ債主其者ノ其權ヲ拋棄スル證書ヲ取消ト為スコトヲ得可シ

第六百二十三條 入額ヲ所得ト為ス可キ財産ノ一部ノ滅盡シタル時ハ其存在セザル一部ニ付キ入額ヲ得可キノ權ヲ保有ス可シ

第六百二十四條 若シ家屋ノミニ付キ入額ヲ得可キノ約アリテ其家屋火災及ヒ其他意外ノ事ニ因リ滅盡シタル時又ハ歲月ヲ經タルニ因リ損壞シタル時ハ其家屋ノ地及ヒ屋財ニ付キ入額ヲ得ルノ權ナシ
又家屋土地其他一切ヲ合併シテ入額ヲ得可キノ約アル時ハ同上ノ場合ニ於テ其家屋ノ土地及ヒ屋財ノ入額ヲ得ナルノ權アリ

第二章 ヨザイジノ權及ヒコビタシテノ權

第六百二十五條 ヨザイジノ權及ヒコビタシテノ權ハ之ヲ得及ヒ失フノ方法入額所得ノ權ト同一ナリトス

第六百二十六條 預ノ保證ヲ立テ且不動産ノ換據書及ヒ動産ノ目錄ヲ記スル事ナキ時ハヨザイジノ權及ヒコビタシテノ權ヲ得ルコト能ハサル同一ナリトス

第六百二十七條 ヨザイジノ權ヲ得ル者及ヒコビタシテノ權ヲ得ル者ハ其財産ヲ毀損破壊スルコトノ用ノ可レニ記スル所ニ指シ其權ノ輕重ヲ定ム可レ

第六百二十八條 ヨザイジノ權及ヒコビタシテノ權ハ其權ヲ與フルノ證書ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ其證書ニ記スル所ニ指シ其權ノ輕重ヲ定ム可レ

第六百二十九條 若シ證書ニ其權ノ輕重ヲ定ムルコトナキ時ハ左ノ如ク之ヲ定ム可レ

第六百三十條 不動産ヨリ生ズル利益ニ付キヨザイジノ權ヲ有スル者ハ自己ト家族トノ爲ニ必要ナル所ノヨリ得ルコトヲ得可レ

第六百三十一條 ヨザイジノ權ヲ有スル者ハ他人ニ其權ヲ讓リ與ヘ又ハ貸與シ可カラズ

第六百三十二條 家屋ニ付キコビタシテノ權ヲ有スル者ハ其權ヲ得タル時永ク婚姻ヲ爲サズト雖モ婚姻ヲ結ビタル後其家屋ノ爲ニ必要ナル部分ヲ用アルコトヲ得可レ

第六百三十三條 ヨビタシテノ權ハ其權ヲ得タル者ト其家族トノ居住ノ爲ニ必要ナル所ノヨリ限ル可レ

第六百三十四條 ヨビタシテノ權ハ之ヲ他人ニ讓リ與ヘ又ハ貸與シ可カラズ

第六百三十五條 ヨザイジ及ヒコビタシテノ權ヲ有スル者不動産ヨリ生ズル利益ノ全部ヲ已ニ所得ト爲シ或ハ家屋ノ全部ヲ使用スル時ハ入額ヲ所得ト爲ス者ニ河シテ其權ノ費用ヲ拂ヒ家屋ノ小補理ヲ爲シ及ヒ税銀ヲ出ス可レ

若シ不動産ヨリ生ズル利益ノ一部ノニ所得ト爲シ或ハ家屋ノ一部ノヨリ使用スル時ハ其所得ト爲シ或ハ使用シタル割合ヲ以テ其權ノ費用ヲ拂ヒ家屋ノ小補理ヲ爲シ税銀ヲ出ス可シ

民法 四十八

第六百三十六條 森林ノヨザイジノ權ハ別段ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

○第四卷 土地ノ義務(千八百四年第一月三十一日決定第二月十日布告)

第六百三十七條 土地ノ義務トハ一ノ所有者ニ屬スル不動産ノ便利ノ爲メ他ノ不動産ニ屬スル義務ヲ云フ

第六百三十八條 土地ノ義務ニ因リ一ノ不動産他ノ不動産ニ優リタル等位ヲ得可カラズ

第六百三十九條 土地ノ義務ハ或ハ其地ノ天然ノ位置ヨリ生シ或ハ法律ニ定ムル所ヨリ生シ或ハ所有者ノ間ニ互ニ結ビタル契約ヨリ生ズ

○第一章 地ノ位置ヨリ生ズル義務

第六百四十條 低下ノ地ハ高阜ノ地ヨリ人工ヲ用ヒズ自然ニ流下スル水ヲ受ク可キノ義務アリ

低下ノ地ノ所有者ハ此流下スル水ヲ防ク可キ爲メ堤ヲ築ク可カラズ

高阜ノ地ノ所有者ハ低下ノ地ノ義務ヲシテ重割ナラシム可キ事ヲ可カラス

第六百四十一條 已ニ土地内ニ水源ヲ有スル者ハ隨意ニ之ヲ用アルコトヲ得可シ但シ低下ノ地ノ所有者證書ニ因リ又ハ定期ノ時間其水源ヲ用ヒタルニ因リ得タル所ノ權利アル時ハ格別ナリトス

第六百四十二條 此場合ニ於テ低下ノ地ノ所有者月ヲ限定シテ此權利ヲ得ントスルニハ自己ノ土地内ニ水ノ流下スルヲ容易ナラシムルコトノ明白ナル造營土功ヲ爲終リシ時ヨリ三十年間絶セズ其水源ヲ用ヒタルコトヲ必要トス

第六百四十三條 水源ノ所有者ヨリ生ズル水又ハ井落ノ住民ニ必要ナル水ヲ給スル時ハ其水路ヲ更改シ可カラズ

然レ其住民等別段ノ契約ニ因リ其水ヲ用フルノ權ヲ得タルコトナク又ハ定期ノ時間之ヲ用ヒ終ニ其權ヲ得タルニ非サル時ハ水源ノ所有者其水ノ價ヲ得ント要ムルコトヲ得可シ但シ其價ハ評價人ノ立會ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第六百四十四條 第五百三十八條前ノ條ニ公領ノ附屬ト定メシモノニ非サル流水ノ傍側ニアル土地ヲ所有スル者

己ノ土地ヲ潤ス可キ為メ其水路ニ於テ水ヲ用フルヲ得可シ
其流水ノ通過スル土地ヲ所有スル者ハ其通過スル場所ニ於テ其水ヲ隨意ニ用フルヲ得可シ然レ其地内ヨリ流
レ出ル水口ニ於テハ必ス之ヲ當然ノ水路ニ復ス可シ

第六百四十五條 若シ其水ヲ以テ利益ト為ス土地ノ所有者數人ノ間ニ訴訟ノ生スル時ハ裁判所ニテ其土地ヲ所有
スル權ヲ保護ス可キ道理ト農業ノ利益トヲ斟酌シテ裁判ヲ言渡シ且何ノ場合ニ於テモ水路ノ事及ヒ水ヲ用フル
事ニ付キ其各地ノ別段ナル規則ニ備フ可シ

第六百四十六條 何人ヲ問ハス土地ノ所有者ハ其近隣ノ者ヲシテ相接シタル土地ニ繞圍ヲ造ラシムルヲ得可シ
○其繞圍ノ費用ハ雙方ヨリ之ヲ償フ可シ
第六百四十七條 何人ヲ問ハス土地ノ所有者ハ第六百八十二條ニ記シタル所ヲ除クノ外其所有スル土地ニ繞圍ヲ
造ルヲ得可シ

第六百四十八條 繞圍ヲ造ラント欲スル土地ノ所有者ハ其繞圍ヲ造ル地ノ割合ヲ以テ數人ノ相互ニ用フル地ニ欲
類ヲ收蓄スルノ權ヲ失フ可シ

○第二章 法律ニテ定メタル土地ノ義務
第六百四十九條 法律ニテ定メタル土地ノ義務ハ國ノ利益又ハ公ニシテ利益又ハ一人ノ利益目的トスル所ナリ
第六百五十條 國ノ利益又ハ公ニシテ利益ト為ス土地ノ義務ハ舟楫ヲ通ス可キ河川ノ傍側ニ舟楫ノ
牽路ヲ設ケ置ク事及ヒ道路ヲ造リ又ハ道路ヲ修理スル事及ヒ其外國又ハ公ニシテ利益ト為ス土地ノ功造營ヲ為ス
事ヲ目的トス

此類ノ土地ノ義務ニ管シタル諸件ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第六百五十一條 土地ノ所有者互ニ結ビタル契約ノ外法律ヲ以テ土地ノ所有ノ間ニ互ニ數箇ノ義務ヲ生ス
第六百五十二條 其義務ノ一部ハ田野ノ圍ノ規則ニ因テ之ヲ定ム

其他ノ義務ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁及ヒ溝渠ニ管シ又近隣ノ地ヲ望下スル事及ヒ溝渠ニ管シ又ハ土地
通行ノ權ニ管ス

○第一款 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁及ヒ溝渠
第六百五十三條 都會及ヒ田野ニ於テ住宅ノ高キ家屋ト依テ著スル盡頭ノ所ニ至ル迄家屋ヲ分界シタル牆壁又
ハ二箇ノ内庭及ヒ圍圍ノ分界牆壁又ハ田野中ニ繞圍ヲ為シタル二箇ノ地ヲ分界シタル牆壁ハ之ヲ雙方ノ所有ニ
屬スル分界ノ牆壁ト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證書及ヒ憑據アル時ハ特別ナリトス

第六百五十四條 若シ牆壁ノ頂ノ一方斜直ニシテ一方斜面ナル時ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ニ非サル憑據
アリトス
又牆壁ヲ造ル時施シタル牆蓋又ハ塔蓋及ヒ牆蓋ノ受ケ木ノ一方ノみにアル時ハ亦同上ノ憑據アリトス
此場合ニ於テ其牆壁ハ木蓋牆蓋ノ受ケ木及ヒ塔蓋ノアル一方ノ所有者ノみに屬シタルト看做ス可シ

第六百五十五條 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ヲ修復シ及ヒ改造スル時ハ其牆壁ヲ有スル者各其權ノ割合ヲ以
テ其費用ヲ擔當ス可シ

第六百五十六條 分界ノ牆壁ヲ所有スル者ノ中一人其權ヲ拋棄シタル時ハ其牆壁ヲ修復シ及ヒ改造スル事ヲ擔當
スルニ及ハス然レ其牆壁自己ニ屬スル家屋ヲ支持スル時ハ特別ナリトス

第六百五十七條 分界牆壁ノ所有者中一方ノ者ハ其牆壁ニ傍テ物ヲ造作シ其厚サノ全部内五十四センチメートル
ル一メートルノ間ニテハ二メートルノ間ヲ除クノ外梁柱ヲ鑿入スルヲ得可シ但シ其隣人モ亦其牆壁ノ同一ノ
部分ニ梁柱ヲ鑿入シ及ヒ壁ニ傍テ物ヲ造作シタル時ハ一方ノ者ヲシテ其牆壁ノ中央迄其梁柱ヲ刺穿セン
ム可キ權ヲ差支トナルヲナカル可シ

第六百五十八條 牆壁共通シテ所有スル者ハ其分界ノ牆壁ノ高サヲ増スルヲ得可シ然レ之ヲ高ク為スノ費用及ヒ
其増シタル部分ヲ修復スルノ費用ヲ擔當シ且高サヲ増シタル割合ヲ以テ一方ノ所有者ニ償フ可シ但シ其償

出シタル時ハ自カラ之ヲ伐ルノ權アリ
第六百七十三條 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ植籬中ニ在ル樹木ハ其植籬ニ等シク雙方ノ所有者ニ屬シ其所有者中
何レ者ト雖モ之ヲ伐ルヲ要ムルノ權アリ

○第二款 造管土功ヲ為スニ必要ナル距離及ヒ二箇ノ家屋ノ中間ニ為ス可キ造管ノ事
第六百七十四條 雙方ノ所有ニ屬スルト否トハ分界ノ牆壁ニ傍ラテ井又ハ別荘ヲ掘ル者

其牆壁ニ傍ラテ敷欄ヲ造ラントスル者
其牆壁ニ傍ラテ墳墓及上物ヲ有ス可キ品物ノ貯場ヲ造ラントスル者

此等ノ者ハ其隣人ニ害ヲ為スヲ避ルカ爲メ別段ノ規則及ヒ習慣ニテ定メタル距離ヲ餘シ又ハ其規則及ヒ習慣ニ
因リ定メタル如ク二箇ノ家屋ノ中間ニ造管土功ヲ為ス可シ

○第三款 隣地ヲ墮下スル事

第六百七十五條 土地ノ所有者ハ何レノ方法タルヲ問ハス隣人ノ許諾ヲ得ズテ雙方ニ屬スル分界ノ牆壁ニ窓及
ヒ穴ヲ穿リ可カラス但シ其窓ハ開閉セザル玻璃板ヲ用ヒタルモノト雖モ又之ヲ造ルコトヲ許サス

第六百七十六條 一方ノ所有者ニ屬スル分界ノ牆壁ヲ所有スル者ハ其牆壁ニ開閉セザル玻璃板ヲ用ヒシ鐵格アル窓ヲ
造ルコトヲ得可シ

其鐵格ノ間ハ一ツノト三ツノトニ過ルコトナカル可シ
第六百七十七條 此窓ハ層階下ニ於テハ其空地ニ上ニ二十六センチメートル以上ニ高所ニ造ル可ラス又

層階ノ壁ニ於テハ樺板ノ上十九センチメートル以上ニ高所ニ造ル可ラス
第六百七十八條 一方ノ牆壁ト隣地トノ距離十九センチメートル以上ナルニ非サレハ隣地ノ範圍ノ有無ヲ
問ハズ其牆壁ニ隣地ヲ直視ス可キ窓ヲ造ルコトヲ得又層階ノ窓前ニ線側及ヒ其他ノ突出ヒシ物ヲ造ルコトヲ得

第六百七十九條 其距離ノ六センチメートル以上ナルニ非サレハ隣地ヲ横ニ墮下シ及ヒ斜ニ墮下スル窓ヲ
造ルコトヲ得

第六百八十條 前二條ニ記シタル距離ハ其窓ヲ穿リ可キ牆壁ノ外面ヨリ二箇ノ地ノ分界ノ線ニ至ル迄之ヲ測リ又
層階ノ窓前ノ線側及ヒ其他ノ突出ヒシ物ニ付テハ其外部ノ線ヨリ之ヲ測ル可シ

○第四款 水

第六百八十一條 不動産ノ所有者ハ己ノ土地内又ハ往還ノ道路ニ雨水ヲ流下セシム可キ方法ヲ以テ其屋蓋ヲ造ル
可シ隣人ノ土地内ニ雨水ヲ流下セシム可カラズ

○第五款 通行ノ權

第六百八十二條 自己ノ所有スル土地他人ノ土地ニ環遶セラレ往還ノ道ニ至ル可キ徑路ナキ時ハ隣地ヲ通行スル
ノ權ヲ得ト要ムルコトヲ得可シ但シ此事ニ付テ隣地ニ生ス可キ損失價ヲ出ス可シ

第六百八十三條 其徑路ハ必ズ隣地内ニテ自己ノ地ヨリ往還ノ道ニ至ルニ其距離ノ最モ少キ部分ニ之ヲ造ル可シ
第六百八十四條 然レ其徑路ハ隣地ノ最モ最モ損害ノ少キ部分ニ之ヲ造ル可シ

第六百八十五條 第六百八十二條ニ記シタル權ヲ要ムルノ訴訟ハ之ヲ定期内ニ爲サレハ於テハ終ニ其權ヲ失フ可シ但
シ其價ヲ得可キ者既ニ其訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フ時ニ至ルト雖モ通行ノ權ヲ得タル者ハ之ヲ失フコトナカル可シ

○第三章 人ノ所有ニ因リ生スル土地ノ義務

○第一款 財産ニ付テ生スル義務ノ種類

第六百八十六條 不動産ノ所有者ハ己ノ意ニ隨ヒ其不動産ニ付テ義務又ハ權利ヲ生スルコトヲ得可シ但シ此義務ハ
人ニ付テ生スルコトヲ得ス土地又ハ家屋ノ一部ニ付テ生スルコトヲ得可シ又其義務ニ因リ公ケノ安寧ヲ害ス
ルコトナカル可シ

此ノ如ク生シタル義務ヲ行フ方法及ヒ其權利ノ輕重ハ其義務ヲ生シタル證書ヲ以テ定ム可シ若シ其證書ナキ時

ハ次ノ數條ニ記スル所ノ規則ニ依リ可シ

第六百八十七條 此義務ハ家屋ニ付キ生スルモノアリ又ハ土地ニ付キ生スルモノアリ

家屋ニ付キ生シタル義務ハ其家屋ノ都府又ハ田野ニアルヲ問ハス之ヲ總稱シテコルハインノ義ト云フ

土地ニ付キ生シタル義務ハ之ヲ總稱シテリクタル田野ノ義ト云フ

第六百八十八條 此義務ニ間断ナキモノアリ又間断アルモノアリ

間断ナキ義務トハ人ノ現ニ為ス所ニ因ラズシテ連續スル義務ヲ云フ即チ水樋水竈窓牖及ヒ此種類ノ物ニ付テノ義務是ナリ

間断アル義務トハ人ノ現ニ為ス所ニ因ル義務ヲ云フ即チ通行ノ義務汲水ノ義務牧畜ノ義務及ヒ此種類ノ義務是ナリ

第六百八十九條 土地ノ義務ニ人目ニ觸ル可キモノアリ又人目ニ觸レザルモノアリ

人目ニ觸ル可キ義務トハ造管及ヒ土功ニ因リ其憑據アルモノヲ云フ即チ門窓水樋アル時ノ義務是ナリ

人目ニ觸サル義務トハ其存在スル憑據ノ目ニ觸サルモノヲ云フ即チ土地ニ造管ヲ為スノ禁又ハ定リシ高サニ非レハ造管ヲ為ス可カラサル禁ノ如シ

○第二款 土地ノ義務ヲ定ムル方法

第六百九十條 間断ナク且人目ニ觸ル可キ義務ハ證書ニ因リ之ヲ定ム又ハ三十年ノ期限ヲ經タルニ因リ之ヲ定ム可シ

第六百九十一條 間断ナキ人目ニ觸サル義務及ヒ間断アリテ人目ニ觸ル可キ義務又ハ間断アリテ人目ニ觸サル義務ハ證書ニ因ラズシテ之ヲ定ム可カラズ

起源ノ推知シ難キ時ヨリ此義務アリト雖モ證書ナクシテ之ヲ定ムルコトヲ得ス然モ定期間此類ノ義務アルニ因リ終ニ之ヲ定ムルヲ得可キ習慣アル地ニ於テハ其期限間繼續シタル所ノ義務ヲ方今ニ至リ取消ス可カラズ

第六百九十二條 間断ナク且人目ニ觸ル可キ義務ヲ定ムルニ付テハ別ニ證書ナシト雖モ土地ノ以前ノ所有者ノ意思ヲ以テ足レリトス

第六百九十三條 現今ニ箇ニ今タル土地以前一人ノ所有者ニ屬シ且其所有者其土地ヲ現今ノ義務ヲ生ス可キ景状ト為シタルノ體アルニ非サレハ土地ノ所有者其義務ヲ生セシム可キノ意思アリトセス

第六百九十四條 二箇ノ土地ノ間ニ目ニ觸ル可キ義務ノ體アリテ其二箇ノ地ノ所有者其義務ニ管シタル契約ヲク其一箇ノ他人ニ負擔シタル時其負擔アル土地ノ得可キ權利及ヒ行フ可キ義務ヲ共ニ以前ノ如ク繼續ス可シ

第六百九十五條 定期間得タルニ因リ終ニ定ムルコトヲ得タルニ非ル土地ノ權利ニ付キ之ヲ定ムタル證書ヲ失ヒシ時ハ其義務ヲ行フ可キ地ノ所有者ノ記シタル其權利ヲ誤ルノ言アルニ非サレハ一方ノ者其權利ヲ失フ可シ

第六百九十六條 義務ヲ生スルコトヲ定ムタル時一方權利ノ為ノ必要ナル條件モ亦承諾シタルト看做ス可シ故ニ巴ノ地外ノ噴泉ニテ他人ニ水ヲ汲マシム可キノ義務アル時ハ其通行ノ權モ亦承諾シタルト看做ス可シ

○第三款 權利ヲ有シタル土地ノ所有者ノ權

第六百九十七條 土地權利ヲ有スル者一方ノ義務ヲ已ノ益ト為シ且之ヲ保全スルニ必要ナル造管及ヒ土功ヲ為スコトヲ得可シ

第六百九十八條 此造管及ヒ土功ハ其權利ヲ有スル者ノ費用ヲ以テ之ヲ為シ其義務ヲ行フ可キ者ノ費用ヲ以テ之ヲ為ス可カラズ但シ其義務ヲ生スル證書ニ及ビシタル條件ヲ記シタル時ハ格別ナリトス

第六百九十九條 義務ヲ行フ可キ地ノ所有者證書ニ據リ其義務ヲ行ヒ又ハ之ヲ保全スルニ必要ナル造管及ヒ土功ヲ為ス可約定アル時ト雖モ其義務ヲ行フ可キ土地ノ權利ヲ有スル土地ノ所有者附與スル時ハ其費用ヲ出ス可キコトヲ允ルコトヲ得可シ

第七百條 若シ權利ヲ有スル土地ヲ分テタル時ハ其各部ニ其權利アリトス然モ一方ノ地ノ義務ヲシテ以前ヨリ更ニ重割ナラシムルコトヲ得可シ

故ニ通行ノ權ニ付テハ其分テタル土地ノ全部ノ所有者各必ス同一ノ道ヲ通行ス可シ

第七百一條 義務ヲ行フ可キ地ノ所有者ハ其權利ヲ有スル者ノ利益ヲ減シ又ハ其權利ヲ行フ不便ナシト可キ事ヲ為ス可カラズ故ニ義務ヲ行フ可キ地ノ所有者ハ其權利ヲ減シ又ハ其行フ可キ義務ヲ從來ノ場所ヨリ他ノ場所ニ移ス可カラズ

然其從來定マリシ場所ニテ其義務ヲ行フ其地ノ所有者ノ爲ニ損害ヲ増スニ至ル可キ時又ハ其所有者其地内ニ
有益ナル修復ヲ爲スノ妨ヲ爲ス時ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ權利ヲ有スル地ノ所有者其義務ヲ行フニ付キ從來ニ等シク
便利ナル部分ヲ換用ス可キノ求メテ得ル可シ但シ此時ハ權利アル地ノ所有者其求メテ得ル可キ
第七百二條 土地ノ權利ヲ有スル者ハ已ノ土地ニ於テモ又ハ義務ヲ行フ可キ土地ニ於テモ義務ヲ重劇ニ爲ス可キ
變更ヲ爲スコトヲ得ス唯其證書ニ依テ其權利ヲ行フ可シ

○第四款 土地ノ義務ノ終ル方法

第七百三條 不動産ヲ用フルコト能ハサル景状ニ至リシ時ハ其義務モ亦終ル可シ
第七百四條 其不動産ヲ用フルコト得可キ景状ニ復シタル時ハ其義務モ亦復ス可シ但シ第七百七條ニ記スル所ノ
如ク義務ノ全ク終リシコトヲ推知スルニ足ル可キ時間ノ既ニ経過シタル時ハ格別ナリトス

第七百五條 義務ヲ行フ可キ地ト權利ヲ有スル地ト同人ノ所有トナル時ハ其義務終ル可シ
第七百六條 土地ノ義務ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リ終ル可シ

第七百七條 此三十年ノ期限ハ義務ノ種類ニ因テ算一始ムルノ日各異ナリトス但シ開始アル義務ニ付テハ其義務
ヲ行フコト止タル日ヨリ之ヲ算一開始ナキ義務ニ付テハ其義務ニ及シタル日ヨリ之ヲ算一可シ

第七百八條 土地ノ權利ヲ行フノ方法ヲ變更スル事ハ義務ニ均シク定期ニ權テ之ヲ爲ス可シ
第七百九條 若シ權利ヲ有スル地ノ區別ナク數人ニ屬スル時其中ノ一人其權利ヲ行ヒタルニ於テハ其他ノ者定期
間之ヲ行ハスト雖モ終ニ其權利ヲ失フニ至ルコトナカル可シ

第七百十條 若シ土地ノ區別セシ共同シテ所有スル數人中ニ幼者ノ如定期間權利ヲ行ハスト雖モ之ヲ失ハサル者
アル時ハ其他ノ所有者モ亦其權利ヲ失フコトナカル可シ

民法第四編
第四款 民法四款

辻士華筆受

民法第五編

○第三篇 財產所有ノ權利ノ種類及方法

○總規則 (一千八百三年四月十九日決定 四月十九日布告)

第七百一十一條 財產所有ノ權ハ遺物相續ニ因リ又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ニ因リ又契約ニ因テ之ヲ得可シ
第七百一十二條 空ニ因テ從テ併スル權又ハ混合ス可キ物ヲ得ルノ權及ヒ定期ノ時間已ノ用ヒタル物件ヲ所得ト爲
スル權ニ因リ亦財產所有ノ權ヲ得可シ

第七百一十三條 所有者其財產ハ政府ニ屬ス可シ
第七百一十四條 一人ニ屬セズ衆人ノ相共ニ用フ可キ財產アリ

第七百一十五條 此財產ヲ用ズルノ方法ハ國中取締ノ法ヲ以テ之ヲ定ム
第七百一十六條 自己ノ地内ニ於テ財產ヲ見出しタル時ハ之ヲ見出しタル者ノ所有トス可シ若シ他人ノ地内ニ於テ

之ヲ見出しタル時ハ其見出しタル者其半ハ之ヲ所得トシ其地ノ所有者其半ハ之ヲ所得トス可シ
見出しタル財產ハ埋藏シタル材料ヲ見出しタル所有者ノ知レサル物ヲ云

第七百一十七條 性質及ビ種類ノ如何ナルコトハ海中ニ投テ入レシ品物及ヒ海水ノ打上ケレシ品物又ハ海岸ニ生
ル草類ヲ所得トスルノ權ハ亦別款ノ法則ヲ以テ之ヲ規定スル所有者ノ出テサル拾取物モ亦之ニ均シ

民法五十三

文部少博士 箕作麟祥 口譯

○第一卷 遺物相續千八百三年四月十九日決定同日告示

○第一章 遺物相續ヲ始ムル事及ヒ相續人遺物ヲ所得ト為ス事

第七百十八條 遺物相續ハ人ノ死去及ヒ准死ニ因テ之ヲ始ム可シ

第七百十九條 遺物相續ハ第一條第一條 凡條第二章第二款ノ規則ニ當ヒ准死ヲ受ケル時ヨリ之ヲ始ム可シ

第七百二十條 若シ五ニ遺物相續ヲ為ス可キ者數人同一ノ事ニテ死去シ其中何レノ者先ニ死去タルヤテ知ルコトヲ得サル時ハ其時ノ景況ニ因リ恩科シテ其中ノ後ニ死去シタル者ヲ定メ又其景況ノ分明ナラサル時ハ其死者ノ年齡ト男女トノ分別ヲ以テ定ム可シ

第七百二十一條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆十五歳以下ナル時其中ノ年長者ヲ以テ後死去シタルト恩料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆六十歳以上ナル時ハ其中齡ノ少キ者ヲ以テ後ニ死去シタルト恩料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人中ニ十五歳以下ナル者ト六十歳以上ナル者ト有ル時ハ十五歳以下ノ者ヲ以テ後ニ死去シタルト恩料ス可シ

第七百二十二條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆滿十五歳以上六十歳以下ニシテ其餘ノ全ク均ク又ハ其餘ノ差

二歳ニ過サル時ハ常ニ男ヲ以テ後ニ死去シタルト恩料ス可シ

若シ其數人ノ者男又ハ女ノミナル時ハ遺物相續ヲ為ス可キ天然ノ順序ニ從テ恩料ス可シ故ニ年少ノ者ヲ年長ノ者ヨリ後ニ死去シタルト恩料ス可シ

第七百二十三條 當然ノ遺物相續人其遺物相續ヲ為スノ順序ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ若シ當然ノ遺物相續人アツ

タル時ハ私生子遺物相續ヲ為シ又私生子ヲアツタル時ハ夫婦中ノ生存スル者之ヲ為シ夫婦中ノ生存スル者ア

ラサル時ハ其財產ヲ官ニ徵收ス可シ

第七百二十四條 當然ノ遺物相續人ハ別ニ裁判所ニ願ハスト雖モ遺物中ノ負債及ヒ賠償ヲ償フテ死者ノ財產及ヒ

死者ノ權利ヲ所得ト為スノ權アリ然レ私生子ノ子及ヒ夫婦中ノ生存スル者遺物相續ヲ為ス時又ハ其財產ヲ官ニ徵

收スル時ハ必ス定式ニ循ヒ裁判所ヲ得タル上之ヲ為スヲ必要トス

○第二章 遺物相續ヲ為スニ必要ナル條件

第七百二十五條 遺物相續ヲ為サントスル者ハ其遺物相續ヲ始ムル時現存スルコトヲ必要トス故ニ准ノ諸人ハ遺物

相續ヲ為スコトヲ得ス

第一條 未胎ノ胎ヲ為ナキ子

第二條 出生後生存シ能ハサル可キ子

第三條 准死受ケシ者

第七百二十六條 千八百十九年第七月十四日ノ法ヲ以テ廢ス外國人ハ其親族ノ外國人又ハ佛蘭西人タルヲ問ハス

其親族ノ佛蘭西領地内ニ於テ所有スル財產ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ付キ必ス佛蘭西人其親族ノ外國領地内

ニ於テ所有スル財產ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ付キ可シ但シ此規則ハ第十一條ニ記スル所ニ均シトス

第七百二十七條 第一條 死者ヲ殺シ又ハ殺サント為シタルコトニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケシ者

第二條 死者ノ死刑ニ處ス可キ讞斷ヲ上告シタル者

第三條 死者ノ被害セラルタルコトヲ知リテ其事ヲ裁判所ニ上告セサル丁年者

此等ノ者ハ遺物相續ヲ為ス可カラサルニ因リ遺物相續人ノ自中ヲ除去セラル可シ

第七百二十八條 死者ノ被害シタル者ノ血屬ノ尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親并ニ血屬ノ向上ノ親及ヒ其配偶者兄弟姉妹

伯叔父母娚姪ハ其被害ノ事ヲ上告セサルヲ以テ死者ノ遺物相續ヲ為ス差支トガルトナシ

第七百二十九條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケタルニ因リ遺物相續人ノ自中ヨリ除去セラレタル者ハ遺物相續ヲ為

シ始メタルヨリ以來其所得ト為シタル利益及ヒ入額ヲ還ス可シ

第七百三十條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケシ者ノ子其親ニ代リ遺物相續ヲ為ス可ラス然レ自己ノ權利ニ因リ遺物相

續ヲ為ス可キ時ハ其親ノ遺存ノ為ノ遺物相續人ノ貧中ヨリ除去セラレバナカル可レ但遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受
ケシ者ハ通常ノ法則ヲ允許セシヨク其子ノ相續シタル財産ニ付キ其入額ヲ得可キノ權ヲ得ント要ム可カラズ

第三章 遺物相續ヲ為スノ順序

○第一款 總規則

第七百三十一條 遺物相續ハ後ノ條條ニ記載スル所ノ順序ト規則トニ循ヒ死者ノ子及ヒ平屬ノ親尊屬ノ親及ヒ傍
系ノ親之ヲ為ス可シ

第七百三十二條 法律上ニテ遺物相續ノ規定ヲ為スニ付テハ財産ノ性質及ヒ原由ヲ問フナシ

第七百三十三條 尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親ノ相續ス可キ遺物ノ財産ハ之ヲ二箇ノ平等ノ部分ト為シ其一部ハ本家ノ
親ニ屬シ其一部ハ外族ノ親ニ屬ス

異父又ハ異母ノ兄弟ハ父母ヲ同ウスル兄弟ノ為ノ遺物相續人ノ貧中ヨリ除去セラル、ナカル可シ然レ第七百
五十二條ニ記スル所ノ外其所屬ノ族ニテ得可キノ遺物ノ財産中ニ於テ已ノ部分ヲ得可シ○父母ヲ同フスル親
族ハ本家及ヒ外族ノ二族ニ於テ遺物相續ヲ為ス可ク得可シ

本家及ヒ外族ノ二族中其一族ニ尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親ノ全クアラサル時ノ外他ノ一族親ニ全ク遺物相續ノ權ヲ移
ス可カラズ

第七百三十四條 死者ノ本家ノ親ト外族ノ親トノ間ニ遺物ノ財産ヲ分テタル上ハ其支屬ノ間ニ更ニ之ヲ分ツニ及
ハス但シ其本家ト外族トノ二族ニ分テタル部分ハ後ニ記スル所ノ代テ遺物相續ヲ為ス時ノ外最モ親近ノ遺物相
續人一人又ハ數人ニ屬ス可シ

第七百三十五條 血縁ノ親疎ハ人ノ代ノ數ヲ以テ之ヲ定メ其一代ヲ名ケテ級ト云フ

第七百三十六條 數箇ノ級相連ナルヲ系ト云ヒ其直系ニシテ五ニ血縁アル者ノ級相連ナルヲ宗系ト云ヒ又其直系
ニ非スシテ所出ノ同シキニ因リ且ニ血縁アル者ノ級相連ナルヲ傍系ト云フ

宗系ヲ分ツテ二トス其ハ一ハ尊屬ノ宗系又一ハ卑屬ノ宗系ナリ

卑屬ノ宗系トハ人ヲ其尊屬ノ者ト相連接セシムル系ヲ云ヒ尊屬ノ宗系トハ人ヲ其卑屬ノ者ト相連接セシムル系ヲ云フ

第七百三十七條 宗系ニ於テハ代ノ數ニ准シテ級ノ數ヲ立ツ故ニ子ハ父ニ對シテ第一級トシ孫ハ第二級トス又之
ニ及シテ言フ時ハ其親ヲ第一級トシ其祖父ヲ第二級トス

第七百三十八條 傍系ニ於テハ此人ヨリ其所出ノ者ニ至リ其者ヨリ彼人ニ至ル代ノ數ニ准シテ級ノ數ヲ定ム
故ニ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト舅トハ第三級トシ從兄弟ハ第四級トス他ハ皆之ニ倣フ

○第二款 代テ遺物相續ヲ為ス事

第七百三十九條 代テ遺物相續ヲ為ストハ法律上ニ於テ此人ヲ以テ宜ニ彼人ト同視スル為メ別段ニ設ケタル規則ニ
シテ其代ル者ニ死セシ本人ノ級ト稱シテ全ク移スルヲ云フ

第七百四十條 卑屬ノ親ハ其級ノ如何ナルヲ問ハズ尊屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可ク得可シ唯ハ死者ノ子ト
其死者ヨリ前ニ死シタル子ノ卑屬ノ親ト共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ死者ノ子皆死者ヨリ前ニ死去シテ其子
ノ同級ノ卑屬ノ親又ハ同級ノ卑屬ノ親數人ニテ共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ卑屬ノ親其尊屬ノ親ニ代テ遺
物相續ヲ為ス可ク得可キカ如シ

第七百四十一條 尊屬ノ親ハ卑屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可カラズ又本家又ハ外族ノ親近ノ尊屬ノ親ハ帶ニ疎
遠ノ尊屬ノ親ヲ除去シテ遺物相續ヲ為ス可シ

第七百四十二條 傍系ニ於テ死シテ死者ノ兄弟及ヒ姉妹ノ卑屬ノ親其伯叔父母ト共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ死者
ノ兄弟姉妹皆死者ヨリ前ニ死シテ其兄弟姉妹ノ同級ノ卑屬ノ親又ハ同級ナラサル卑屬ノ親數人共ニ遺物相續ヲ
為ス可キ時尊屬ノ親其尊屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可ク得可シ

第七百四十三條 代テ遺物相續ヲ為スル九許シタル場合ニ於テハ遺物ノ財産ヲ族ニ因テ之ヲ分テ若シ同ノ族ニ
數箇ノ旁支アル時ハ其旁支中ノ族ニ因テ更ニ之ヲ分テ同一ノ旁支中ノ一人一人毎ニ之ヲ分ツ可シ

第七百四十四條 生存スル人ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可キ死シ又ハ准死シ者ノミニ代リテ遺物相續
ヲ為スルヲ得可シ

若シ尊屬ノ親死去シテ卑屬ノ親其遺物相續トシタルト雖モ其後ニ其死者ニ卑屬ノ親ノ遺物ヲ相續ス可キノ理
ル時ハ其卑屬ノ親其死者ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可シ

第七百四十五條 子及ヒ卑屬ノ親ハ親ノ遺物相續ヲ為スル可キ時ハ其子及ヒ卑屬ノ親中ノ數人ノ代リテ遺物相續ヲ為ス可キ
時ハ其族ニ因テ遺物相續ヲ為スル可シ

第七百四十六條 死者ニ子孫ノ兄弟姉妹及ヒ其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親ナキ時ハ其死者ノ遺物ノ財產ノ半ハ二分ノ父又
ハ東系ノ尊屬ノ親ト母又ハ外族ノ尊屬ノ親ト之ヲ相續ス可シ

第七百四十七條 尊屬ノ親ヨリ子及ヒ卑屬ノ親ニ與ヘタル物其子及ヒ卑屬ノ親ノ子トシテ死去シタル時猶以前
ノ儘ニテ存スル時ハ其尊屬ノ親他ノ親族ヲ除去シテ其物ヲ相續ス可シ

第七百四十八條 人子孫ナクシテ死去シタル時其父母猶生存シ且其死者ノ兄弟姉妹及ヒ其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親
又其物ヲ得タル子及ヒ卑屬ノ親ト他ノ人ニ對シテ其物ヲ取置ス可キ許松ヲ為スル權モ亦其尊屬ノ親ニ移ス可シ

第七百四十九條 人子孫ナクシテ死去シ其父母中ノ一人亦既ニ死去シテ其兄弟姉妹及ヒ其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親
ル時ハ前條ニ依リテ父母中ノ死シタル者ニ屬ス可キ財產ノ部分ヲ兄弟姉妹及ヒ其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親ニ屬ス可キ
財產ノ一部ト併合ス可キ事此章ノ第五款ニ記スル所ノ如クナル可シ

○第五款 傍系ノ親遺物相續ヲ為スル
第七百五十條 子孫ナクシテ死去シタル者ノ父母既ニ死去シタル時ハ其兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ノ卑屬ノ親ニテ尊屬
ノ親及ヒ他ノ傍系ノ親ヲ除去シテ遺物相續ヲ為ス可シ

第七百五十一條 子孫ナク死去シタル者ノ父母猶生存スル時ハ其兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ノ卑屬ノ親死者ノ財產ノ
半ハ三分ノ三ヲ相續ス可シ○若シ其父母中ノ一方ノ三生存シタル時ハ兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ノ卑屬ノ親死者ノ財產
ノ四分ノ三ヲ相續ス可シ

第七百五十二條 前條ニ依リ兄弟姉妹ノ相續ス可キ死者ノ財產ノ半ハ又ハ其四分ノ三ヲ分派スル方法左ノ如シ○
其兄弟姉妹皆死者ト父母ト同ウスル時ハ各自平等ニ其財產ヲ分テ若シ父母ト同ウセザル時ハ異父ノ兄弟姉妹ト
異母ノ兄弟姉妹トノ雙方ニ其財產ヲ平分シ其兄弟姉妹中ニテ死者ト父母ト同ウスル者ハ其雙方ノ財產中ニテ已
ノ部分ヲ相續シ異父及ヒ異母ノ兄弟姉妹ハ各其一方ノ財產中ニテ已レノ部分ヲ相續ス可シ若シ又異父ノ兄弟姉
妹ノミナル時又ハ異母ノ兄弟姉妹ノミナル時ハ其一方ノ兄弟姉妹他ノ親族ヲ除キテ其財產ノ全部ヲ相續ス可シ

第七百五十三條 死者ニ兄弟姉妹及ヒ其卑屬ノ親ナク且父母中ノ一方ノアナル時又ハ父母共ニナクシテ本宗及ヒ
外族中ノ一族ニ尊屬ノ親ナキ時ハ父又ハ母又ハ生存スル尊屬ノ親其遺物ノ半ハ相續シ他ノ族中ノ最親ノ傍系

ノ親其半ハタ相續ス可シ但シ同級ノ傍系ノ親數人アル時ハ其半ハ各自平等ニ分ツ可シ
第七百五十四條 前條ノ場合ニ於テ生存スル父母ハ自己ノ所有トシテ相續セシ物ニ非ザル財産ノ三分一ノ入額ヲ
得ルノ權アリ

第七百五十五條 第二條以外ノ親族ハ遺物相續ヲ爲ス可カラズ

若シ本宗及ヒ外族中ノ一族ニテ遺物相續ヲ爲シ得可キ級ノ親族ナキ時ハ他族ノ親族遺物ノ全部ヲ相續ス可シ

○第四章 規則外ノ遺物相續

○第一款 私生ノ子父母ノ遺物相續ヲ爲スノ權及ヒ子孫ナク死去シタル私生ノ子ノ遺物ヲ相續スルノ權

第七百五十六條 私生ノ子當然ノ遺物相續人ニ非ル者トス故ニ親ヨリ之ヲ我子ナリト認メタル時ノ外其父母ノ遺物
ヲ相續スルノ權ナシ○子私生ノ子ハ父母ノ親族ノ遺物ヲ相續スルノ權ナシ

第七百五十七條 私生ノ子父母ノ遺物ヲ相續スルノ權ハ左ノ如クタル可シ

父母ニ抽出ノ子アル時私生ノ子ノ遺物相續ヲ爲ス可キ部分ハ抽出ノ子ノ相續ス可キ部分ノ三分一タル可シ又

父母ニ抽出ノ子又ハ卑屬ノ親ナクシテ專屬ノ親及ヒ兄弟姉妹アル時私生ノ子遺物ヲ相續ス可キ部分ハ其半ハ

ル可シ又父母ニ專屬ノ親卑屬ノ親及ヒ兄弟姉妹ノ共ニアラザル時私生ノ子遺物ヲ相續ス可キ部分ハ其四分ノ三

タル可シ

第七百五十八條 父母ノ遺物相續ヲ爲シ得可キ級ノ親族ナキ時ハ私生ノ子其遺物ノ全部ヲ相續スルノ權アリ

第七百五十九條 私人ノ子父母ヨリ前ニ死シタル時ハ私生ノ子ノ子及ヒ其卑屬ノ親前條條ニ記シタル所ノ部分ヲ

相續スルノ權アリ

第七百六十條 私生ノ子及ヒ其卑屬ノ親ハ以前父母ヨリ得タル贈物中ニテ此卷ノ第六章第二款ニ定メタル規則ニ

依リ遺物相續ノ時交還ス可キ條件ヲ已メ得可キ部分中ヨリ差引ク可シ

第七百六十一條 私生ノ子父母ノ生存中ニ前條條ニ依リ其得可キ部分ノ半ハ受テ其父母其私生ノ子ニ與テ可キ

財產ハ既ニ其贈與シタル部分ノミニ限ル可キノ意タルヲ別段述ヘタル時ハ父母ノ死去スル時私生ノ子及ヒ其
卑屬ノ親其餘ノ部分ヲ相續セント要ムルヲ得ス

若シ父母生存中ニ私生ノ子ニ贈與シタル財產其相續ス可キ部分ノ半ハヨリ少ナキ時ハ私生ノ子其半ハニ至ル迄

ノ外更ニ其餘ヲ要ムルヲ得ス

第七百六十二條 第七百五十七條及ヒ第七百五十八條ノ規則ハ姦通及ヒ亂倫ノ子ニ適當シテ用テ可カラズ

法律上ニ於テハ此等ノ子ニ唯其養料ヲ給ス可キノ限リトス

第七百六十三條 其養料ハ父母ノ家産及ヒ相續人ノ家産ト級ノ親疎トニ從テ之ヲ定ム可シ

第七百六十四條 父母其姦通及ヒ亂倫ノ子ニ養料ヲ學ハシメ又ハ父母中ノ一方ニテ其生存中此等ノ子養料ヲ得可

キノ遺ヲ立テ置キタル時ハ此等ノ子父母ノ遺物相續ニ加ハリテ養料ヲ得ント要ムルヲ得ス

第七百六十五條 私生ノ子子孫ナク死去シタル時ハ其父母中ノ一方我子ナリト認メタル一方ニテ其遺物相續ヲ爲シ

又父母共ニ之ヲ我子ナリト認メタル時ハ父母各其遺物ノ半ハ相續ス可シ

第七百六十六條 私生ノ子ノ父母既ニ死去シテ私生ノ子モ亦子孫ナク死去シタル時其曾テ父母ヨリ受ケタル財産

猶以前ノ儘全存スルニ於テハ抽出ノ兄弟姉妹其財產ヲ相續シ且私生ノ子父母ヨリ受ケタル財産ヲ他人ニ奪ハレ

ン事アル時ハ之ヲ取戻ス可キ訴訟ヲ爲スノ權ト其私生ノ子父母ヨリ受ケタル財産ヲ他人ニ賣却ト其價額ヲ受

取ラサル時ハ其價額ヲ受取可キノ權ト亦之ヲ抽出ノ兄弟姉妹ニ移ス可シ○其他ノ財産ハ私生ノ子ノ兄弟姉妹及

ヒ其卑屬ノ親之ヲ相續ス可シ

○第二款 死者ノ配偶者ノ權及ヒ官府ノ權

第七百六十七條 若シ死者ニ遺物相續ヲ爲シ得可キ級ノ親族及ヒ私生ノ子ナキ時ハ離婚シタルニ非サル配偶者其

遺物相續ヲ爲ス可シ

第七百六十八條 又生存スル配偶者ナキ時ハ之ヲ官ニ徵收ス

第七百六十九條 死者ノ遺物ヲ相續ス可キ配偶者及ヒ死者ノ財産ヲ徵收ス可キ土地ノ官署ハ其財產ニ封印ヲ爲シ

且其目錄ヲ記ス可シ但シ其封印ヲ爲シ及ヒ目錄ヲ記スル法式ハ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負擔及ヒ費用ヲ償ハザ

ルノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ肯スル者ノ爲メ定メタル所ニ備フ可シ第七百九十三條

第七百七十條 死者ノ配偶者及ヒ土地ノ官署ハ其地ヲ管轄スル下等裁判所ニ其財產ヲ所有ト爲ス可キコトヲ求ム可

シ○其裁判所ニ於テハ常例ニ備ヒ三次ノ公告及ヒ三次ノ貼附ヲ爲シ且テ口キアウルアンペリアルノ説ヲ聽キタ

ル後ニ非サレハ其求メヲ許ス可カラス

第七百七十一條 死者ノ配偶者ハ其相續シタル動産ヲ賣拂フテ其價額ヲ利益トナル可キ方法ニ用ヒ死者ノ當然ノ

相續人三年内ニ出テ來ルコトアル時ハ其金額ヲ渡ス可キ爲メ至當ノ保證者ヲ立ツ可シ但シ三年ノ後ハ其保證者ヲ

免ス可シ

第七百七十二條 死者ノ配偶者及ヒ土地ノ官署其行フ可キ法式ヲ行ハス其財產ヲ所有トナシタル時後ニ其當然ノ

相續人ノ出テ來ルコトアルニ於テハ其相續人ニ價額ヲ拂フ可キコトヲ裁判所ヨリ言渡サル可シ

第七百七十三條 第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條ノ規則ハ死者ノ親族ノアテサル時

其遺物ヲ相續ス可キ私生子ノ子ニモ亦適當シテ用フ可シ

第五章 遺物相續ヲ肯スル事及ヒ肯セサル事

第一款 遺物相續ヲ肯スル事

第七百七十四條 遺物相續ハ別段ノ約定ナシ之ヲ肯シ又ハ相續人其相續ス可キ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負擔及ヒ

費用ヲ償ハザル特權ヲ有スル約定ヲ以テ之ヲ肯スルコトヲ得可シ

第七百七十五條 何人ト雖モ自己ノ爲メ可キ遺物相續ヲ必スシモ肯スルニ及ハス

第七百七十六條 第六篇第五卷相續第六卷及ヒ其條ノ規則ニ備ヒ其夫又ハ裁判所ノ允許ナクシテ當然遺物相

續ヲ肯スルコトヲ得ス

幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケレ者ハ第一萬第十卷幼年後見ノ規則ニ備ハシテ當然遺物相續ヲ肯スルコトヲ得

第七百七十七條 遺物相續人其相續ノ事ヲ肯シタル時ハ死去ノ日ヨリ以テ未之ヲ肯シタルノ効アリトス

第七百七十八條 遺物相續ヲ肯スルハ明許又ハ黙許ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ公私ノ證書ニ遺物相續ヲ肯セシ者

タルノ名目ヲ記シタル時ハ明許ナリトシ又相續人遺物相續ヲ必ス肯スルノ意タルコトヲ推知ス可キノ所行及ヒ遺

物相續ヲ肯セサルハ爲スコトヲ得可カラサルノ所行ヲ爲シタル時ハ黙許ナリトス

第七百七十九條 死者ノ財産ヲ保全シ及ヒ之ヲ監察シ又ハ假リニ其財産ヲ支配スルノ所行ヲ爲スルニシテ此等

ノ事ニ管レタル證書ニ遺物相續ヲ肯セシ者タルノ名目ヲ記セサル時ハ此等ノ所爲ヲ以テ遺物相續ヲ肯シタルノ

證ト爲ス可カラス

己ノ知り得サル死者ノ遺囑書ヲ検ニ見出シタルニ因リ其相續人可キ財産ノ數半ハ以上減シタル時ノ外ハ已ニ被
害アルヲ以テ口實ト爲レ既ニ肯シタル遺物相續ヲ拒ム可カラズ

○第二款 遺物相續ヲ肯セサル事

第七百八十四條 遺物相續ヲ肯セサル事ハ恩料ノ以テ爲入可カラズ但シ遺物相續ヲ肯セサル事ハ其相續ヲ爲
ス地ヲ管轄スル下等裁判所ノ書記局ニ別段該ケタル簿冊中ニ之ヲ記入スルコトヲ必要トス

第七百八十五條 遺物相續ヲ肯セサル相續人ハ初ヨリ遺物相續人ニ非サル者ト看做ス可レ

第七百八十六條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ受テ可キ遺物ノ部分ハ其與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ニ移ス可レ若シ其
遺物相續ヲ肯セサル者ト與ニ相續ヲ爲ス可キ者ナキ時ハ與ニ一級疎遠ナル親族ニ移ス可レ

第七百八十七條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫ハ代リテ遺物相續ヲ爲ス可キ得ス但シ其遺物相續ヲ肯セサル者ト
同級ニテ與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ナキ時又ハ與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者アリト雖モ亦皆遺物相續ヲ肯セサル
時ハ其遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫自巳ニ權ヲ以テ 各自ニ其遺物相續ヲ爲ス可レ

第七百八十八條 負債者遺物相續ヲ肯セサルニ因リ其債主ノ爲メ損失ヲ生ス可キコトアル時ハ債主裁判所ヨリ負債
者ノ權ニ代リ自カラ遺物相續ヲ肯ス可キノ允許ヲ受ルコトヲ得可レ

此場合ニ於テハ其債主ノ利益ノ爲メ其債額ニ至ル迄負債者ノ遺物相續ヲ拒ミテ事ヲ取消ス可レ但シ其負債者ノ
利益ノ爲メ之ヲ取消スコトナカル可レ

第七百八十九條 遺物相續ヲ肯シ又ハ肯セサルコトヲ得可キ期限ハ不動産所有ノ權ヲ訴テ事ニ付キ定メタル最モ
永キ期限ニ均シトス 第二十二百六十
二條ニ詳ナリ

第七百九十條 一度遺物相續ヲ肯セサリレ者後遺之ヲ肯スルヲ得可キ定期内ニ他ノ遺物相續人ノ之ヲ肯シタルコ
トナキ時ハ其者更ニ其遺物相續ヲ肯スルコトヲ得可レ但シ此場合ニ於テ他ニ定期ノ時間其遺物中ノ物件ヲ有セシニ
因リ終ニ之ヲ所有ト爲スヲ得タル者アル時又ハ遺物相續人ナキ財産ヲ取扱ヒタルコトアル正レク契約ヲ結

ヒレニ因リ其遺物ノ物件ヲ所得ト爲レタル者アル時ハ其者ノ權ヲ害スルコトナカル可シ

第七百九十一條 婚姻ノ契約書ニ據ルル雖モ現存スル入ノ遺物相續ヲ爲スコトヲ預メ拒ム可カラズ又現存スル入ノ
遺物相續ヲ爲ス可キ權ハ預メ之ヲ他人ニ譲リ渡ス可カラズ

第七百九十二條 遺物相續ノ財産ヲ竊ニ轉移シ又ハ人ノ隱藏スルヲ知リ告ケサル遺物相續人ハ其遺物相續ヲ爲ス
コトヲ肯セサルノ權ヲ失フ可シ但シ其遺物相續人ハ自カラ其遺物相續ヲ爲スコトヲ肯セスト雖モ猶別段ノ約定ナキ遺
物相續人タル可ク且ツ已ノ竊ニ轉移シ又ハ人ノ隱藏スルヲ知リ告ケサル財産ハ少シモ之ヲ相續スルコトヲ得ス

○第三款 遺物相續人其相續セシ財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權此特權ヨリ生ス可キ條件及
ヒ此特權ヲ有スル相續人ノ義務

第七百九十三條 遺物相續ヲ爲ス可キ者其相續スル財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ爲サ
ント欲スル事ハ其相續ヲ爲ス地ノ下等裁判所ノ書記局ニ別段之ヲ届ケ相續ヲ肯セサルノ證ヲ記スル爲メ別段該
ケタル簿冊中ニ其由ヲ登記ス可シ

第七百九十四條 其届メ爲スト雖モ其前又ハ其後ニ訴訟法ノ規則ニ據ヒ該條ニ記スル定期間ニ相續ヲ爲ス可キ財
産ノ詳密ニレテ且公正ナル目錄ヲ記スルニ非ザレバ其効ナカル可シ

第七百九十五條 同上ノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ爲ス可キ者ハ其相續ヲ始ムル日ヨリ三月内ニ同上ノ目錄ヲ記可シ
且其者ハ其相續ヲ肯シ又ハ肯セサルコトヲ換テ可キ爲メ更ニ四十日ノ猶豫ヲ得可シ但シ其猶豫ノ期限ハ目錄ヲ
記スル三月ノ期限ノ終リレ日ヨリ之ヲ算ヘ若レ其目錄未タ三月ニ滿サル中ニ成就セシ時ハ目錄ノ成就ヒレ日ヨ
リ之ヲ算テ可シ

第七百九十六條 若シ相續人可キ遺物中ニ取扱ス可キ物又ハ蓄積スルニ多クノ費用ヲ要ス可キ物アル時ハ其相續
ヲ爲ス可キ者遺物相續ヲ爲ス可キノ權アルニ因リ裁判所ヨリ其物件ヲ賣却テ可キノ允許ヲ得可シ但シ其者此手
續ヲ爲スト雖モ其遺物相續ヲ肯シタリト看做ス可カラズ

其遺物ノ費掛ハ訴訟法ニ定メタル貼附及ヒ公布ヲ爲スノ後官吏之ヲ爲ス可シ

第七百九十七條 目録ヲ記シ及ヒ殺考ヲ爲スルノ期限開遺物相續ヲ爲ス可キ者ヲレテ其相續人ナリト定メ
レムルヲ得且遺物相續ノ訴訟ニ付キ其者ヲ相手方ト爲シ裁判ヲ受ケレムルヲ得○此定期ノ終ル時又ハ
其終ル可キ前ニ其者遺物相續ヲ爲スヲ肯セサル旨ヲ届クル時ハ其時ニ至ル迄其者ノ正當ニ爲シタル費用ヲ遺
物ノ財産中ヨリ償フ可シ

第七百九十八條 此期限ノ終リレ後遺物相續ヲ爲ス可キ者訴訟ヲ受ケル時ハ更ニ延期ヲ得シト願フヲ得可シ但
シ其訴訟ヲ管入ル裁判所ニ於テハ其時ノ換算ニ從ヒ其延期ヲ許レ或ハ之ヲ許サレ可シ

第七百九十九條 前條ニ記セタル訴訟ノ場合ニ於テ遺物相續ヲ爲ス可キ者死者ノ死去セテ知ラサル確證ヲ立レ時
及ヒ其遺物ノ産地ニテ又ハ其遺物ニ付キ争ヒ起リシニ因リ延期ノ日數足ラサルノ確證ヲ立ル時ハ其訴訟ノ費
用ヲ遺物ノ財産中ヨリ償フ可シ然レ者レ遺物相續ヲ爲ス可キ者其確證ヲ立サル時ハ其者ヲレテ其訴訟ノ費用ヲ
償ハレム可シ

第八百條 遺物相續ヲ爲ス可キ者第七百九十五條ニ記セタル期限ノ終リレ後及ヒ第七百九十八條ニ記スル野ニ
檢ヒ裁判後ヨリ許シタル延期ノ終リレ後ト雖モ尚目録ヲ記シ遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ
相續ヲ爲スヲ得可シ但シ其者此特權ヲ以テ相續ヲ爲スニ及シタル方法ニテ相續ヲ爲ス可キノ證書ヲ知リスハ
訴訟ノ終審ノ裁判アリテ其者其特權ヲ相續人タル可キヲ裁判所ヨリ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第八百一條 遺物相續ヲ爲ス可キ者其遺物ノ隠蔽シタル時或ハ故カニ不正ノ意ヲ以テ目録中ニ遺物ヲ記セサル時
ハ遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人タル可キノ權ヲ失フ可シ

第八百二條 同上ノ特權ヲ以テ相續ヲ爲ス時ハ其相續人ノ爲メ左ノ權ヲ失フ可シ
第一 已レノ相續シテ得タル遺物ノ價ニ至ル迄ノ外遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ償ハサルノ權利及ヒ
死者ニ償還ヲ要ム可キ債主又ハ死者ノ遺屬ノ贈遺ヲ受ケ可キ者ニ已レノ相續セレ遺物ヲ盡ク渡ス時遺物

相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ償フヲ免ルノ權利

第二 其相續人自己ニ屬スル財産ヲ其相續シタル財産ト混同スルヲナク且以前死者ニ貸與ヘタル金高又ハ
物件ヲ遺物財産中ヨリ取戻ス可キ訴ヲ爲スノ權利

第八百三條 相續シタル遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ遺物相續ヲ爲シタル者ハ其相續シタル
遺物ヲ支配シ且死者ノ債主及ヒ死者ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ケ可キ者ニ其支配スル遺物中ヨリ償還ノ算計ヲ爲ス可シ
此遺物相續人同上ノ算計ヲ爲ス可キノ催促ヲ受ケ償之ヲ爲サルニ非レハ其者ニ屬スル財産中ヨリ其算計ヲ爲
サシムルヲ得ス

第八百四條 同上ノ特權ヲ有スル相續人ハ其任ヲ得シ遺物支配ノ事ニ付キ重大ノ過アル時ノ外其責ニ任スルヲ
カル可シ

第八百五條 同上ノ特權アル遺物相續人遺物中ノ動産ヲ賣拂ハントスルニハ定例ニ從ヒ貼附及ヒ公布ヲ爲シタル
上官吏ノ照管ヲ以テ之ヲ擔當ス可シ

第八百六條 此遺物相續人ハ訴訟法ニ定メタル法式ヲ用ヒシテ不動産ヲ賣拂フ可カラヌ又此相續人ハ死者ノ不
動産ヲイボテレトシテ取タル債主ノ要メニ從ヒ其不動産ヲ賣拂フテ得タル代金ヲ以テ其債主ニ償フ可シ

第八百七條 又此遺物相續人債主及ヒ其他遺物相續ニ管係アル者ノ要メテ受ケタル時ハ目録中ニ記シタル動産ノ
代金及ヒイボテレノ權アル債主ニ渡シタル以外ノ不動産ノ代金ヲ償フニ足ル可キ保證者ヲ立テ可シ
若シ其保證者ヲ立テザル時ハ動産ヲ賣拂ヒ其代金ヲイボテレノ權アル債主ニ渡タル以外ノ不動産ノ代金ト共
ニ官署ニ預ケ遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ノ拂方ニ供ス可シ

第八百八條 債主中ニ其債ノ拂方ヲ得ルニ付キ別段已ノ特權ヲ保護スルヲ許フル者アル時ハ同上ノ遺物相續人裁

判役ヨリ定ムル順序ノ方法ト用ヒスシテ其債ヲ拂フ可カラズ
若シ債主中ニ別段其特權ヲ保護スルヲ許フル者ナキ時ハ此遺物相續人債主及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者ノ求
ヲ爲ス順序ニ從ヒ其債ヲ爲ス可シ

第八百九條 債主中別段其特權ヲ保護スルヲ許ヘサル者ハ此遺物相續人既ニ算計ヲ爲シ終リ其相續シタル諸件
ヲ盡ク他ノ債主ニ拂ヒタル後ニ至リテ其相續人ニ貸金ノ債ヲ要ム可カラズ唯遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ノミニ共
要ノヲ爲スヲ得可シ

此場合ニ於テ同上ノ債主ハ此遺物相續人ノ算計ヲ爲シ終リテ其相續シタル諸件ヲ盡ク他ノ債主ニ拂ヒシヨリ
三年内ニ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シ貸金ノ債ヲ得ルノ許ヲ爲ス可シ若シ其定期ヲ過ル時ハ其許ヲ許サズ
第八百十條 若シ遺物ニ封印ヲ爲シタル時ハ其封印ヲ爲スノ費用並ニ其目錄及ヒ算計書ヲ記スル費用ハ遺物ノ財
産中ヨリ之ヲ償フ可シ

○第四款 遺物相續人ノ虧缺シタル財産
第八百十一條 目錄ヲ記シ及ヒ執考ヲナス爲メノ定期ノ後ニ遺物相續ヲ求ムル者出テ來ラズ又ハ人ノ知ル所ノ遺
物相續人ナク又ハ遺物ヲ相續ス可キ者アリト雖モ此考ノ者皆其相續ヲ肯セサル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧缺シタ
ル財産トス可シ

第八百十二條 同上ノ遺物相續ヲ爲ス地ヲ管轄スル下等裁判所ニ於テハ其遺物ニ管係アル者ノ願ニ因リ又ハアロ
キリナルアシヘリアルノ申立ニ從ヒ其財産ノ割ヲトルヲ任ス可シ

第八百十三條 遺物相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スル割ヲトルハ先ツ目錄ヲ記シテ其遺物ノ模様ヲ證明シ及ヒ
遺物相續ノ事ニ管スル權利ヲ行ヒ又其權利ヲ保護ス可キ爲メ許訟ヲ爲シ又人ヨリ許訟ヲ爲スヲアル時ハ被告
ナリテ其答辨ヲ爲シ且其遺物ノ財産ヲ支配ス可シ但シ此割ヲトルハ遺物中ニアル金高ト不動産動産ヲ賣却ヒ
得タル所ノ代金トヲ官署ニ預ケ債主ノ權ヲ損害セサル法ヲ以テ其債ヲ償フ可シ

第八百十四條 遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ爲ス者ノ記ス可キ目錄ノ體裁遺物ヲ支配
スルノ方法及ヒ債主ヘノ算計ニ付キ此章ノ第三款ニ記スル所ノ規則ハ相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スル割ヲト
ルニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第六章 遺物分派ノ事及ヒ死者ヨリ當テ受ケタル贈遺ヲ返還スル事
○第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式
第八百十五條 如何ナル遺物相續人ト雖モ其相續シタル遺物ヲ必スシモ他ノ相續人ト永ク共同スルニ及ハズ別段
其遺物ヲ分派ス可カラサルノ禁制及ヒ契約アル時ト雖モ相續人中ノ一人ヨリ其分派ヲ許フルヲ得可シ

然モ相續人考定期ノ時間其分派ヲ爲ササルノ契約ヲ結フヲ得可シ但シ其契約ハ五年以上遵守スルニ及ハズト
雖モ其期限ニ至リ更ニ之ヲ改結スルヲ得可シ

第八百十六條 與ニ遺物相續ヲ爲ス教人中ノ一人遺物ノ一部ヲ別ニ占有シタル時ト雖モ他ノ相續人考其一部ヲ合
シテ教人ニ分派ス可キヲ許フルヲ得可シ但シ其一部ヲ別段其一人ニ屬ス可キヲ記シタル證書アリ又ハ其一
人定期ノ時間永ク之ヲ占有シタル時ハ格別ナリトス

第八百十七條 幼年ノ遺物相續人又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ遺物相續人ノ爲メ分派ヲ求ムル許ハ其後見人別段親族會
議ノ許諾ヲ得テ之ヲ爲ス可シ

失跡セシ遺物相續人ノ爲メ分派ヲ求ムル許ハ失跡者ノ財産ヲ假ニ有シタル其親族之ヲ爲ス可シ
第八百十八條 婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ不動産ヲ夫婦共同ノ財産中ニ加入スル時ハ夫其婦ノ承諾ヲ得シテ
其動産及ヒ不動産ノ分派ヲ他ノ遺物相續人ニ對シ許フルヲ得可シ然モ婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ不動産ヲ
夫婦共同ノ財産中ニ加入セサル時ハ夫其婦ノ承諾ヲ得シテ他ノ遺物相續人ニ對シ其分派ヲ許フ可カラズ但シ
夫婦共同ノ所有ト爲ササル婦ノ得タル遺物ニ付キ夫其人類ヲ得ルノ權アル時ハ他ノ相續人ニ對シ假リノ分派ヲ
爲サント許フルヲ得可シ

又婦ト共ニ遺物相續ヲ為ス者ハ其夫婦雙方ニ對シ許ヲ為サ、レハ確定ノ令派ヲ為シ得可カラズ
第八百十九條 遺物相續人皆其相續ヲ為ス可キ地ニ在リ且皆丁年者ナル時ハ其遺物ニ必スシモ封印ヲ為スニ及ハ
ス其遺物相續人等ノ隨意ノ方法ニ其分派ヲ為スコト得可シ

若シ遺物相續人中其相續ヲ為ス可キ地ニ在ヤル者アル時又ハ幼者或ハ治産ノ禁ヲ受ケン者アル時ハ相續人ノ類
ニ因リ又ハ下等裁判所ノアロキリウルクアリアルノ由立ニ因リ又ハ遺物相續ヲ為ス地ヲ管轄スル最下等裁判
所ノ裁判役ノ公務ニ因リカメテ急遽ニ遺物ノ財産ニ封印ヲ為ス可シ

第八百二十條 債主モ亦裁判官液ノ如ク執行ヲ可キ旨ヲ附記シタル公正ノ證書ニ因リ又ハ裁判役ノ允許ニ因リ其
遺物ノ財産ニ封印ヲ為スコト得可シ

第八百二十一條 債主ハ前條ニ記シタル證書又ハ裁判役ノ允許ナキ時ト雖モ相續人等既ニ遺物ニ封印ヲ為シタル
上ハ已ニ報知セシメテ封印ヲ除去ス可カラサル旨ヲ告ルコト得可シ

第八百二十二條 令派ヲ求ムル訴訟及ヒ分派ヲ為ス時間ニ生ズル争ハ遺物相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ニ申出ス可シ
又遺物ノ財産中ニテ令派シ難キ物ハ同上ノ裁判所ニテ之ヲ釋費ニ為ス可シ又與ニ令派ヲ為ス相續人ノ各得可キ
遺物ノ部分ヲ互ニ保證スルニ管シタル新第八百八十條及ヒ令派ヲ取消ヤントスル許モ亦此裁判所ニ申出ス可シ

第八百二十三條 若シ與ニ遺物相續ヲ為ス者ノ中一人令派ヲ承諾セサル時又ハ分派ヲ取扱フ方法及ヒ之ヲ成就ス
ル方法ニ付テ争ノ生ズル時ハ下等裁判所ニテ急遽吟味ノ法式ヲ用ヒ其許ヲ審判シ又別段ノ道理アル時ハ分派ヲ
為ス可キ為ノ特ニ裁判役中ノ一人ヲ其掛リニ任シ其旨告ヲ得タル上其許ヲ審判ス可シ

第八百二十四條 不動産ノ評價ハ令派ノ事ニ管係アル者ヨリ任シタル評價人又分派ノ事ニ管係アル者其評價人ヲ
任スルコトヲ背セサル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル評價人ヲシテ之ヲ為サシム可シ
評價人ノ調査ニハ其評價ノ大旨ヲ記ス可シ但シ大旨トハ評價シタル不動産ヲ分派シテ不便ナキヤ否ノ事且分派

シテ不便ナキ時如何ナル方法ヲ以テ分派ス可キヤノ事及ヒ幾箇ノ部分ニ分派ス可キヤノ事並ニ其各部分ノ價
ハ幾許タルヤノ事ヲ定ムルヲ云フ

第八百二十五條 又不動産ノ評價モ既ニ其評價者アル時ノ外別段評價人ヲシテ之ヲ為サシム可シ但シ評價人其價
ヲ定ムルニハ正當ノ價ヲ以テ別段之ニ増價ヲ為スコト得可シ

第八百二十六條 遺物相續ヲ為ス可キ數人ハ各其相續ス可キ不動産及ヒ不動産ノ部分ヲ品物ノ儘得可キノ訴ヲ為ス
事ヲ得可シ然レ負債ノ被債トシテ遺物ノ財産ヲ差押フル債主アル時又ハ相續人中過半其遺物ノ負債ヲ償フ可キ
為ノ其財産ヲ賣掛フコト必要ナリト述ル時ハ其不動産ヲ通常ノ法式ヲ以テ釋賣ニ為ス可シ

第八百二十七條 又不動産ヲ分派スル事不便ナル時ハ其不動産ヲ裁判所ニテ釋賣ニ為ス可シ
然レ各遺物相續人皆丁年ナル時ハ其相續人協議ノ上撰任シタル「ノ面前」ニ於テ其釋賣ヲ為スコト得
可シ

第八百二十八條 不動産及ヒ動産ノ評價ヲ為シ且之ヲ賣掛フ可キ時ハ之ヲ賣掛ヒシ後撰リ裁判役ノ言液ニテ各遺
物相續人ヲ其協議シテ任シタル「ノ面前」ニ至ラシシ若シ其相續人「ノ面前」ニ付キ協議セサル時
ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル「ノ面前」ニ至ラシム可シ

第八百二十九條 各遺物相續人ハ後ニ記スル所ノ規則ニ備ヒ其當テ死者ヨリ得タル贈物ト其死者ヨリ借リタル金
高トク財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第八百三十條 若シ遺物相續人中ノ一人其死者ヨリ受ケタル贈物ヲ品物ノ儘返還セサル時ハ他ノ相續人其一人ノ
返還セサル財産ニ均シキ部分ヲ遺物財産ノ合部中ヨリ比シ收取ス可シ但シ此場合ニ於テハ他ノ相續人其一人ノ
返還セサル財産ト成ル可キ又テ同質同價ノ財産ヲ比シ收取ス可シ

第三百三十一條 此ノ如ク財産ヲ收取シタル後遺物財産ノ合部中ニ尚餘リアル時ハ其餘分ヲ遺物相續人ノ數ニ准シテ之ヲ分テ又ハ其族數ニ准シテ之ヲ分ツ可シ

第三百三十二條 遺物ノ財産ヲ分派スルニハ成ル可キ大其不動産ヲ細小ニ分割スルヲ避ク可シト雖モ其分派シタル各部ニ成ル可キ大其同種ノ財産及ヒ不動産ヲ入レ且ツ同種ノ權利ヲ加フ可シ

第三百三十三條 分派シタル財産又ハ不動産ノ價平等ナラサル時ハ其多分ヲ得タル者ヨリ一方ノ者ニ相當ノ年金ヲ與ヘ又ハ金額ヲ與ヘテ其不足ヲ補フ可シ

第三百三十四條 遺物相續人ノ為ス可キ數人ニテ其中ノ一人ヲ選ンテ財産分派ヲ為サシム可キヲ協議シ其一人之ヲ為ス可キヲ承謝シタル時ハ其者自カラ分派ヲ為ス可シ若シ然ラサル時ハ掛リ裁判役ノ任シタル評價人ヲシテ其分派ヲ為サシム可シ

第三百三十五條 分派シタル部分ヲ關引ニ為ス前各相續人其部分ノ作り方付キ故障ヲ避フルヲ得可シ

第三百三十六條 遺物財産ノ合部ヲ相續人等ニ分派ス可キ規則ハ數箇ノ族中ニ分チタル部分ヲ更ニ細分スルニモ亦重シク用テ可シ

第三百三十七條 若シノテイルノ面的ニテ行ワタル分派ノ手續ニ付キ生ヌル時ハノテイル各遺物相續人ノ定タル故障及ヒ論議ヲ備書ニ記シ其相續人ニ掛リ裁判役ノ面前ニ至ル可キ旨ヲ告グ可シ但シ其餘ノ事ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ備セ其争ノ裁判ヲ為ス可シ

第三百三十八條 若シ與ニ遺物相續人ノ為ス可キ數人中其場ニ在ラサル者アル時又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者及ヒ既に後見ヲ免レノルト否ト問ハス知者アル時ハ第三百三十九條ヨリ以下前條ニ至ル迄ノ數條ニ記載セシ規則ニ備テ裁判ノ手續ヲ經テ其分派ヲ為ス可シ

第三百三十九條 若シ分派ヲ為スニ付キ其種ノ互ニ相續ル可キ知者二人以上アル時ハ其各知者ノ為メ別段便宜人ヲ任ス可シ

第三百三十九條 前條ニ記スル場合ニ於テ遺費ヲ為スアル時ハ必ス知者ノ財産費拂ニ付キ定メタル所ノ法式ヲ用ヒ裁判所ニ於テ之ヲ為ス可シ

第三百四十條 親族會議ノ幹事ヲ得タル後見人ノ補佐ヲ受ケル後見ヲ免レシ知者遺物相續地ニ在テタル相續人ノ名代人前條ニ記載セシ規則ニ備テ行フタル分派ハ之ヲ確定ノ分派トス可シ若シ前條ニ記セシ規則ヲ遵守セズ分派シタル時ハ之ヲ假リノ分派トス可シ

第三百四十一條 死者ノ親族タルト否ト問ハス其遺物ヲ相續スルノ權ナキ者遺物相續人中ノ一人ヨリ其相續ノ權ヲ讓リ受ケタル時ハ他人遺物相續人ノ金貨又ハ一人其者ニ其讓リヲ受ケルニ付キ抑フタル金高ヲ償ヒ其者ヲ分派中ヨリ除去スルヲ得可シ

第三百四十二條 分派ヲ為シタル後各相續人ニ各其所得ト為シタル財産ニ付テノ證書ヲ割渡ス可シ

第三百四十三條 分派ニ付テノ證書ハ其遺半ヲ得ル者ニ引渡シ若シ其財產少部ヲ得ル者其證書ノ必要ナルトアル時ハ一方ノ者ヨリ之ヲ渡ス可シ

前條ノ證書ニ通シ用テ可キ證書ハ遺物相續人等協議シテ其中一人ニ預ケ置ク可シ但シ其者ハ他ノ相續人等其證書ノ入用ナルトアル時ハ之ヲ渡ス可シ

若シ此證書ヲ預カル可キ者ヲ撰ムニ付キ生ヌル時ハ裁判役之ヲ定ム可シ

○第二款 返還ノ事

第三百四十三條 遺物相續人ハ特權ヲ有スル者ト雖モ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺トシテ直ニ得タル物及ヒ他人ノ介入ニ因リ得タル者ヲ遺物相續ノ時ニ至リ他ノ遺物相續人ニ返還ス可キ死者ヨリ嘗テ受ケタル生存中ノ贈物

ヲ已ニ保テ置ク可カラス又死者ノ遺囑ノ贈遺ニ因リ已ノ受ケ物ヲ得ル可カラス但シ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ為シタル時其贈遺ヲ受ケル者遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル者トシ

若シ此證書ヲ預カル可キ者ヲ撰ムニ付キ生ヌル時ハ裁判役之ヲ定ム可シ

○第二款 返還ノ事

第三百四十三條 遺物相續人ハ特權ヲ有スル者ト雖モ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺トシテ直ニ得タル物及ヒ他人ノ介入ニ因リ得タル者ヲ遺物相續ノ時ニ至リ他ノ遺物相續人ニ返還ス可キ死者ヨリ嘗テ受ケタル生存中ノ贈物

ヲ已ニ保テ置ク可カラス又死者ノ遺囑ノ贈遺ニ因リ已ノ受ケ物ヲ得ル可カラス但シ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ為シタル時其贈遺ヲ受ケル者遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル者トシ

第八百六十二條 其贈物ヲ受ケレ者不動産ヲ別段良好ニ爲スヲナシト雖モ其損壞ヲ護ルニ必要ナル費用ヲ出セ
レ時ハ亦其費用ノ算計ニ可レ

第八百六十三條 不動産ヲ贈物トシテ受ケレ者已ノ所爲又ハ已ノ過失及ヒ解怠ニ因リ之ヲ毀壞シ又ハ損敗シテ其
價ノ減シタル時ハ其者其價ノ減シタル高ヲ算計シテ返還ス可レ

第八百六十四條 不動産ヲ贈物トシテ受ケレ者其不動産ヲ人ニ賣却シタル時ハ其買主其不動産ヲ良好ニ爲シ又ハ
毀壞損敗シテ其價ノ減シタル高ヲ其相續人前三條ノ如ク算計シテ其返還ヲ爲ス可レ但シ此返還ハ不動産ノ損
傷ノ法ヲ用

第八百六十五條 不動産ヲ其儘返還スル時ハ之ヲ贈物トシテ得タル者ノ擔當シタルイボテークノ義務ヲ擔持シテ
遺物財産ノ合部中ニ返還ス可レ但シイボテークノ擔持ル債主ハ其不動産返還ニ付テ故ラニ已ノ權ヲ害スルコトヲ
防ト可キ爲ノ其財産ノ分派ニ管涉スルコトヲ得可レ

第八百六十六條 死者ヨリ遺物相續人中ノ一人ニ不動産ヲ與ヘタル時ニ他ノ相續人ニ之ヲ返還スルニ及ハサル
旨ヲ別段定メタルト雖モ其不動産死者ノ隨意ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ノ定分ニ過キ其過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツ
ニ不便ナキ時ハ其過分ヲ返還ス可レ又其不動産ノ過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツニ不便ナル時其過分ノ價不動産ノ全
價ノ半ハニ過ルニ於テハ其贈與ヲ受ケレ者其不動産ノ全部ヲ返還シ遺物財産ノ合部中ヨリ其不動産ノ中死者ノ
隨意ニ贈與スルコトヲ得可キ定分ノ代金ヲ已ニ挾取ス可レ○若シ其不動産ノ中死者ノ隨意ニ贈與スルコトヲ得可キ
定分ノ價其不動産ノ全價ノ半ハニ過ル時ハ其贈物ヲ受ケレ者其不動産ノ全部ヲ已ニ保有スルコトヲ得可レ

但シ其場合ニ於テハ其贈物ヲ得タル者其相續人可キ遺物ノ財産中ニテ以前得タル過分ノ不動産ノ價ニ當ル可キ
部分ヲ差引ク可レ又然ラザレバ其贈物ヲ得タル者ヨリ他ノ相續人ニ其過分ノ不動産ノ代金ヲ拂ヒ又ハ其他ノ法
方ヲ以テ其價ヲ爲ス可レ

第八百六十七條 不動産ヲ其儘ニテ返還ス可キ遺物相續人ハ其不動産ヲ良好ニ爲シタルニ付キ已ノ得可キ金高ヲ

蓋シ受取ル迄ハ其不動産ヲ占有スルコトヲ得可レ

第八百六十八條 贈物ノ動産ハ品物ノ儘返還ス可カラス必ズ其贈物ヲ得タル相續人遺物ノ財産中ニテ其動産ノ價
ニ當ル可キ部分ヲ差引キ相續スルノ方法ヲ以テ其返還ヲ爲ス可レ○其動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ評ルニハ當
其動産ヲ贈與シタル證書ニ添ヘタル評價書ニ據リ其贈與ヲ爲セル時ノ價ニ從テ可レ若シ又其評價書ハアサナル
時ハ評價人ヲシテ之ヲ評價セシメタル價ニ從テ可レ但シ評價人其價ヲ定ムルニハ正當ノ價ヲ以テ別段之ニ増
價ヲ爲スルコトヲ得可キ方法ヲ用フ可カラス

第八百六十九條 贈物トシテ得タル金高ハ遺物ノ金高中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ爲スノ法ヲ以テ返還ス可レ
若シ贈物トシテ金高ヲ得タル者遺物ノ金高中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ爲スノ法ヲ以テ返還セント爲スト雖モ
遺物ノ金高之ニ足ラサル時ハ其返還ス可キ金高ニ當ル可キ遺物ノ動産ヲ擔當シ又其動産ノ足ラサル時ハ其遺物
ノ不動産ヲ擔當シ其地金高ヲ已ニ保有スルコトヲ得可レ

○第三款 遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ事

第八百七十條 遺物相續ヲ爲ス數人ハ各其得ル所ノ遺物ノ割合ヲ以テ遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可レ
第八百七十一條 遺物相續ノ遺物ヲ爲ス者其財產中ニテ別段指定メサル一部ヲ受ケル者 第十條
等シク其所得ノ割合ヲ以テ其遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可レ然レ遺物ノ財產中ニテ別段指定メタ
ル品物 第十條
條見合セテ受ケル者ハ此負債ヲ擔當スルニ及ハス但シ其若シ死者ヨリ得タル不動産ニ付キイボテークノ
權ヲ有スル債主アル時ハ其者自ラ其負債ヲ擔當ス可レ 第八百七十
條見合セ

第八百七十二條 死者人ニ年金ヲ拂フ可キ受合トシテ其不動産ヲイボテークト爲シタル時ハ其遺物相續ヲ爲ス
各人其不動産ノ分派スル前ニ其年金ノ元金ヲ皆濟シテ其不動産ノイボテークヲ擔持ス可キコトヲ許フルヲ得可レ

○若シ遺物相續人等其遺物中ノ不動産ノイボテークヲ擔持スルコトヲ許スル時ハ其イボテークノ
義務ヲ負テタル不動産ヲモ亦他ノ不動産ト同一ノ割合ニ評價シ其價中ニテ其年金ノ元金ノ高ヲ差引ク可レ但シ

遺物ノ金高之ニ足ラサル時ハ其返還ス可キ金高ニ當ル可キ遺物ノ動産ヲ擔當シ又其動産ノ足ラサル時ハ其遺物
ノ不動産ヲ擔當シ其地金高ヲ已ニ保有スルコトヲ得可レ

○第三款 遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ事

第八百七十條 遺物相續ヲ爲ス數人ハ各其得ル所ノ遺物ノ割合ヲ以テ遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可レ
第八百七十一條 遺物相續ノ遺物ヲ爲ス者其財產中ニテ別段指定メサル一部ヲ受ケル者 第十條
等シク其所得ノ割合ヲ以テ其遺物相續ニ付テ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可レ然レ遺物ノ財產中ニテ別段指定メタ
ル品物 第十條
條見合セテ受ケル者ハ此負債ヲ擔當スルニ及ハス但シ其若シ死者ヨリ得タル不動産ニ付キイボテークノ
權ヲ有スル債主アル時ハ其者自ラ其負債ヲ擔當ス可レ 第八百七十
條見合セ

第八百七十二條 死者人ニ年金ヲ拂フ可キ受合トシテ其不動産ヲイボテークト爲シタル時ハ其遺物相續ヲ爲ス
各人其不動産ノ分派スル前ニ其年金ノ元金ヲ皆濟シテ其不動産ノイボテークヲ擔持ス可キコトヲ許フルヲ得可レ

○若シ遺物相續人等其遺物中ノ不動産ノイボテークヲ擔持スルコトヲ許スル時ハ其イボテークノ
義務ヲ負テタル不動産ヲモ亦他ノ不動産ト同一ノ割合ニ評價シ其價中ニテ其年金ノ元金ノ高ヲ差引ク可レ但シ

此場合ニ於テハ其不動産ヲ已部分トシテ得タル相続人ノ一ニテ年金ヲ拂フ可ク且他ノ遺物相続人等ニ對シ其年金ノ拂方ヨリ自カヲ仕メルナリ保證ス可ク

第八百七十三條 遺物相続人ノ各擔當ス可キ負債ノ部分ハ其已ニ得タル遺物財產ノ割合ニ依テ定ム可ク又不動産ノ割合ニ依テ負債ハ其不動産ヲ得タル相続人並ク之ヲ其一身ニ擔當ス可ク但シ其相続人ハ他ノ相続人ニ對シ及

死者ノ財產ノ全部ヲ遺囑ノ贈物トシテ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク

第八百七十四條 遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル不動産ノ贈物トシテ得タル者其不動産ニ付キ擔當スルイボテトクノ負債ヲ拂フ時ハ遺物相続人ニ對シ及ヒ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ受

ケル者ニ對シ債主ノ權ニ代リテ擔當スル許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク

第八百七十五條 遺物相続人中ノ一人又ハ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ得タル者死者ノ不動産ノ割合ニ依テ負債ヲ拂フ時ハ自カノ拂フ可キ部分ヨリ更ニ餘分ヲ拂フタル時ハ自カヲ債主ノ權ニ代

以テ他ノ遺物相続人ニ對シ不動産ニ管シ得タル自己ノ資金ヲ拂ハシメテ許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク但シ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ受ケル者ノ中一

人遺物ノ不動産ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ヲ拂フ時ハ他ノ相続人又ハ他ノ贈物受取人等者其各得タル財產ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ノ部分ヲ擔當ス可ク

第八百七十六條 遺物相続人中ノ一人又ハ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ受ケル者ノ中一其遺物相続人ニ對シ其管シ得タル自己ノ資金ヲ拂ハシメテ許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク但シ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ受ケル者ノ中一

人遺物ノ不動産ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ヲ拂フ時ハ他ノ相続人又ハ他ノ贈物受取人等者其各得タル財產ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ノ部分ヲ擔當ス可ク

第八百七十七條 債主死者ノ負債ノ抵償シテ其財產ヲ差押フル裁判官渡ル如ク執行ヲ可キ證書ヲ有スル時ハ亦其遺物相続人ニ對シ其管シ得タル自己ノ資金ヲ拂ハシメテ許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク但シ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定スル一部ヲ贈物トシテ受ケル者ノ中一

人遺物ノ不動産ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ヲ拂フ時ハ他ノ相続人又ハ他ノ贈物受取人等者其各得タル財產ノ割合ニ依テ自己ノ資金ヲ拂フ可キ負債ノ部分ヲ擔當ス可ク

第八百七十八條 前條ニ記スル債主ハ何レノ場合ニ於テモ遺物相続人ノ債主ニ對シ死者ノ遺物財產ノ遺物相続人ノ元來所有スル財產トシテ分別セントスルノ許シ得可ク

第八百七十九條 然ル死者ノ債主遺物相続人ノ死者ニ代テ債ヲ負フ可キノ承諾シ死者ノ債ヲ取消シ更改シテ相続人ノ債ト爲シタル時ハ其債主前條ノ許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク

第八百八十條 死者ノ債主同上ノ許シ得タル者ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク

第八百八十一條 遺物相続人ノ債主ハ死者ノ債主ニ對シ死者ノ遺物財產トシテ分別セントスルノ許シ得可ク

第八百八十二條 遺物相続人ノ債主ハ故クニ已ニ權利ヲ管シ可キ分派ヲ爲スヲ防ク可キ爲メ自己ノ面前ニ非サレハ其分派ヲ爲ス可カラザル者其相続人ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ置サレムルノ許シ得可ク

第八百八十五條 若シ遺物相續人中ノ一人其所得ト爲シタル部分ノ財産ニ付キ人ヨリ故障ヲ受ケタルニ因リ損失ノ生シタル時ハ前條ニ依ヒ他ノ相續人各其所得トシタル部分ノ割合ヲ以テ其損失ヲ償フ可シ
若シ他ノ遺物相續人中ニ其損失ヲ償フコトハサル者アル時ハ其看ノ拂フ可キ部分ヲ其損失ヲ受ケタル相續人ト
其他ノ相續人トニ平等ニ割付テ可シ

第八百八十六條 相續人中ノ一人其所得ト爲シタル部分ノ財産中ニ人ヨリ年金ヲ得可キノ權アリテ若シ其人年金ヲ拂フコトハサル時ハ其損失ヲ受ケタル相續人他ノ相續人ヲシテ其損失ヲ償ハシムルノ權アリ但シ其訴ハ分派ヨリ五年内ニ他ノ相續人ニ對シ之ヲ爲ス可シ
○若シ既ニ分派ヲ成就シタル後年金ヲ拂フ可キ者相續人中ノ一人ニ之ヲ拂フコトハサルニ至リシ時ハ其相續人他ノ相續人ヲシテ其損失ヲ償ハシムルコト得ス

○第五款 遺物財産ノ分派ヲ取消ス事
第八百八十七條 一度分派ヲ爲シタルト雖モ強迫及ヒ詐偽ノ所爲アル時ハ之ヲ取消ト爲スコト得可シ
又遺物相續人中ノ一人自己ノ相續ス可キ遺物ノ部分四分一以上不足ナルノ證ヲ立ル時ハ分派ヲ取消ト爲スコト得可シ
○若シ相續ス可キ一箇ノ遺物ヲ分派ノ時遺忘セシノミニ放テハ其分派ヲ取消スコト得可キコト唯分派ノ證書ニ其一箇ノ遺物ヲ追補シテ記入ス可シ

第八百八十八條 遺物相續人等ニ遺物ノ財産ヲ分ツ證書ハ分派ノ證書ノ名義ヲ用フルコトナク費拂ノ契約書交換ノ契約書和解ノ契約書ノ名義ヲ用ヒ又ハ其他如何ナル名義ヲ用フルト雖モ前條ニ依ヒ之ヲ取消ス可キノ訴ヲ爲スコト得可シ
然レ一度分派ノ證書ヲ記シタル後又ハ分派ノ證書ニ換用ス可キ證書ヲ記シタル後相續人等ノ間ニ起リタル眞ノ争對和解シ其單ヲ落著シテ和解ノ證書ヲ記シタル時ハ之ヲ公ケニ訴出シタルコトナシト雖モ前條ニ記セシ訴ニ因テ其和解ノ契約書ヲ取消サンコト訴フ可カラス

サルノ約定ヲ以テ遺物相續ノ權ヲ詐偽ナク費與ヘシ時ハ後ニ其費拂ノ契約ヲ取消ス可キノ訴ヲ爲ス可カラス
第八百九十條 遺物相續人ノ損害不足ノ分一以上ノ計ルニハ遺物ノ財産分派ノ時ノ價ニ從テ之ヲ算計ス可シ
第八百九十一條 分派ヲ取消ス可キ訴訟ノ被告人ハ原告人ニ金高又ハ品物ヲ以テ其相續ス可キ部分ヲ追補スルニ因リ其訴訟ヲ止メ改メテ分派ヲ爲スヲ防クコト得可シ
第八百九十二條 遺物相續人其相續シタル財産ニ付キ他ノ遺物相續人ノ詐偽ヲ知發シタル後又ハ強迫ノ既ニ止メタル後ニ其相續シタル財産ヲ費拂ヒタル時ハ其詐偽又ハ強迫ヲ述テ分派ノ取消ヲ訴フ可カラス

佛蘭西 民法第五 條

佛蘭西 民法第六 條

文部少博士其作辭釋口譯

○第二章 總規則
○第一節 贈遺ノ證書及ヒ遺囑ノ贈遺ノ證書千八百三年第五月三日決定同月十三日布告
第八百九十三條 凡ソ財産ハ後ニ記スル所ノ法式ニ從ヒ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲スノ外償ヲ得スシテ之ヲ人ニ與フルコト得ス
第八百九十四條 生存中ノ贈遺ノ證書トハ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ヲ受ルコト承諾スル者ノ爲メ自己ノ財産ヲ即

時ニ譲リ與フル證書ヲ云フ但シ此證書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第八百九十五條 遺囑ノ贈遺ノ證書トハ其贈遺ヲ為ス者其死シタル後自己ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ人ニ與フル證書ヲ云フ但シ此證書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルコトヲ得可シ

第八百九十六條 遺囑ノ受取人ハ其死後ニ當テ其贈遺ハ之ヲ禁止ス
生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者クシテ其受クル所ノ財産ヲ保有セシメ其死スル時其贈遺者ノ預定シタル人ニ之ヲ譲ラシムルノ約定ハ縱令ヒ其贈遺ヲ受ル者之ヲ承諾スルト雖モ其効ナカル可シ然レ皇帝ヨリ皇族ニ別段與ヘタル世襲ス可キ不動産ハ之ヲ負債ノ質ト爲シタル時ノ外千八百六十六年三月三十日ノ命令書及ヒ第四百十四日ノ命令書ヲ以テ規定シタル如ク之ヲ世襲ス可シ

第八百九十七條 此章ノ第六章ニ父母兄弟姉妹等ノ贈遺ニ付キ別段定メタル規則ハ前條ニ記スル所ノ例外ナリトス

第八百九十八條 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者若シ其贈遺ヲ受ルコトヲ承諾セズ又ハ車故アリテ其贈物ヲ受ルコト能ハサルニ於テハ贈遺者ノ定メタル人ニ其贈遺ヲ為ス可キノ約定ハ遺囑ノ受取人トシテ之ヲ看做ス可カラズ之ヲ法律上ニテ允許シタルモノト爲ス可シ

第八百九十九條 一人ニ財産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ與ヘ又一人ニ其財産ヲ所有スルノモノノ權ヲ與フル生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ約定ハ亦前條ニ記スル所ノ約定ノ如ク法律上ニテ允許シタルモノトス

第九百條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為スニ付キ人ノ行ヒ能ハサル車ヲ爲サシムル約定書又ハ法律及ヒ風儀ヲ書スル車ヲ爲サシムル約定書ハ初メヨリ全ク之ヲ記セサルモノト看做ス可シ

○第二章 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ之ヲ收受スルニ必要ナル條件

第九百一條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲スニハ精神ノ健全ナルコトヲ必要トス

第九百二條 法律上ニテ別段制禁ヲ受ケタル者ノ外何人ニ限ラズ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ其贈遺ヲ收受スルコトヲ得可シ

第九百三條 十六歳以下ノ幼者ハ此章ノ第九章ニ記載スル所ノ外何レノ方法ヲ論セス自己ノ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス

第九百四條 十六歳以上ノ幼者ハ遺囑ノ贈遺ヲ爲スノ外其財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス且其遺囑ノ贈遺ヲ以テ人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ハ丁年者人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ノ半ハノミトス

第九百五條 婚姻シタル婦ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ記スル所ノ猶ヒ其夫ノ立會又ハ其立會ニ非ラズ其夫ノ別段夫リ許諾ヲ得又然ラザレハ裁判野ヨリノ允許ヲ得ルニ非ヤレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス

然レ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判野ノ允許ヲ必要トセス

第九百六條 生存中ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可キ者ニハ其贈遺ヲ爲ス時之ヲ受クル者母ノ胞内ニアルヲ以テ足レリトス

遺囑ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可キ者ニハ其贈遺ヲ爲ス者ノ死スル時之ヲ受クル者母ノ胞内ニアルヲ以テ足レリトス

然レ其子出生シタル上生存ス可キノ時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可シ

第九百七條 幼者ハ縱令十六歳以上ニ至ルト雖モ其後見人ニ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ自己ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得ス

又幼者既ニ丁年ニ至ルト雖モ後見人算計書ヲ其幼者ニ渡シテ其算計ヲ爲シ終リタル後ニ非レハ其幼者生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ後見人ニ自己ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得ス

此ニ項ニ記シタル場合ニ於テ幼者ノ算計ノ親其後見人ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第九百八條 私生ノ子ハ此章ノ第一卷ノ規定ニ其得可キ事ヲ記シタル遺物ノ外生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ其父母ノ財産ヲ受ク可カラズ

第九百九條 内科外科ノ醫師下等醫師又ハ製藥者病者ヲ診察シ其病者終ニ死シタル時ハ其病ヲ問其死者ヨリ醫師又ハ製藥者ニ爲シタル生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可シ

然レ其死者ノ家産ト其醫師製藥者ノ勞カトニ在リ其死者ノ遺産ニ爲スコトヲ得可キ財産中別段定メタル一部ヲ

賜贈ノ體トシテ贈與スル約定ハ前項ニ記スル所ノ例外ナリトス
又其死者ニ宗系ノ遺物相續人ナク其醫師又ハ製藥者其死者ノ第四級ニ至ル迄ノ血屬ノ親ナル時ハ其死者ノ隨意
ニ爲スヲ得可キ財産ノ全部ト雖モ之ヲ贈遺トシテ受クルコトヲ得可レ但シ其醫師又ハ製藥者其死者ノ宗系ノ遺物
相續人タル時ハ其他ニ宗系ノ相續人アリト雖モ同上ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可レ

説教ノ僧ヲ付テモ亦同上ノ規則ニ循フ可レ

第九百十條 食院及ヒコンキニシテノ食者ノ爲メ又ハ衆庶ノ裨益ヲ爲メトシテ設ケタル公ケノ建造物ノ爲メ生存
中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ以テ財産ヲ贈與スル約定ハ皇帝ノ命令ニテ之ヲ允許シタル上ニ非レハ其効ナカル可シ
第九百十一條 贈遺ヲ受ク可カラザル者ノ爲メ財産ヲ贈與スルノ約定ハ偽テ其價ヲ收ムル契約ノ體裁ニテ爲スト
雖モ又ハ介入スル者ノ名ヲ借ラシメテ雖モ其効ナカル可レ
贈遺ヲ受ク可カラザル者ノ父母子卑屬ノ親配偶者ハ介入者ト看做ス可レ

第九百十二條 千八百十九年第七月十四日ノ法ヲ以テ廢ス外國人佛蘭西人ノ爲メ贈遺ヲ爲スヲ得可キ時ハ外佛蘭西
人外國人ノ爲メ贈遺ヲ爲ス可カラズ
○第三章 隱意ニ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分及ヒ贈遺ト爲シタル財産ヲ減スル事

○第一款 贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分
第九百十三條 贈遺ヲ爲ス者嫡出ノ子一人ヲ遺ス時ハ自己ノ財産ノ半ハアテ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ人
ニ贈與スルコトヲ得可キ又嫡出ノ子二人ヲ遺ス時ハ其三分ノ一ヲ贈與スルコトヲ得可キ若シ又三人以上ノ嫡出ノ子
ヲ遺ス時ハ其四分ノ一ヲ贈與スルコトヲ得可レ

第九百十四條 前條ニ子ト記スル者ハ級ノ如何ナルヲ問ハズ卑屬ノ親ヲ被ヘテ之ヲ指シテ云フモノトス但シ卑屬ノ
親代ハ遺物相續ト爲スノ權ヲ有スル時ハ其卑屬ノ親數人アリト雖モ之ヲ一人ト看做シテ算フ可レ
第九百十五條 贈遺ヲ爲ス者子ヲ遺サズト雖モ本宗外族ノ兩族二人又ハ數人ノ卑屬ノ親ヲ遺ス時ハ其財産ノ半ハノミヲ人

贈與スルコトヲ得可レ又本宗及ヒ外族中ノ一族ノミニ尊屬ノ親ヲ遺ス時ハ其財産ノ四分ノ三ヲ贈與スルコトヲ得可レ
此ノ如ク尊屬ノ親ノ爲メ別段遺レ置キタル財産ハ其尊屬ノ親遺物相續ト爲ス可キ定則ノ順序ヲ以テ之ヲ相續ス
可レ但シ死者ノ遺物ノ相續スル時此輩屬ノ親ノ權係系ノ親ノ權ト相觸レ其尊屬ノ親ノ相續ス可キ財産ノ定數不
足ナル時ハ尊屬ノ親其別段遺レ置キタル財産ヲ盡ク已レノ有ト爲スヲ得可レ

第九百十六條 尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親ノ共ニアツタル時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ財産ノ全部ヲ人ニ
贈與スルコトヲ得可レ

第九百十七條 財産ノ入額ヲ得ルノ權又ハ母生間ノ年金ヲ得ルノ權ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ贈與シ
タル時ハ其遺物相續人其贈與ヲ爲シタルコトヲ承諾ス可レ若シ相續人之ヲ承諾セザル時ハ死者ノ遺物中ニテ其死
者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分ヲ其贈遺ヲ受ケレ者ニ與ヘテ同上ノ權ヲ取還スコトヲ得可レ

第九百十八條 母生間ノ年金ヲ受取ル可キ約束又ハ入額ヲ得可キ約束ヲ以テ嘗テ死者ヨリ遺物相續人中ノ一人ニ
所有ノ權ヲ賣リ渡シタル時ハ其價ハ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分中ヨリ之ヲ差引テ可レ若シ其財産ノ價贈遺
ト爲スヲ得可キ定分ニ過ル時ハ其餘ヲ遺物ノ合部中ニ返還ス可レ○其差引及ヒ返還ハ死者同上ノ約束ニテ財産
所有ノ權ヲ賣リ渡スコトヲ承諾シタル他ノ遺物相續人ヨリ之ヲ訴ヘ出ス可カラズ又何レノ場合ニ於テモ係系ノ遺
物相續人ヨリ之ヲ訴ヘ出ス可カラズ

第九百十九條 贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分ノ全部又ハ一部ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ其所有者已
レノ子又ハ其他ノ遺物相續人ニ贈與スルコトヲ得可レ但シ其贈與ヲ爲ス者後ニ其贈物ヲ遺物ノ合部中ニ返還スルニ
及ハサルコトヲ別段定メ置キタル時ハ之ヲ返還スルニ及ハス

遺物相續人中ノ一人ニ財産ヲ贈與シ後ニ之ヲ遺物ノ合部中ニ返還スルニ及ハサルノ約定ハ之ヲ其贈遺ノ證書中
ニ附記シ又ハ其贈遺ヲ爲シタル後ニ贈遺ノ證書ニ等シキ體裁ノ證書ニ記ス可レ

○第二款 贈遺ト爲シタル財産ヲ減スル事

又贈遺ヲ爲ス者ノ生存中ニ於テハ贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ證書ヨリ後ニ公正ノ證書ヲ記シテ其贈遺ヲ受クル
ヲ承諾シ其證書ノ正本ヲ引テ取ルニ得ルコトヲ得可シ然レ此場合ニ於テハ其承諾ヲ爲ス證書ヲ贈遺者ニ示シタル
日ヨリ後ニ非サレハ其者ニ對シ其効ナカル可シ

第九百三十三條 贈遺ヲ受クル者丁年者ナル時ハ自カラ其贈遺ヲ承諾シ又ハ其本人ニ代テ特ニ其一箇ノ贈遺ヲ承
諾ス可キ權又ハ總テ其者ノ受テ可キ諸般ノ贈遺ヲ承諾ス可キノ權ヲ任セテレシ名代人其承諾ヲ爲スヲ得可シ
此名代人ヲ任スル書ハ「テイル」ノ面前ニテ之ヲ記シ其證書ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ置ク可シ若シ又贈遺ノ證
書ト贈遺ノ承諾ヲ爲ス證書ト異ナル時ハ其證書ヲ其承諾ヲ爲ス證書ノ正本ニ添ヘ置ク可シ

第九百三十四條 婚姻シタル婦ハ第二百七條及ヒ第二百十九條^{婚姻}ニ記スル所ノ夫^夫ニ其夫ノ許諾ヲ得ズシテ人
ヨリ爲シタル贈遺ヲ承諾スルコトヲ得ス又夫ノ許諾ヲ得サル時ハ裁判所ノ允許ヲ得ズシテ其贈遺ヲ承諾スルコトヲ得ス
第九百三十五條 後見ヲ免レサル切者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニ爲シタル贈遺ハ第四百六十三條^切ニ記ス
ル所ニ依ヒ其後見人之ヲ承諾ス可シ

後見ヲ免レタル切者ハ「テイル」ノ立會ニテ人ヨリ贈遺ヲ承諾ス可シ
總テ後見ヲ免レタルト否トヲ問ハス切者ノ父母又ハ父母ノ生存中ト雖モ其尊屬ノ親ハ自カラ其切者ノ後見ノ任ス
ル「テイル」ノ任ヲ受ケタルト否トニ係ハラヌ切者ノ爲メニ贈遺ヲ承諾スルコトヲ得可シ

第九百三十六條 啞聾者文字ヲ書スルコトヲ知時ハ自カラ贈遺承諾シ又ハ名代人ヲシテ其承諾ヲ爲サシムルコトヲ得可シ
若シ啞聾者文字ヲ書スルコトヲ知ラサル時ハ第一^切ニ定メタル規則ニ依ヒ特ニ任シタル「テイル」
ルヲシテ其贈遺ノ承諾ヲ爲サシム可シ

第九百三十七條 貧院又ハ「ゴム」ニ「ユーン」ノ貧者ノ爲メ又ハ家底ノ利益ヲ爲サントシテ設ケタル建造物ノ爲メナ
タル贈遺ハ其貧院又ハ「ゴム」ニ「ユーン」又ハ建造物ノ支配人別段之ヲ承諾ス可キノ官許ヲ得タル後ニ非レハ其承諾
ヲ爲ス可カラズ

第九百三十八條 贈遺ヲ受クル者相當ノ式ヲ以テ贈遺ヲ承諾シタル上ハ其贈遺ヲ爲ス者ト之ヲ受クル者トノ意
ニ因リ其贈遺ヲ爲シ終リタルモノト爲シ其贈遺ノ財産ヲ所有スルノ權ヲ其贈遺ヲ受ケタル者ニ移ス可ク別段ノ
法式ヲ用ヒ之ヲ引渡スニ及ハス

第九百三十九條 「イボテ」ト爲ヌヲ得可キ財産ヲ贈遺ト爲シタル時ハ其贈遺ト承諾トヲ記シタル證書又贈遺ノ
證書ト承諾ノ證書ト異ナル時ハ其武通ノ證書ヲ其財産所在ノ地ヲ管轄スル「イボテ」トクノ官署ノ簿冊ニ登記ス可
シ

第九百四十條 婚前條ニ記スル財産ノ贈遺ヲ受ケタル時ハ夫其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記ス
ルコトヲ求ム可シ若シ夫此式ヲ行ハサル時ハ其婚別ニ裁判所ノ允許ヲ受ケタル「イボテ」トクノ官署ノ簿冊ニ登記ス
ヲ爲スコトヲ得可シ

切者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者又ハ家底ノ利益ノ爲メ設ケタル建造物其贈遺ヲ受ケタル時ハ其後見人「テイル」支
配人其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルノ求メヲ爲ス可シ

第九百四十一條 贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル「イボテ」トクノ官署ノ簿冊ニ各人他
ノ事故ニ付キ訴訟ヲ爲ス時ニ當リ其登記ナキ旨ヲ申立ルコトヲ得可シ但シ其登記ノ求メヲ爲ス可キ者又ハ其者ノ
權ニ代ル者又ハ贈遺ヲ爲ス者ハ之ヲ申立ルコトヲ得ス

第九百四十二條 切者治産ノ禁ヲ受ケシ者婚姻シタル婦ハ贈遺ヲ承諾スル事及ヒ贈遺又ハ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿
冊ニ登記スル事ヲ其後見人又ハ其夫ノ同意ヲ得タル時自カラ之ヲ同意タルニ等シキ責ニ任ス可ク唯其後見人又ハ其
夫ニ對シ損失ノ償ヲ訴フ可キ處理アル時ハ之ヲ訴アルコトヲ得可シ但シ其後見人又ハ夫ヨリ切者又ハ治産ノ禁ヲ
受ケシ者又ハ婦ニ其損失ノ償ヲ爲ス「テイル」トクノ官署ノ簿冊ニ此等ノ者ハ其後見人又ハ夫ヨリ切者又ハ治産ノ禁ヲ
第九百四十三條 生存中ノ贈遺ハ贈遺ヲ爲ス者ノ現在所有スル財産ノミニ限ル可シ若シ其贈遺ノ契約書中ニ贈遺
者日後所有ト爲ス「イボテ」アル可キ財産ヲ記シタルト雖モ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十四條 若シ贈遺ス者ノ意ニ管スル契約ヲ以テ生存中ノ贈遺ヲシタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十五條 又生存中贈遺ヲ受ケル者ヲシテ其贈遺ノ時現ニ在ル以外ノ負債又ハ贈遺ノ證書及ヒ其證書ニ附

加ス可キ目録ニ記シタル以外ノ負債ヲ償ハシム可キノ契約ヲ以テ贈遺ヲ為タル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十六條 生存中ノ贈遺ヲ為ス者其贈遺ト為シタル財産中ノ品物又ハ贈遺ト為シタル財産中ノ定數ノ金高

ヲ自己ノ意ニ隨ヒ自由ニ取扱フ可キノ權ヲ特ニ保有シ其權ヲ行フナク死シタル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ為

メ如何ナル契約アルハ其品物又ハ其金高ヲ贈遺者ノ遺物相續人所得ト為ス可シ

第九百四十七條 前四條ハ此卷ノ第八章及ヒ第九章ニ記載スル所ノ贈遺ニ通シテ用フ可カラズ

第九百四十八條 動産ノ贈遺ヲ為ス時ハ其動産ノ評價書ヲ記シ贈遺ヲ為ス者及ヒ之ヲ受ケル者又ハ贈遺ヲ受ケル

者ノ為メ其贈遺ヲ承諾スル者之ニ姓名ヲ手署シ其評價書ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ置クニ非ヤレハ其贈遺ノ効

ナカル可シ

第九百四十九條 動産又ハ不動産ノ贈遺ヲ為ス者ハ其入額ヲ所得トスルノ權ヲ已レニ保テ置キ又ハ他人ノ為メニ

保テ置クヲ得可シ

第九百五十條 動産ノ贈遺ヲ為ス者其動産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ已レニ保テ置キタル時ハ贈遺ヲ受ケル者贈遺ヲ

為タル者ノ入額ヲ所得トスル權ノ終ル時存在スル動産付テハ其時ノ形狀ノ價之ヲ受取リ又存在セザル財産ニ付

テハ以前贈遺ヲ為シタル時ニ記シタル評價書ニ從ヒ其代金ヲ得可キヲ其贈遺者又ハ其遺物相續人ニ對シ許フ

ルヲ得可シ

第九百五十一條 若シ贈遺ヲ受ケタル者贈遺ヲ為ス者ヨリ先キニ死去スル時又ハ贈遺ヲ受ケタル者ト其卑屬ノ親ト贈

遺ヲ為ス者ヨリ先キニ死去スル時ハ其贈遺者贈遺ト為タル財産ヲ取戻ス可キノ契約ヲ贈遺ヲ受ケル者ト共ニ為

スヲ得可シ

此種ハ贈遺ヲ為ス者ノ利益ノ為メ之ヲ契約スルヲ得可シ

第九百五十二條 前條ノ如ク贈遺ト為シタル財産ヲ取戻ス可キノ約定アル時ハ贈遺ヲ受ケシ者ヨリ其贈遺ノ財産

ヲ他人ニ賣渡シタル契約ノ廢棄シ且其財産ニ付キ擔當ス可キ負債及ヒ之ヲ負擔シテ贈遺ヲ為タ

ル者ニ之ヲ取戻スヲ得可シ○然レ其贈遺ヲ受ケル者ノ婚姻ノ契約書ニ此贈遺ノ旨ヲ附記セシ時後ニ其贈遺ヲ

受ケタル者死去シテ其元來所有スル財産ノトニテハ其配偶者ノ嫁資ノ價ト又ハ其他婚姻ノ契約ノ如ク執行ワ

能ハカル時ハ當テ贈遺ヲ為シタル者其財産ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ負擔シテ之ヲ取戻スヲ得ス

○第二款 生存中ノ贈遺ノ證書ヲ發棄ス可カラサル規則外ノ諸件

第九百五十三條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ贈遺ヲ受ケル者其贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハサル事又

ハ恩義ヲ忘ル、事又ハ贈遺ヲ為ス者其贈遺ヲ為シタル後ニ子ノ出生スル事ニ因リ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第九百五十四條 贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハサルヲ以テ贈遺ノ證書ヲ廢棄シタル時ハ贈遺ヲ受

ケタル者ノ擔當ス可キ負債及ヒ之ヲ負擔シテ其贈遺ヲ為タル者其財産ヲ取戻シ且其贈遺ヲ為シ

タル者ハ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ為ス可キノ所ニ等シキ訴訟ヲ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ其贈遺ノ不動産ヲ得タル

者ニ對シテ為スヲ得可シ

第九百五十五條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ左ノ場合ニ於テ恩義ヲ忘レタル事ニ因リ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第一 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ノ性命ヲ害セントシタル時

第二 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ニ對シテ罪ヲ犯シ又ハ至重ノ損害ヲ為シタル時

第三 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ニ養料ヲ給スルヲ責セタル時

第九百五十六條 贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハス又ハ恩義ヲ忘レタル事ニ因リ生存中ノ贈遺ノ證書

ヲ廢棄スル事ハ其贈遺ヲ為ス者ノ自己ノ權ヲ以テ之ヲ為ス可キ事ニ非ス裁判所ニ訴ヘ出シタル上ニテ之ヲ為ス可シ

第九百五十七條 恩義ヲ忘レタル事ニ因リ贈遺ノ證書ヲ廢棄スルノ訴ハ贈遺ヲ為シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ

害ヲ蒙リタルト述ヘシ日ヨリ一年內又ハ贈遺ヲ為タル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ行フアル罪ヲ知リ得タル日ヨ

リ一年以内ニ之ヲ為ス可シ
其贈遺ノ證書ヲ廢棄スルノ訴ハ贈遺ヲ為シタル者ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ノ遺物相續人ニ對シテ之ヲ為ス可カラ
ス又贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ之ヲ為ス可カラズ但シ贈遺ヲ為シタル者其
訴ヲ為シ其未タ決定セサル内ニ死去シタル時又ハ贈遺ヲ為シタル者其訴ヲ為サスト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ罪
犯ヲ行フタルヨリ一年以内ニ死去シタル時ハ贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ其訴
ヲ為ス可ク得可シ

第九百五十八條 第九百三十九條ニ記シタル如ク不動産ノ贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ公正ニ為ス可キカ為メ之
ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル贈遺ヲ受ケタル者恩殺ヲ忌ムルニ因リ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セント訴フル書面
ヲ附記スル前ニ其贈遺ヲ受ケタル者其贈遺ノ不動産ヲ賣拂ヒ又ハ其不動産ヲイボテクト為シ又ハ其他ノ方法
ニテ負債ノ質ト為シタル時ハ其贈遺ノ證書ヲ廢棄スルト雖モ其賣拂ヒノ契約又ハ負債ノ質ノ契約ヲ廢棄ス可カラズ
此場合ニ於テ不動産贈遺ノ證書ヲ廢棄シタル時ハ其廢棄ノ訴ヲ為グル時ノ其不動産ノ價并ニ其訴ノ日ヨリ以來ノ
其人額ヲ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ贈遺ヲ為シタル者ニ償還ス可シ

第九百五十九條 贈遺ノ為メナシタル贈遺ハ恩殺ヲ忌ムルヲ以テ之ヲ廢棄ス可カラズ
第九百六十條 子及ヒ卑屬ノ親ナキ者ノ為シタル生存中ノ贈遺ノ證書ハ其贈遺ノ財産ノ價ト其贈遺ノ名義トノ如
何ナルヲ問ハス又其贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ剛謝ノメノ之ヲ為シ又ハ婚姻ノ為メ之ヲナシタルト雖モ贈遺ヲ為シ
タル者ノ生存中又ハ死後ニ其嫡出ノ子ノ生レシ時又ハ其贈遺ヲ為シタル後ニ生レタル私生ノ子ヲ後ノ婚姻ニ因
テ嫡出ノ子ト認メタル時ハ別ニ裁判ヲ行ハサズト雖モ其證書ヲ廢棄ス可シ但シ其親屬ノ親ヨリ其卑屬ノ親ト
ル夫婦ノ者ニ為シ又ハ夫婦ノ互ニ為シタル贈遺ハ格別ナリトス
第九百六十一條 贈遺ヲ為ス時其子既ニ母ノ胎内ニアリシ時ト雖モ其子ノ出生シタルニ因リ亦前條ニ記スル所ノ
如ク贈遺ノ證書ヲ廢棄ス可シ

第九百六十二條 若シ贈遺ヲ為シタル者ノ子出生シタル後贈遺ヲ受ケシ者猶其贈遺ノ財産ヲ所有シ且贈遺ヲ為シ
タル者之ヲ拒ヤサル時ト雖モ亦其贈遺ノ効ナカレ可シ但シ此場合ニ於テハ贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ノ
子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ後ノ婚姻ニ因テ嫡出ノ子ト認メタル事ノ相當ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ後ニ其
贈遺ノ財産ヨリ得タル利益ヲ還與ス可ク又贈遺ヲ為シタル者其子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ嫡出ノ子ナリ
ト認メタル事ヲ贈遺ヲ受ケシ者ニ報告シタル後ニ其贈遺ノ財産ヲ取戻サント訴ヘタル時モ亦其報告後ニ其財産
ヨリ得タル利益ヲ還與ス可シ

第九百六十三條 廢棄シタル贈遺ノ證書中ノ財産ハ其贈遺ヲ受ケシ者其財産ニ付キ擔當シタル負債及ヒイボテ
ル負債ヲ擔當シテ之ヲ贈遺ヲ為シタル者ニ還ス可ク其贈遺ヲ受ケタル者其嫡出ノ嫁資ヲ還ス事又ハ嫡出ノ共通シテ
ル財産ノ一部ヲ其嫡出ノ事又ハ其他婚姻ノ契約ノ如ク行フ事ノ為メニ決シテ其贈遺ノ財産ヲ用フ可カラズ但
シ其贈遺ヲ為シタル者贈遺ヲ受ケシ者ノ婚姻ノ為メ其財産ヲ贈與シテ其旨ヲ婚姻ノ契約書中ニ附記シ且ツ贈遺
ヲ為シタル者其贈遺ノ財産ヲ取テ必ズ婚姻ノ契約書ノ如ク行ハシム可ク保證者タル時ト雖モ亦前ニ記シタル所
ニ準テカレ可シ

第九百六十四條 廢棄シタル贈遺ノ證書ハ其贈遺ヲ為シタル者ノ子死去スルト雖モ又ハ贈遺ヲ為シタル者贈遺ヲ
受ケシ者ニ其儘其財産ヲ與ヘ置テ可キノ證書ヲ記シタルト雖モ再ヒ其効ヲ生スルヲナカル可シ若シ其贈遺ヲ為
シタル者其廢棄シタル贈遺ノ證書中ノ財産ヲ其贈遺ヲ受ケシ者ニ是迄ノ如ク再ヒ與ヘント欲スル時ハ其出生シ
タル子ノ死生ニ管セズ更ニ新ニ其財産ヲ贈遺スルノ證書ヲ記ス可シ

第九百六十五條 贈遺ヲ為ス者縱令子ノ出生スルヲアリトモ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セサル可シトノ契約ハ全ク其効
ヲナカル可シ
第九百六十六條 贈遺ヲ受ケタル者又ハ其遺物相續人又ハ其嫡出ノ子又ハ其他贈遺ノ財産ヲ占有スル者ハ其財
産ヲ三十年間占有シタル後ニ非ハ贈遺ヲ為シタル者ノ子ノ出生シタルニ因リ其効ヲ失フタル贈遺ノ證書中ノ

財産ヲ已レテ所有ト爲サントシテアレスクリアンシテ述アルコトヲ得ス但シ其三十年ノ期限ハ贈遺ヲ爲シタル者
ノ死後ニ生レシ子ト雖モ其季子ノ生レシ日ヨリ之ヲ算計シ若シ其占有者其期限間ニ其所有ノ權ヲ付テテ訴訟ヲ
受ケル時ハアレスクリアンシテノ權ヲ失フ可シ

○第五章 遺囑ノ贈遺

○第一款 遺囑ノ贈遺ノ法式ニ付テテノ總規則

第九百六十七條 如何ナル人ト雖モ別段相續人ヲ任スルノ名義又ハ死後ノ贈遺ノ名義又ハ其他自己ノ意ヲ表スル
名義ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得可シ
第九百六十八條 二人以上ニテ他人ノ爲メ贈遺ヲ爲スノ名義又ハ相互ニ贈遺ヲ爲スノ名義ヲ用ヒ一通ノ證書ヲ以
テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得

第九百六十九條 遺囑ノ贈遺ノ證書ハ遺囑者自筆ノ書又ハ公正ノ書又ハ秘密ノ書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ
第九百七十條 遺囑者自筆ノ贈遺ノ證書ハ其者其全文年月並ニ自己ノ姓名ヲ手記シタルニ非レハ其効ナカル可シ
但シ其他ノ法式ハ之ヲ用フルニ及ハス

第九百七十一條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書トハ證人二人ノ面前ニテハタイル二人ノ之ヲ公證シ又ハ證人四人ノ面前
ニテハタイル二人ノ之ヲ公證シタル書ヲ云フ
第九百七十二條 ハタイル二人ニテ公正ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ公證シタル時ハ遺囑者其ハタイル二人ニ遺囑贈遺ノ
文ヲ口授シハタイル中ノ一人其口授ノ如ク之ヲ筆記ス可シ

ハタイル二人ノミナル時モ亦其遺囑者遺囑贈遺ヲ爲ス文ヲ口授シテ其ハタイル二人ノ之ヲ筆記ス可シ
此二箇中何レノ場合ニ於テモハタイル二人ノ筆記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ證人ノ面前ニテ其遺囑者ニ讀ミ聞ス可シ
此等ノ諸事ヲ行ヒシ事ハ別段其證書中ニ附記ス可シ
第九百七十三條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者已レノ姓名ヲ手書ス可シ若シ遺囑者手書スルコトヲ知ラズ又ハ手

署スルコト法ハサハル旨ヲ述フル時ハ其述フル所ト手書スルコト能ハサルノ原由ニ其證書中ニ附記ス可シ
第九百七十四條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ証人其姓名ヲ手書ス可シ但シ村邑ニ於テハハタイル二人其遺囑者ノ公證
スル時ハ證人二人中ノ一人其姓名ヲ手書スルコト以テ足レトス又ハハタイル一人ノ之ヲ公證スル時ハ證人四人ハタイ
ル二人其姓名ヲ手書スルコト以テ足レトス
第九百七十五條 凡ソ遺囑ノ贈遺ノ受ケル者又ハ其者ノ第四級ニ至ル迄ハ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ其者ノ公證スル
ハタイル二人ノ書記役ハ公正ノ遺囑者ノ證人タル可カラズ
第九百七十六條 遺囑者秘密ノ遺囑書ヲ作ラント欲スル時ハ自カテ其遺囑書ヲ記シタルト他人ヲシテ之ヲ記セ
ルハタイル二人ノ間ハ遺囑者其遺囑書ニ自己ノ姓名ヲ手書ス可シ
○其遺囑書ヲ記シタル紙又封紙ヲ用ヒシ時ハ其封
紙ニ封ヲ爲シテ印ヲ押シ可シ
○遺囑者ハ其遺囑書ニ上ノ如ク封ヲ爲シ且印ヲ押シテハタイル一人ト證人六人以
上トシ之ヲ渡シタル上又ハ其ハタイル二人及ビ證人ノ面前ニテ其遺囑書ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上其紙上ニ記
スル所ハ自カテ其文ト姓名トヲ記シタル遺囑書シルコト又ハ他人ヲシテ其文ヲ記セシノ自カテ其姓名ヲ記シタル遺
囑書シルコトヲ述テ可シ然レバ其申述ノ旨ヲ其紙又ハ封紙ノ表ニ記シハタイル二人及ビ遺囑者並ニ各證人
皆自己ノ姓名ヲ其表書ニ手書ス可シ
○此等ノ諸事ハ相繼テ之ヲ爲ス可シ其時間他ノ證書類ノ取扱ニ移ル可カラ
ズ若シ遺囑者其遺囑書ニ姓名ヲ手書セシ後其文ノ生スルコトヲ表書ニ其姓名ヲ手書スルコト能ハサル時ハ其自
己ノ申述ヲ附記ス可シ但シ此場合ニ於テ別ニ證人ノ數増スニ及ハス
第九百七十七條 若シ又遺囑者元來自己ノ姓名ヲ手書スルコトヲ知ラズ又ハ遺囑者ヲ他人ニ記セシノ時其姓名ヲ
手書スルコト能ハサル場合ニ於テハ表書ニ姓名ヲ手書ス可シ但シ前條ニ記シタル證人ノ定員外ニ更ニ證人八人ヲ
呼出シ其證人他ノ證人ト共ニ表書ニ其姓名ヲ手書ス可シ但シ此場合ニ於テハ別段其證人ヲ呼出シタル原由ヲ表
書ニ附記ス可シ
第九百七十八條 文字ヲ讀ムコトヲ知ラサル者又ハ文字ヲ讀ムコト法ハサル者ハ秘密ノ遺囑書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲

第九百九十四條 航海旅行中、雖佛蘭西官史ノ在留メル外國ノ領地又ハ佛蘭西ノ領地ニ着船シタル後遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタルニ於テハ其贈遺ノ證書ヲ海上ニテ記シタルモノト看做ス可カラズ但シ此場合ニ於テハ佛蘭西ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ又ハ其贈遺ノ證書ヲ記シタル外國ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ之ヲ記シタル其効ナカル可シ

第九百九十五條 前數條ニ記載シタル規則ハ船ノ乘組人ニ非ナル通常ノ旅客ノ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニモ亦通シテ用フル可シ

第九百九十六條 第九百八十八條ニ記シタル法式ヲ用ヒ海上ニテ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者海上ニテ死去シタル時又ハ通常ノ法式ヲ用ヒ之ヲ改記スルコトヲ得可キ地上陸シタルヨリ三月内ニ死去シタル時ノ外其効ナカル可シ

第九百九十七條 海上ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時ハ船ノ士官及ヒ船中ニテ職務ヲ爲ス者ノ爲メ其贈遺ヲ爲ス可カラズ但シ此等ノ者其贈遺ヲ爲ス者ノ親族タル時ハ格別ナリトス

第九百九十八條 此條ノ前數條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者ト其證書ヲ公證スル者ト其姓名ヲ手書ス可シ若シ遺囑者姓名ヲ手書スル事ヲ知ラス又ハ手書スルコト能ハサル旨ヲ述フル時ハ其述フル所ト其手書スルコト得タル理由ヲ附記ス可シ

第九百九十九條 外國ニ在ル佛蘭西人ハ第九百七十七條ニ記シタル如ク自筆ノ私書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ其國ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ記シタル公正ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千條 外國ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタル佛蘭西人ノ住所現時佛蘭西國內ニ在ル時ハ其住所ノ官署ノ簿冊ニ其證書ヲ登記シタル後若シ又其住所現時佛蘭西國內ニテラナル時ハ人ノ通知シタル佛蘭西國內ニテ最終ノ住所ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後ニ非レハ佛蘭西國內ニ在ル財產ニ付キ其證書ノ如ク執行フコトヲ得ス又其遺囑ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後ニ非レハ佛蘭西國內ニ在ル財產ニ付キ其證書ノ如ク執行フコトヲ得ス又其遺囑

贈遺ノ證書ニ佛蘭西國內ニアル不動産ヲ贈遺ト爲スコト記シタル時ハ前文ニ記スル所ノ外更ニ其不動産所在ノ地ノ官署ノ簿冊ニモ亦其證書ヲ登記スルコトヲ必要トス但シ斯ノ如ク其證書ヲ二箇ノ簿冊ニ登記スルト雖モ二倍ノ税銀ヲ出タスニ及ハス

第一千一條 此條及ヒ前條ノ規則ニ循ヒ請假ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ記ス可キ法式ハ必ス之ヲ遵守ス可シ若シ之ヲ遵守セザル時ハ其證書ノ効ナカル可シ

佛蘭西民法第六十條

文部少博士 兼作 譯

○第三條 遺囑贈遺ノ證書ノ種類

第一千二條 遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者ノ財產ノ全部ニ關係シ又ハ其財產中ノ別段指定メサル一部ニ關係シ又ハ其財產中ノ別段指定メタル物品ニ關係ス

遺囑贈遺ノ證書ハ如何ナル名義ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ問ハス遺囑者財產ノ全部ノ贈遺其財產中ノ別段指定メサル一部ノ贈遺其財產中ノ別段指定メタル物品ノ贈遺ニ付キ後ニ記載スル規則ニ循其効ヲ生ス可シ

○第四條 財產全部ノ遺囑贈遺ノ證書

佛蘭西民法第七

第一千三條 財産全部の遺囑贈遺ノ證書トハ遺囑者ノ死去スル時其遺留スル財産ノ全部ヲ一人又ハ数人ニ贈與スル遺囑ノ證書ヲ云フ

第一千四條 遺囑者死去ノ時法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ相續人アル時ハ其相續人遺囑者ノ死去ニ因リ其財産ノ全部ヲ皆自己ニ收受ス可シ但シ遺囑者ノ財産全部ノ贈遺ヲ受ク可キ者ハ其相續人ヨリ此遺囑贈遺ノ財産ノ引渡ヲ得シト許シ得可シ

第一千五條 此場合ニ於テ財産全部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者遺囑者ノ死去セシヨリ一年内ニ相續人ヨリ其財産ノ引渡ヲ得シト許スル時ハ遺囑者死去ノ日ヨリ以來ノ其財産ノ利益ヲ所得ト為スヲ得可シ若シ然サレハ其引渡ヲ許ヘタル日又ハ遺物相續人其財産ヲ其贈遺ヲ受ク可キ者ニ引渡スヲ承継シタル日ヨリ以來ノ入額ヲ所得ト為スヲ得可シ

第一千六條 遺囑者ノ死去シタル時法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人アラザル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受ク可キ者遺囑者ノ死去ニ因リ即時ニ其財産ヲ所有ト為ス可キノ權アリ

第一千七條 遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其書中ニ記載シタル如ク執行フ前ニ其遺物相續人ノ為スル地ヲ管轄スル下等裁判所ノ上席人ニ之ヲ差出ス可シ○此證書ノ證書ニ封印アラハ其上席人ノ之ヲ開封シ且ツ其證書ヲ差出シタル日及ヒ開封シタル事ト遺囑贈遺ノ模倣トヲ調査ニ記シテ預ケル事ハ前ニ記スル所ト同一タル可シ但シ其開封ハ其證書ノ表書又秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ其上席人開封ヲ為シ且其差出シタル事及ヒ開封ノ事ト遺囑贈遺ノ模倣トヲ調査ニ記シテ預ケル事ハ前ニ記スル所ト同一タル可シ但シ其開封ハ其證書ノ表書ヲ記シタル日テイルト姓名ヲ記シタル證人トノ面前ニ非レハ之ヲ為ス可カラス若シ又其日テイル又ハ證人其場ニ在サル時ハ之ヲ呼出シテ出席シタル上又ハ呼出シテ出席セザル上ニテ開封ス可シ

第一千八條 第一千六條ニ記シタル場合ニ於テ遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ秘密ノ證書アル時其財産全部ノ贈遺ヲ受ケル者其財産ヲ自己ニ收受セント欲スルニハ此等ノ證書ヲ預ケタル旨ヲ記セシ書面ヲ添ヘテ其願

書ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ上席人ヨリ其允許ノ旨ヲ覆書ニ附記シ之ヲ證トシテ其財産ヲ收受スルヲ得可シ

第一千九條 遺囑者ノ財産全部ノ贈遺ヲ受ケル者法律上ニテ必ス遺囑者ノ財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人ト共ニ其財産ヲ分ツ時ハ其自己ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ負債ヲ擔當シ又其得タル不動産ノ割合ノ負債ハ一身ニ之ヲ擔當シ且他ニ遺囑ノ贈遺ヲ受ケ可キ者アラハ其者其贈遺ノ財産ヲ液ス可シ但シ第九百二十六條及ヒ第九百二十七條ニ記スル如ク減少ス可キ贈遺ノ財産ハ之ヲ液スニ及ハス

○第五款 財産中ノ別段指定ノサレ一部ノ遺囑贈遺ノ證書
第一千十條 財産中ノ別段指定ノサレ一部ノ遺囑贈遺ノ證書トハ遺囑者其財産ノ半ハ又ハ三分ノ一又ハ其不動産ノ全部又ハ其動産ノ全部又ハ其不動産又ハ動産ノ一部等ノ如ク總テ法律上ニテ贈遺ト為スヲ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈遺スル證書ヲ云フ

其他ノ遺囑贈遺ノ證書ハ皆財産中ノ別段指定ノサレ物品ノ贈遺ノ證書ナリトス
第一千十一條 財産中ノ別段指定ノサレ一部ノ遺囑贈遺ヲ受ケル者ハ法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人ヨリ得可キ財産ノ引渡ヲ求ム可シ若シ其相續人アラザル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受ケル者ニ其引渡ヲ求ム可シ若シ又其全部ノ贈遺ヲ受ケル者アラザル時ハ此篇ノ第一卷 遺物相續ニ定メタル順序 第七百三十一ヲ以テ遺物相續ヲ為ス可キ者ニ其引渡ヲ求ム可シ

第一千十二條 財産中ノ別段指定ノサレ一部ノ遺囑贈遺ヲ受ケル者ハ其全部ヲ受ケ者ノ如ク其自己ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ負債ヲ擔當シ又其得タル不動産ノ割合ノ負債ハ一身ニ之ヲ擔當ス可シ
第一千十三條 遺囑者其財産中ノ別段指定ノサレ一部ノ遺囑贈遺ノ名義ヲ以テ其贈遺ト為スヲ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈與シタル時ハ其贈遺ヲ受ケル者當然ノ遺物相續人ト共ニ其得タル財産ノ割合ヲ以テ遺囑者財産中ノ別段指定ノサレ物品ノ贈遺ヲ受ク可キ者ニ其物品ヲ引渡スヲ擔當ス可シ

第六款 遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈與

第一千十四條 凡ソ別段ノ約束ナキ遺囑ノ贈與アル時ハ其贈與ノ受クル者遺囑者ノ死去セシヨリ其贈與ノ財産ヲ所有スルノ權アリ但シ此權ハ贈與ヲ受クル者ノ遺物相續人及ヒ其代權者ニ之ヲ傳フルコトヲ得可シ
然レ遺囑者ノ財産中ニテ別段指定メタル品物ノミノ贈與ヲ受クル者ハ第一千十一條ニ定メタル順序ニ從ヒ己ノ得可キ財産ノ引渡ヲ前ニタル日又ハ其財産ヲ引渡ス可キ者ノ意ヲ以テ之ヲ引渡スコトヲ承諾シタル日ヨリ後ニ非レバ其贈與トシテ受ケタル財産又ハ權利ヲ己ニ收受スルコトヲ得且其財産又ハ權利ヨリ生ズル利益ヲ得ント求ムルコトヲ得ス

第一千十五條 然レ左ノ場合ニ於テハ遺囑ノ贈與ヲ受クル者別ニ訴ヲ為サスシテ遺囑者死去ノ日ヨリ其得可キ財産又ハ權利ヨリ生ズル利益ヲ所得ト為スコトヲ得可シ

第一 遺囑者其遺囑書中ニ別段其意ヲ記入シタル時

第二 平生間ノ年全ヲ得可キ權ヲ養料ノ名義ヲ以テ遺囑ノ贈與ト為シタル時

第一千十六條 遺囑ノ贈與ヲ受クル者其贈與ノ財産ノ引渡ヲ前ニタル費用ハ遺物相續人ノ相續ス可キ遺物中ヨリ之ヲ差引可シ然レ法律上ニテ必ズ遺物ノ一部ヲ受ケ可キ者ノ為メ遺囑者ノ財産ノ一部ヲ是カ為メ減スルコトヲ得ス
然レ遺囑贈與ノ贈與中ニ別段ノ約定アル時ハ前項ト異ナリトス

第一千十七條 遺囑者ノ遺物相續人又ハ其他遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈與ヲ引渡ス可キ者ハ各其得可キ財産ノ割合ヲ以テ動産ノ贈與ヲ引渡スコトヲ擔當ス可シ

第一千十八條 遺囑贈與ノ財産ハ遺囑者ノ死去セシ時ノ模樣ノ儘其必要ナル附從物ト共ニ之ヲ引渡ス可シ

第一千十九條 不動産所有ノ權ヲ遺囑ノ贈與ト為ス證書ヲ記シタル者後ニ其不動産ノ大サヲ増加シタル時ハ其增加シタル部分モ亦贈與ス可キ旨ヲ記シタル贈與ノ證書アル時ハ格別ナリトス
又遺囑ノ贈與ト為セン不動産ニ添フタル裝飾物又ハ新ニ為シタル造營又ハ遺囑者新ニ圖ヒ入タル不動産ハ前項ト異ナリテ其遺囑贈與中ノ一部ナリト看做ス可シ

第一千二十條 若シ遺囑贈與ノ證書ヲ記スル前又ハ其後其遺囑者贈與ト為ス可キ不動産ヲ自己ノ負債ノ質ト為シタル時又ハ其不動産ヲ他人ノ負債ノ質ト為シタル時又ハ他人ニ其不動産ノ入額所得ノ權ヲ與ヘタル時ハ後ニ其不動産ヲ贈與ヲ受クル者ニ引渡ス可キ相續人又ハ其他ノ者其質ヲ受戻スニ及ハス又ハ入額所得ノ權ヲ取戻スニ及ハス其儘之ヲ引渡ス可シ但シ遺囑者其質ノ受戻シ又ハ入額所得ノ權ノ取戻シヲ為ス可キコトヲ別段其遺囑贈與ノ證書ニ記シタル時ハ格別ナリトス

第一千二十一條 若シ遺囑者他人ニ屬スル財産ヲ贈與ト為シタル時ハ其遺囑者其財産ノ己ニ屬セザルヲ知リタルト否トヲ問ハス其贈與ノ効ナカル可シ

第一千二十二條 遺囑者其贈與ノ種類ヲ定メ其品物ヲ定メザル時ハ其遺物相續人其遺囑ノ贈與ヲ受クル者ニ最モ良好ノ質アル財産ヲ渡スニ及ハス又最モ廉潔ノ質アル財産ヲ渡ス可カラズ

第一千二十三條 債主ニ與フル遺囑ノ贈與ハ負債ノ償ナリト看做ス可カラズ又債主ニ與フル遺囑ノ贈與ハ借金ノ償ナリト看做ス可カラズ

第一千二十四條 遺囑者ノ財産中ニテ別段指定メタル品物ノ贈與ヲ受クル者ハ遺囑者ノ負債ヲ拂フニ及ハス但シ其贈與トシテ得タル不動産ニ付キテ別段其意ヲ表示シタル債主ヨリ遺囑者債ヲ拂フ可キノ訴ヲ受ケタル時ハ之ヲ拂フ可

第百七十七條 又其贈遺ヲ受ケタル者ハ前ニ
第百七十八條 記シタル如ク其時ノ模樣ニ因リ其贈遺ノ財産ヲ派セラルル
テアル可シ

○第七款 遺囑者ノ托ヲ受ケ遺囑ノ諸事ヲ管理スル者

第一千二十五條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理スル者一人又ハ數人ヲ任スルコトヲ得可シ
第一千二十六條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理スル者ニ已ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ委託スル事ヲ得可シ然レ其委託
ハ其遺囑者ノ死去セシ時ヨリ一年有一日ノ時間ニ過ク可カラズ
遺囑ノ諸事ヲ管理スル者其委託ヲ受ケサル時ハ之ヲ受ケント訴フ可カラズ

第一千二十七條 遺物相續人死者ノ遺囑贈遺ノ財産ヲ贈遺ヲ受ケタル者ニ渡シ可キコトヲ證スル爲メ十分ナル金高ヲ其
管理者ニ預ケタル時又ハ既ニ自カラ其遺囑贈遺ノ財産ヲ贈遺ヲ受ケタル者ニ渡シタルコトヲ證スル時ハ其管理者皆
テ遺囑者ヨリ委託ヲ受ケル動産ノ遺物相續人取戻スコトヲ得可シ

第一千二十八條 契約ヲ爲スコト能ハサル者ハ遺囑ノ管理者トナルコトヲ得ス
第一千二十九條 婚姻シタル婦ハ其夫ノ許諾ヲ得ルニ非レバ遺囑管理ノ任ヲ受ケルコトヲ得ス

若シ婚姻ノ契約又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ婦其夫ト財産ヲ分チタル時ハ其婦其夫ノ許諾ヲ得テ遺囑管理ノ任ヲ受
ケ又夫ノ之ヲ許諾セサル時ハ第二百七十七條及第二百十九條ノ條ニ記スル所ニ備ヒ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ
テ其任ヲ受ケルコトヲ得可シ

第一千三十條 知者ハ後見人又ハ信託人トシテ許諾ヲ得ルト雖モ遺囑管理ノ任ヲ受ク可カラズ
第一千三十一條 遺物相續人中ニ知者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケン者又ハ失踪者アル時ハ遺囑ノ管理者其遺物ノ財産ニ封
印ヲ爲メノ手續ヲ爲ス可シ

此場合ニ於テハ其管理者知者又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者又ハ失踪者ヲ除キテ遺囑者最近ノ親族タル遺物相續人ノ
面前ニテ又其相續人ヲ法ニ備ヒ呼出シ出席セサル上ニテ遺物財産ノ目錄ヲ記シタルノ手續ヲ爲ス可シ

其管理者ハ遺囑贈遺ノ契約ノ如ク執行スル爲メ十分ナル金高ノテラサル時動産ヲ賣換ハシタルコトヲ得可シ
其管理者ハ遺囑ノ諸事ヲ執行スルコトヲ監督シ且其諸事ヲ行フニ付キ訴訟ノ生スル時ハ其訴訟ノ管涉シ遺囑者ノ如
ク執行ス可キコトヲ論辨ス可シ

第一千三十二條 遺囑者ノ死去シタルヨリ一年ノ後ニ至リ其行フタル諸事ノ算計ヲ爲ス可シ
第一千三十三條 遺囑管理ノ任ヲ受ケン者數人アル時ハ其中ノ一人他ノ管理者ニ代リ遺囑ノ諸事ヲ處置スルコトヲ得
可シ又其數人ノ管理者ハ其委託ヲ受ケタル動産ノ用法ヲ算計スルニ付キ皆連帯シテ其責ニ任ス可シ但シ遺囑者

其管理者數人ノ職務ヲ分チ且ツ其各人己ノ任ヲ得タル職務ノミヲ行フタル時ハ格別ナリトス
第一千三十四條 遺囑ノ管理者遺囑ノ財産ニ封印ヲ爲シ其財産ノ目錄ヲ記シ其行フタル諸事ノ算計書ヲ出スノ費用
及ヒ其他管理者ノ職務ヲ爲スニ付テノ費用ハ遺物ノ財産中ヨリ之ヲ償ス可シ

第一千三十五條 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スル事及ヒ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ事
第一千三十六條 後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ因リ又ハ遺囑者其意ヲ變更ヒシコトヲ
一ルノ面前ニテ記シタル公正ノ證書ニ因リ其全部又ハ一部ヲ廢スルコトヲ得可シ

第一千三十七條 後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ據リテ贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受ケルコトヲ能ハサルニ因リ又ハ其贈遺ヲ受ク可
キ者之ヲ受ケルコトヲ肯セサルニ因リ後ノ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ時ト雖モ其證書ニ從ヒ前ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ
廢棄ス可シ

第一千三十八條 遺囑者遺囑ノ贈遺ト爲ス可キコトヲ約シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ賣渡シタル時ハ縱令其賣
渡シ時後ニ之ヲ買戻スコトヲ得可キノ約定ヲ爲シタル時又ハ之ヲ賣渡シテ他物ト交換シタル時ト雖モ其賣渡シタル

賣渡シ時後ニ之ヲ買戻スコトヲ得可キノ約定ヲ爲シタル時又ハ之ヲ賣渡シテ他物ト交換シタル時ト雖モ其賣渡シタル

度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ隨意ニ爲スルヲ得又再度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ子ニ傳フ可キ事ヲ述ブルト雖モ初度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ隨意ニ爲スルヲ得ス

第十五十三條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル子又ハ兄弟姉妹其財産ヲ所有スル權ノ終リタル時ハ其權ノ終リタル理由ノ如何ナルヲ問ハズ此等ノ者其子ニ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ移ス可レ但シ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者其財産所有ノ權ノ終ハラサル中預メ其子ノ爲メ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ放棄スル雖モ其放棄ヲ爲ス前ニ自己ニ物件ヲ貸シタル債主ノ權利ヲ害スルコトナカル可レ

第十五十四條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ婦ハ其嫁資ヲ取戻スニ付キ其夫ノ自由ナル財産不足ナル時夫其子ニ傳フ可キ贈遺ノ財産ヲ以テ其嫁資ノ償ヲ得シト訴フルコトヲ得可レ但シ婦其訴ヲ爲シ得可キ場合ハ此贈遺ヲ爲レタル者其訴ヲ爲シ得可キ事ヲ別段預メ定メ置キタル時ニ限ル可ク其他ノ時ハ其訴ヲ爲スルコトヲ得ス

第十五十五條 前數條ニ記レタル贈遺ヲ爲ス者ハ其贈遺ノ證書又ハ其後ニ記スル公正ノ證書ヲ以テ其贈遺ノ約定ノ如何執行ヲ可キコトヲ監察スル管照者ヲ任ス可レ但シ其管照者ハ第一篇第十卷ノ第二章第六款ニ記載シタル理由アル時ノ外其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第十五十六條 贈遺者此管照者ヲ任セサル時ハ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者若シ又其者幼年ナル時ハ其後見人贈遺者ノ死去セレヨリ一月内ニ其管照者ヲ任シ又其死去ノ後ニ同上ノ贈遺ノ證書アルコトヲ知リタル時ハ其日ヨリ一月内ニ其管照者ヲ任ス可レ

第十五十七條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記セレ如ク管照者ヲ任セサル時ハ其贈遺ヲ受ケレ權利ヲ失フ可レ但シ此場合ニ於テ其贈遺ヲ受ケレ者ノ子丁年ナル時ハ其子ノ訴ニ因リ若シ其子ノ幼年ナル時又ハ治産ノ禁ヲ受ケレ時ハ其後見人ノ訴ニ因リ又其子ノ丁年幼年又ハ治産ノ禁ヲ受ケタルヲ問ハズ其子ノ親族ノ求ニ因リ又然ラザレバ遺物相續ヲ爲ス地ノ下等裁判所ノプロモリケルアンペリアルト申立ニ因

シ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ其子ニ移スルヲ得可レ

第十五十八條 前數條ニ記セレ遺囑贈遺ヲ爲レタル者ノ死去セシ後通常ノ法式ヲ以テ其遺囑贈遺ノ財産ノ目錄ヲ記ス可レ但シ其遺囑者ノ財産中ニテ別段指定シタル品物ノ遺囑ノ贈遺ナル時ハ其目錄ヲ記スルニ及ハズ○此目錄ニハレウブツ及ヒエツヘーモビリエールノ正當ナル評價ヲ附記ス可

第十五十九條 其目錄ハ贈遺ヲ受ケタル者此篇ノ第一卷ノ遺物相續ノ條ニ定メタル期限内ニ其贈遺ノ約定ノ如何執行ヲテ監察スル管照者ノ而前ニテ之ヲ記スル手續ヲ爲ス可レ但シ其目錄ヲ記スルニ付テノ費用ハ其贈遺ノ財産中ヨリ之ヲ差引ク可レ

第十六十條 贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記スル所ノ期限内ニ其目錄ヲ記スル手續ヲ爲サハル時ハ其翌月中ニ其贈遺ノ管照者贈遺ヲ受ケタル者ノ面前又其贈遺ヲ受ケタル者幼年ナル時ハ其後見人ノ面前ニテ其手續ヲ爲ス可レ

第十六十一條 若シ贈遺ヲ受ケタル者并ニ管照者前二條ニ記シタル如ク目錄ヲ記スル手續ヲ爲サハル時ハ第十五十七條ニ記シタル各人其贈遺ヲ受ケタル者又其者幼年ナル時ハ其後見人ト管照者トヲ呼出シ其面前ニテ其目錄ヲ記スル手續ヲ爲ス可レ

第十六十二條 贈遺ヲ受ケタル者ハ次ノ二條ニ記スル所ノ除外ノ外其贈遺ノ財産中ノ「ミワブル」及ヒ「エツヘー」モビリエールヲ定例ノ如ク附屬ノ爲レタル上雜費ニテ費拂フ可レ

第十六十三條 贈遺ノ契約書ニ品物ノ擔保存レ置ク可キコトヲ別段定メタル「ミワブル」及ヒ其他ノ動産ハ其贈遺ヲ受ケタル者之ヲ保存置キ候ニ之ヲ其子ニ傳フル時ニ至リ其時ノ景狀ノ儘之ヲ傳フ可レ

第十六十四條 土地ヲ耕スニ入用ナル獸類及ヒ器具ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ト爲レタル土地中ニ包含セレ物ト看做レ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者其獸類及ヒ器具ノ評價ヲ爲シ置キ後其子ニ其評價ノ價ニ等シキ代金ヲ傳フ可レ

第十六十五條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者ハ目錄ヲ成就シタル日ヨリ六月内ニ現ニ其贈遺

勿論其分派ヲ得ル子及ヒ車屬ノ親ト雖モ法律定例ニ依リ更ニ改メテ分派ヲ爲サント訴フルコトヲ得可レ

第七十九條 遺屬ノ親ノ爲レタル分派ニ付テ其子及ヒ車屬ノ親中ニテ其當然得ル部分ノ四分一以上損失ヲ受ケル時ハ其損失ヲ受ケル子及ヒ車屬ノ親其分派ヲ廢セんと訴フルコトヲ得可レ又分派ノ方法ト分派ヲ得ル者中一人ノ別段分派ヲ贈與シタルトテ因テ分派ヲ得ル者中一人ノ法律定例ニ依リ當然得ル部分ノ財產ヲ得ル時ハ他ノ分派ヲ得ル者ヨリ其分派ヲ廢セんと訴フルコトヲ得可レ

第八十條 前條ニ記シタル理由中ノ一ニ因リ車屬ノ親ノ爲レタル分派ヲ廢セんと訴フルコトハ財產評價ノ費用ヲ預メ出シ置テ可レ但レ其子其親ノ爲メノ遺理ヲ行ハル時ハ其評價ノ費用ヲ裁判所ノ費用ト拂フ可レ

第八十一條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦又ハ其婚姻ニ因リ生ス可キ子ヲ爲メニテ所ノ贈遺
第八十二條 現在所有スル財產ノ生存中ノ贈遺ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦又ハ其中一方ニ與ヘタル時ト雖モ遺言ニ依リ生存中ノ贈遺ニ付テ其舉ニ定メタル一般ノ規則ニ依リ可レ

第八十三條 夫婦トナラント欲スル者ノ父母又ハ其他ノ車屬ノ親及ヒ傍系ノ親又ハ親族ニ非サル者ト雖モ其死去スル時ニ遺留ス可キ財產ノ全部又ハ一部ヲ婚姻ノ契約ヲ以テ其夫婦ニ贈與シ若シ其贈遺ヲ受テ可キ夫婦其贈遺ヲ爲ス者ヨリ前ニ死去シタル時ハ其夫婦ノ間ニ生シタル子ニ其贈遺ノ財產ヲ贈與スルコトヲ得可レ

第八十四條 前條ニ記シタル種類ノ贈遺ハ其贈遺ヲ爲ス者其贈遺ノ財產中ニテ些少ノ部分ヲ除ク外總テ其財產ノ價ヲ得スレテ更ニ他人ニ贈與スルコトヲ得ナルコトヲ付テハ其贈遺ヲ廢ス可カラザルモノト爲ス可レト雖モ價ヲ得

第八十五條 前條ニ記シタル如ク贈遺ヲ爲ス者ノ現在所有スル財產ト被レテ所有ト爲スコトアル可キ財產トノ贈遺ヲ爲シタル時雖モ其贈遺ノ證書ニ其贈遺者ノ負債ヲ記シタル書面ヲ添テ付テハ其贈遺ヲ爲ス者ノ現在所有スル財產ト被レテ所有ト爲スコトアル可キ財產トノ贈遺ヲ爲ス者ノ死去シタル時ニ至リ當テ其贈遺ノ時贈遺者ノ現在所有セザル財產ノミヲ受ケ其贈遺者ノ後ニ所有ト爲レタル財產ヲ繼承スルコトヲ得可レ

第八十六條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦及ヒ其間ニ生ル可キ子ニ爲レタル贈遺ハ贈遺ヲ爲ス者ノ何人ナルカ問ハス贈遺ヲ受ケル者ヲ以テ贈遺ヲ爲ス者其負債ヲ區別シテ引受ケルル約定ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得又ハ其他贈遺ヲ爲ス者隨意ノ約定ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可レ但レ其贈遺ヲ受ケル者ハ其贈遺ノ財產ヲ繼承スルニ非レバ其約定

第八十七條 婚姻ノ契約ヲ以テ爲レタル贈遺ニ被レテ其中ノ一物又ハ定數ノ金高ヲ贈遺者後ニ已レテ欲スル所ニ隨ヒ取扱フ可キノ約定ヲ婚姻ノ契約ニ定メ置テ其贈遺者其一物又ハ其金高ヲ別段其欲スル所ニ隨ヒ取扱フ可キノ約定ヲ爲ス時ハ之ヲ贈遺ノ財產中ニ包含セシメント看做シテ贈遺ヲ受テ可キ者又ハ其遺物相續人ノ所有

第八十八條 婚姻ノ契約ヲ以テ爲レタル贈遺ハ其婚姻ヲ爲スル時其効ヲ生ズ可レ

第八十九條 第八十二條第八十四條第八十六條ニ記スル所ニ依リ夫婦中ノ一人ニ爲シタル贈遺ハ贈遺ヲ

受可夫又ハ婚並ニ其年屆ノ親贈遺ヲ為シタル者ヨリ前ニ死去シタル時其効ナカル可シ
第一千九十七條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦ニ為シタル贈遺ノ財産其贈遺者ノ隨意ニ為スヲ得可キ財産ノ定分ニ過ル時ハ
其贈遺ヲ為ス者ノ遺物相續ヲ始ムル時其贈遺ノ財産ヲ其定分ニ減ス可シ

第一千九十八條 婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦ニ為ス所ノ贈遺及ヒ婚姻ヲ結ビタル時間夫婦互ニ為ス所ノ贈遺
第一千九十九條 夫婦ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ其相當ト思量スル贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ之ヲ一方ヨリ一方ニ為ス事ヲ
得可シ但シ其贈遺ニ付テハ後ノ數條ニ記スル所ノ條件ヲ得可シ

第一千九十二條 夫婦其現在所有スル財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ生存中ノ贈遺ト為シ又ハ一方ヨリ一方ニ生存
中ノ贈遺ト為ス時ハ其贈遺ヲ受テ可キ夫又ハ婦其贈遺ヲ為ス配偶者ヨリ後ニ生存シタルニ非レハ其贈遺ノ効ナ
カル可キ旨ノ約定ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可カラズ且其贈遺ハ生存中ノ贈遺ニ付テ前ニ記シタル規則ニ循
テ可レ但シ同上ノ約定ヲ以テ贈遺ヲ為ス者ヲ別段婚姻ノ契約書ニ記シタル時ハ格別ナリトス

第一千九十三條 夫又ハ婦死去ノ時遺留スルノ財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ贈遺ト為シ第一千九十四條又ハ現
在所有スル財産トモテ所有ト為ス可キ夫又ハ婦其贈遺ヲ為シタル時ハ人ヨリ夫婦ニ為ス所ノ此種贈遺ノ贈遺者見合セ
テ付テ前章ニ定メ
タル規則ニ循テ可シ然レ其贈遺ノ財産ハ贈遺ヲ受テ可キ夫又ハ婦其贈遺ヲ為シタル時其配偶者ヨリ前ニ死シタル時
ハ其婚姻ニ因リ生レタル子ニ其財産ヲ傳テ可カラズ

第一千九十四條 若レ夫又ハ婦其死去スル時子及ヒ其年屆ノ親ヲ遺留セザルニ於テハ其隨意ニ為スヲ得可キ財産全
部ノ所有ノ權ト法律ニ循テ遺物相續人ヲ為シ第一千九十五條又ハ夫又ハ婦其贈遺ノ部分ノ入額所得ノ權トテ已レ
偶者ニ贈與ス可キテ婚姻ノ契約書ニ記シ又ハ婚姻ヲ結フ時ニ約束スルノ條件ヲ得可シ

又夫或ハ婦子及ヒ其年屆ノ親ヲ遺留スルニ於テハ其配偶者ニ已レ財産四分一ノ所有ノ權ト更ニ四分一ノ入額所得
ノ權トヲ贈與シ又ハ已レ財産ノ半ハノ入額所得ノ權ヲ贈與ス可キテ約束スルヲ得可シ

第一千九十五條 幼者ハ婚姻ヲ結フニ付キ其許諾ヲ得可キ者父母等ノ允許ト立會トヲ得サレハ婚姻ノ契約書ヲ以テ
夫婦ノ間ニ互ニ贈遺ヲ為シ又ハ一方ヨリ一方ニ贈遺ヲ為スヲ得但シ其允許ヲ得ケル上ハ法律ニ循ヒ丁年ノ
夫又ハ婦ヨリ其配偶者ニ贈與スル事ヲ許シタル條件ヲ贈與スルノ條件ヲ得可シ

第一千九十六條 婚姻ヲ結ビタル時間夫婦互ニ為シ又ハ一方ヨリ一方ニ為シタル贈遺ハ生存中ノ贈遺ト雖モ常ニ之ヲ廢棄ス
ルヲ得可シ
婦ハ夫ノ承諾又ハ裁判所ノ允許ヲ得ステテ其贈遺ヲ廢棄スルヲ得可シ
此贈遺ハ子ノ生レタルトテ以テ廢棄ス可カラズ

第一千九十七條 夫婦ハ生存中ノ贈遺ノ遺物ノ贈遺タルトテ間ハス唯一通ノ証書ヲ以テ互ニ贈遺ヲ為ス可カラズ
第一千九十八條 夫又ハ婦前婚ノ嫡出ノ子數人アリテ更ニ再婚ヲ結ビシ時ハ其前婚ノ嫡出ノ子中ニテ最少量ノ財
産ヲ得可キ者ノ部分ニ等シキ財産ノミテ其再婚ノ配偶者ニ贈與スルヲ得可シ又何レゾ場合ニ於テハ其再婚ノ
配偶者ニ贈與スルヲ得可キ部分ハ財産ノ四分一ニ過テ可カラズ

第一千九十九條 夫又ハ婦ハ如何ナル方法ヲ用フルノ間ハ其前ニ記スル所ノ規則第一千九十四條及ヒニ循ヒ其配偶者
ニ贈與スルノ得可キ財産ヨリ更ニ餘分ノ贈遺ト為スヲ得ス
偽テ名稱ヲ管ヘ又ハ他人ノ介入ヲ以テ夫又ハ婦其配偶者ニ為シタル贈遺ハ其効ナカル可シ

第一千百條 夫又ハ婦其配偶者ノ前婚ノ子ニ為シタル贈遺及ヒ夫又ハ婦其配偶者ニ遺物ヲ讓ル可キ親族ニ為シタル
贈遺ハ縱令其配偶者其親族ヨリ後ニ生存セスト雖モ之ヲ他人ノ介入ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可シ

○第三卷 契約及ヒ總テ契約ヨリ生スル義務千八百四年二月七日決定同月十七日布告

○第一章 前加規則

第一千一百一條 契約トハ一人又ハ數人ヨリ他ノ一人又ハ數人ニ對シ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シ又ハ或事ヲ為ササルノ義務ヲ行フ可キ約束ヲ云フ

第一千一百二條 契約ヲ結ビタル者ノ為ニ義務ヲ生スル時ハ其契約ヲ名ケテ雙務ノ契約ト云フ

第一千一百三條 甲ノ一人又ハ數人ヨリ乙ノ一人又ハ數人ニ對シテ義務ヲ生シ乙ノ一人又ハ數人ノ為ニ義務ヲ生スル事ナキ時ハ其契約ヲ名ケテ片務ノ契約ト云フ

第一千一百四條 甲者ヨリ乙者ニ與ヘタル物又ハ乙者ノ為ニ為シタル事ニ換ヘテ乙者ヨリ甲者ニ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シキ者ヲ互ニ契約シタル時ハ其契約ヲ名ケテ互易ノ契約ト云フ

第一千一百五條 意思ノ契約トハ甲者ヨリ乙者ニ全ク債ヲ得シテ利益ヲ與フル契約ヲ云フ

第一千一百六條 學價ノ契約トハ其契約ヲ結フ一方ノ者他ノ一方ヨリ得タル所ノ債トシテ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シ可キ義務ノ契約ヲ云フ

第一千一百七條 契約ハ特ニ固有ト名義アルモノト其名義ナキモノト問ハス此卷ニ記スル所ノ一般ノ規則ニ循フ可シ

或ル契約ノミニ管レタル規則ハ各其契約ノ卷ニ之ヲ記載シ商業ノ事ノミニ管レタル規則ハ商法中ニ之ヲ記載ス

○第二章 契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニ必要ナル條件

第一千零八條 契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニハ左ノ四件ヲ必要トス

義務ヲ行フ可キ者ノ承諾

契約ヲ為ス者其契約ヲ結ビ得可キ事

契約ノ目的タル定マリシ事物

義務ヲ生ス可キ法ニ適シタル原由

○第一款 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾

第一千零九條 錯誤ヲ以テ承諾ヲ為シタル時又ハ暴行ニ因リ已ムテ得入承諾ヲ為シタル時又ハ詭狀ヲ受ケテ承諾ヲ為シタル時ハ法ニ適シタル承諾アリトセス

第一千十條 契約ヲ結フノ目的タル事物錯誤シタル時ニ非サレバ其錯誤ヲ以テ契約ヲ廢棄スルノ原由ト為ス可キ事又契約ヲ結バント為ス人ノミテ錯誤シタル時ハ其錯誤ヲ以テ其契約ヲ廢棄スル原由ト為ス可キ事但シ契約ノ主要其人ニ在ル時ハ格別アリトス

第一千十一條 義務ヲ行フ可キ者トシテ契約シタル者人ヨリ暴行ヲ受ケ已ムテ得入承諾シタル時ハ其契約ヲ廢棄ス可シ但シ其暴行ヲ為シタル者其契約ニ因リ利益ヲ得ントスル者ト別人ナル時ト雖モ又同一アリトス

第一千十二條 精神ノ障害ヲ有シテ其身體及ヒ財產ニ現ニ許多ノ損害ヲ受ク可キ長懼ノ念ヲ生セシメシ時ハ暴行アリトス

此事ニ付テハ其脅迫ヲ受ケタル者ノ年齢男女果狀ニ著意ス可シ

第一千十三條 現ニ契約ヲ結フ者ニ對シ暴行ヲ加ヘタルニ非スト雖モ其配偶者又ハ其尊屬及ヒ卑屬ノ現ニ對シ暴行ヲ加ヘタル時ハ亦其契約ヲ廢棄ス可シ

第一千一百四條 卑屬ノ親尊屬親ヨリ現暴行ヲ受ケルニ非ラズニテ唯父母及ヒ尊屬ノ親ヲ長敬スルノ意ニ因リ契約ヲ結ビシ時ハ其長敬ヲ原由トシテ契約ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第一千一百五條 暴行ニ因リ契約ヲ結ビタル後其暴行ヲ受ケン者之ヲ明許又ハ黙許シ又ハ法律上ニテ其契約ヲ廢棄セんと欲ス可キ定期ヲ經過セシメタル時ハ其暴行ヲ以テ原由トシテ其契約ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第一千一百六條 契約ヲ為ス者ノ中甲者乙者ニ對シテ詐欺ヲ為シタルニ非ザレバ乙者尙モ初メヨリ其契約ヲ結ブコトナカル可キ事由ノ明白ナル時ハ其詐欺ヲ以テ契約ヲ廢棄スルノ原由ト為スルヲ得可シ

第一千一百七條 錯誤暴行詐欺ニ因リ結ビタル契約ト雖モ其儘之ノ廢棄ス可カラズ唯此卷ノ第五章第七款ニ記載スル所ノ場合ト方法トニ依リ之ヲ廢棄ス可キノ訴ヲ為スルコトヲ得可シ

第一千一百八條 契約ヲ結ビタル一方ノ者其契約ノ為ニ損害ヲ受ケル事アリト雖モ其契約ヲ廢棄ス可カラズ但シ此卷ノ第五章第七款ニ記シテ所行契約又ハ其款ニ記スル所ノ人ニ付テハ格別ナリトス

第一千一百九條 何ノ人ト雖モ縱ニ自己ノ為メノ外自己ノ名義ヲ以テ契約ヲ為ス可カラズ

第一千二百條 然レ甲者ハ丙者ヨリ乙者ニ對シテ行フ可キ義務ノ保證人トナルノ契約ヲ為スルコトヲ得可シ但シ丙者其義務ヲ行ハサル時ハ乙者其保證人タル甲者ニ對シテ債ヲ求ムルコトヲ得可シ

第一千二百一條 甲者自カラ乙者ト結ブ所ノ契約又ハ甲者ヨリ乙者ニ為ス所ノ贈遺ニ付キ丙者ノ利益トナル可キ契約ヲ為サント欲スル時ハ之ヲ為シ得可シ但シ此場合ニ於テ丙者其契約ニ因リ己ノ利益ヲ得ント欲スル旨ヲ述フル時ハ甲者其契約ヲ廢棄ス可カラズ

第一千二百二條 契約ヲ為シタル者ハ自己ノ為メト共遺物相續人並ニ代權人ノ為メトモ其契約ヲ為シタルモノト看做ス可シ但シ契約書ノ文中ニ之ニ及シタル事ヲ記シタル時又ハ其契約ノ標本ニ因リ之ニ及シタル事ヲ推知ス可キ時ハ格別ナリトス

○第二款 契約ヲ為ス者其契約ヲ結ビ得可キ事

第一千二百三條 法律上ニテ特ニ契約ヲ結ブ可カラサル禁アル者ノ外如何ナル人ト雖モ契約ヲ結ブコトヲ得可シ

第一千二百四條 契約ヲ結ブコトヲ得可キ者ハ

- 一 治産ノ禁ヲ受ケシ者
- 二 別段法律ニ定メタル場合ニ於テハ婚姻ヲ結ビタル時
- 三 其他總テ法律ニテ或ル契約ヲ結ブ可カラサルノ禁ヲ受ケシ者

第一千二百五條 幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者婚姻ヲ結ビタル時ハ別段法律ニテ定メタル場合ノ外自カラ契約ヲ結ブコトヲ得サル旨ヲ申述ヘ其既ニ結ビタル契約ノ廢棄セト求ムルコトヲ得ス

自カラ契約ヲ結ブコトヲ得可キ者ハ已ト契約ヲ結ビタル幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者婚姻シタル時ノ其契約ヲ結ブコトヲ得サル旨ヲ申述ヘ其既ニ結ビタル契約ノ廢棄セシト求ムルコトヲ得ス

○第三款 契約ノ目的タル定マリシ事物

第一千二百六條 契約ノ目的タル定マリシ事物ハ一方ヨリ一方對シテ為ス可キ事或ハ一方ヨリ一方ニ對シテ為ス可カラサル事ヲ以テ其目的トス

第一千二百七條 物件ヲ借用フル事又ハ物件ヲ寄有スル事ヲ以テ契約ノ目的ト為スルヲ得可キト爲ス其物件ヲ以テ契約ノ目的ト為スルヲ得可キガ如クナリトス

第一千二百八條 賣買ヲ為スルヲ得可キ物ニ非ザレバ之ヲ契約ノ目的ト為ス可カラズ

第一千二百九條 契約ノ目的ト為ス物ハ其種類ノ定マリタルコトヲ必要トス

第一千三百條 後ニ所有ト為ス可キ物ハ亦之ヲ契約ノ目的ト為スルヲ得可シ